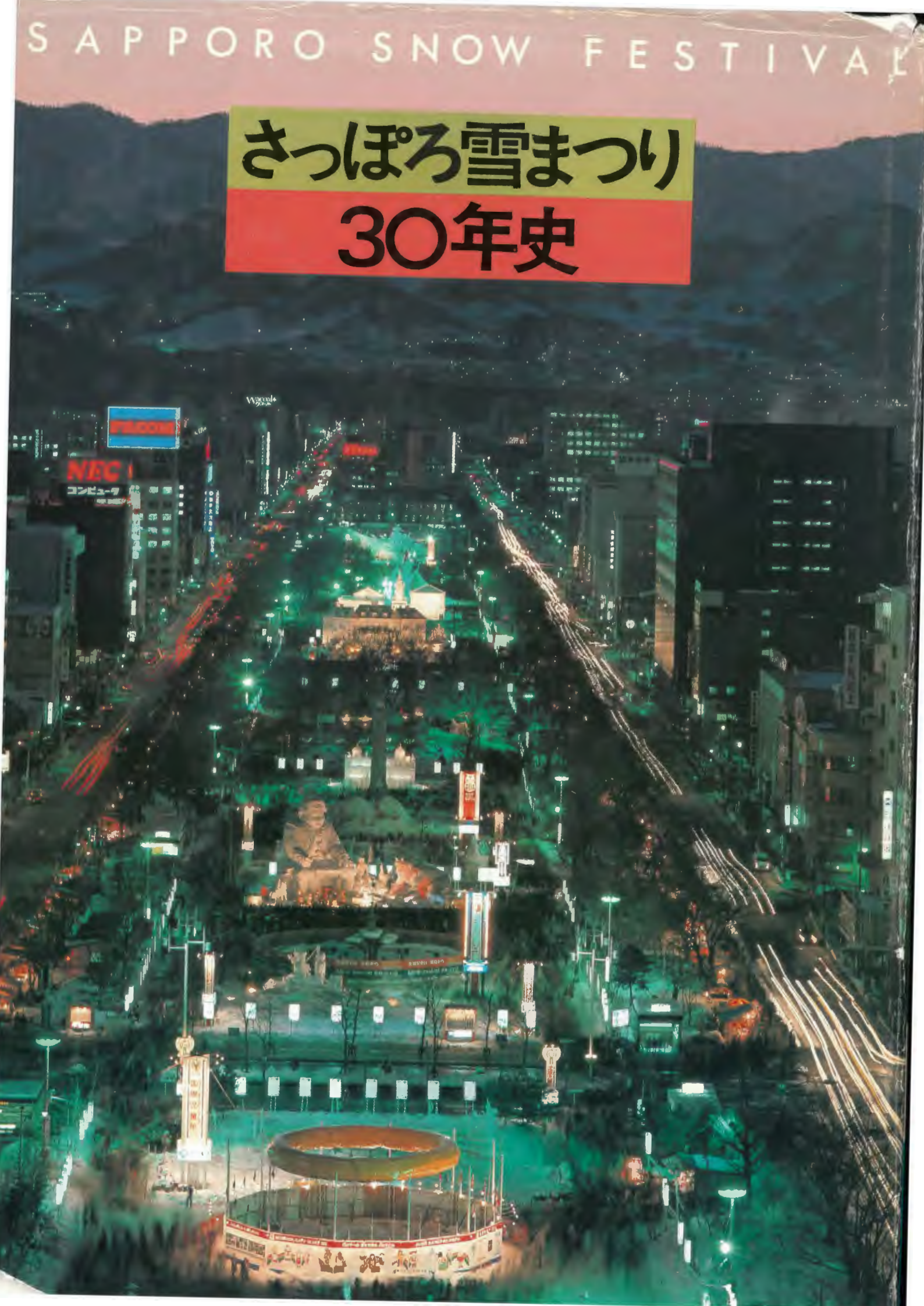


SAPPORO SNOW FESTIVAL

さっぽろ雪まつり
30年史



はばたく'79さっぽろの冬



第30回記念大雪像「雪の女神」は岡本太郎画伯のデザインによる





観客でにぎわった大通会場



桃太郎(大通 4 丁目)

宇宙戦艦ヤマト(大通10丁目・右)と氷像「サンピエトロ大寺院」(同5丁目・下)





大通全景(上)とポートランド広場(下)

熊本城(右)と銀河鉄道(下)ともに真駒内会場





ゴロンタ劇場(上)アラジンと魔法のランプ(下)ともに真駒内会場





30周年晴れの開会式



国際雪像コンクールで製作中のアメリカチーム(左)
市民の広場で最後の仕上げ(下)



市民の広場の子供たち

岡本太郎画伯も―前夜祭



ホワイトカーニバル(右)と雪まつりパレード(下)





年ごとに盛ん、さっぽろモードショー



第30回ポスターと記念バッヂ



湯のマチ定山溪温泉の花火大会(右)と定山溪会場(下)



ごあいさつ



さっぽろ雪まつり30年を顧みて



昭和二十五年、「第一回さっぽろ雪まつり」が開催されてから今年で第三十回を迎えるに至りました。思えば当時の市民生活は戦後の傷跡もいえぬまま、雪に閉された冬の暮しは暗く、ゆううつな日々を過さなければなりませんでした。

また札幌は、半年が雪下に埋もれるという北国特有の条件下にあって、雪とのかかわり合いを避けて通る訳には参りません。「雪」は人の暮しのなかで非常に迷惑な自然の摂理ではありますが、これを逆手にとり、この雪を利用して冬をエンジョイしようというのが雪まつりの起源でありました。

由来三十年、さまざまな曲折をのり越えて、世界的な行事に発展致しましたかげには、全市民の協力はもとより先輩諸賢、自衛隊、警察関係、報道機関等、多くの方々の支持があったからこそでした。

三十年史は「古きをあため、新しきを知る」意図をもって製作致したものでございますが、今後の雪まつりへの参考になればと存じます。また皆様のご支援に対し厚く御礼申し上げます。

札幌市長 板垣武四

さっぽろ雪まつり30年史発刊に当って



さっぽろ雪まつりは、いまや札幌の冬の風物詩というより、世界に誇るフェスティバルとして成長致しました。顧りみるにつけ、三十年という歳月の蔭には、このまつりの今日をつくりあげた幾多の先人の労苦が刻み込まれ、これらの人々の育くみの努力を讃えずして三十年の記録をひもどく事は出来ません。

雪を素材とした素朴な雪ダルマの初期の夢が、厳しい寒さに挑戦し、灰色の暗いイメージを克服して芸術化し、世界に冠たる幻想美の祭典を完成し得た北方の人々の英知にしみじみと打たれるのであります。

篤農家であり、思想家でもある黒沢西蔵先生は、かねてから積雪寒冷と闘う北方の人間は新しい人文科学を振興させるといふ「北方文化論」を主張されておられますが、雪まつりが、その裏付をもって存在するという意味から、私も黒沢説に心から共鳴するものであります。

三十年の大きな節目を迎えるに当り、その記念行事の一環として本誌を発刊するに至りました。今後の雪まつりの発展に寄与出来得れば幸いと存じます。

第三十回さっぽろ
雪まつり実行委員会 会長
町井道雄



目次

| | |
|-----------------------------|-----|
| カラーグラフはばたく'79さっぽろの冬 | 1 |
| 挨拶——板垣札幌市長…14 今井実行委会長…15 | |
| 北国讃歌—世界の仲間と | 18 |
| 光と影の妙 | 26 |
| 精巧さ—製作のころ | 34 |
| 郷愁への誘い—お伽の国 | 42 |
| 笑い、遊ぶ—市民の広場 | 48 |
| 華やかに2月の歓び | 54 |
| 大雪像完成まで | 58 |
| 思い出を手元に | 61 |
| さっぽろ雪まつり30年の歩み | 65 |
| 初期—起源・昭和25年(第1回)~29年(第5回) | 69 |
| 座談会—戦後の冬の暮しに一条の光を求めて | 80 |
| 中期・昭和30年(第6回)~41年(第17回) | 87 |
| 座談会—家族連れに人気の真駒内会場 | 103 |
| 後期・昭和42年(第18回)~54年(第30回) | 109 |
| 座談会—雪像は大きく舞台は世界へ | 131 |
| ぼくとわたしの雪まつり | 137 |
| 広がる国際親善の輪 | 142 |
| 特集・その時 | 145 |
| あとがき | 152 |



大通会場全景（第22回）

北国讃歌―世界の仲間と

カラフルなユニホームに身を包んで各国の若人たちがゆく。札幌オリンピックの開会式場、真駒内アイスアリーナ。その行進を静かに見下している大男がいた。世界の選手団を歓迎するために製作された高さ25メートルの大雪像、「ガリバーようこそ札幌へ」である。さっぽろ雪まつりの歴史の中盤で東京オリンピック、そして大阪万国博と世界的な催しが続く。その成功を祝う市民の心は雪の造形となって雪まつり会場を飾り、そして国際雪像コンクールという形で結実した。カメラはその歳月を追う。



札幌オリンピック冬季大会に集う世界の若者を歓迎してつくられた「ガリバーようこそ札幌へ」は高さ25メートルの史上最大の雪像である(第23回)



大通雪まつり会場のステージでは、「YOKOSO」の合言葉をバックに、札幌オリンピックを歓迎した(第23回)



アテネからリレーで運ばれて来た聖火は、道庁で一夜を明した後、大通雪まつり会場の一角、西八丁目に特設された聖火台に移され、開会の日を待つ。(集火式、上)雪まつり開会式で挨拶する板垣札幌市長。式には各国選手団も招待された(右、第23回)





オリンピックの開催が決ってから雪まつりの会場には「札幌オリンピックを成功させよう」と掲げた大雪像が並んだ。聖火を手にクマにまたがる金太郎もそのひとつである(第19回)



わが国が高度経済成長の頂点にさしかかっていた1970年大阪万国博が開催された。雪まつり会場には「カナダ館」(下真駒内) 氷像(大通) が展示された(第21回)





東京オリンピックが開かれたのは1964年である。それを記念して第15回雪まつりでは「オリンピックスタジアム」を製作した。雪像とは思えぬみことな出来栄で人びとの記憶に今も残る作品である。





—国際雪像コンクール—

雪を知らない国の若者もいる。互いに助け合い雪像製作に励むうちに愛がめばえて、雪まつり会場で結婚式を挙げたカップルもあった。「国際雪像コンクール」は、年を追うたびに盛んになっている。写真は前夜祭会場に勢揃いした各国チーム。

シャベルで大奮闘の女子選手(右)もっと細くしようかな(左)



期間が決められているため吹雪でも製作中止とはいかない。あとひと息と互いに励まし合いながら製作に打ち込む選手たち。



完成した作品は、それぞれにお国柄が出ていて楽しく、年ごとに技術の向上が目立つと主催者はいう。写真はケベック州（カナダ）チームの「パン焼風景」



厳正な審査で優勝チームを決める。苦勞して製作する雪像だけに、それが高く評価された喜びはひとしおである。

光と影の妙

これが本当に雪像なのだろうか、疑問もわいてくるほど、夜間照明に照し出される雪と氷の造形はみごとである。レンズは、その光と影の織りなす美しさをあくことなく追求し、冬の芸術の記録としてここにとどめた。雪下に埋もれること半年。凍土の歴史は厳しくつらい。だがその一ページにこのように美しい雪華の曲が旋律を奏で、そこに住む人びとの心を慰めてくれていることを知って欲しい。

「ひかり号で白雪姫がやってきた」(第21回)







手をふれるとカラカラ音が出そうな氷の造形。氷彫刻の粋を集めた(右、第26回)雪中花火大会。雪像が夜空にくっきりと描き出される(下、第23回)





テレビ塔の時計が6時37分を指す。1970年、第21回雪まつりに撮影した(左)20周年を記念して製作された「シヨウボート」(下)







氷像も年々大型化してきた。この像もその最たるもの（第29回）



「天安門と清晏船」(第24回)

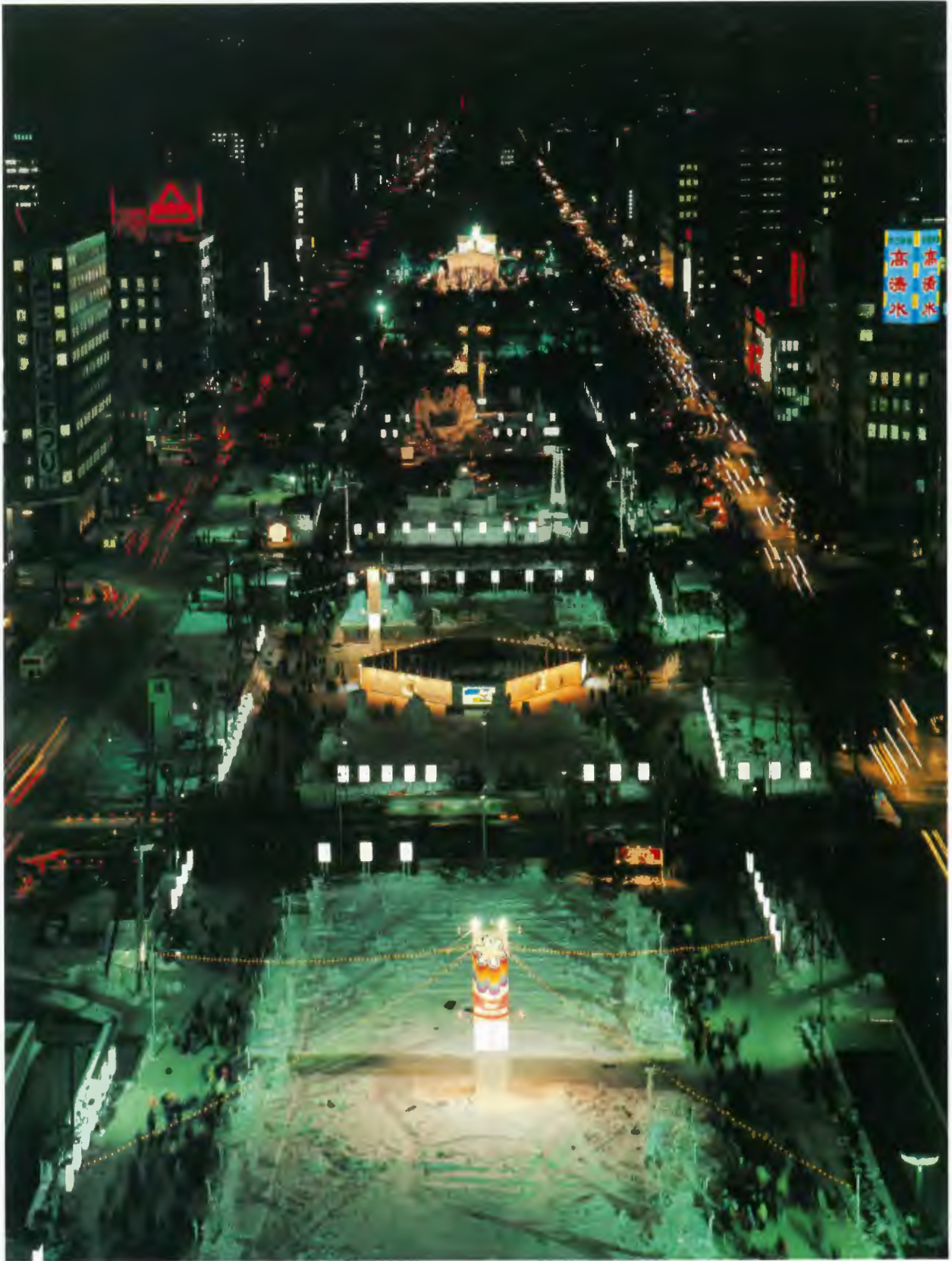
西遊記(第12回)



夕暮れの城(第14回)

オトギの城(第15回)





夜空に輝くイルミネーション。テレビ塔から見下す夜の雪まつり会場はそれだけで
いっぶくの絵である(大通会場, 第26回)

精巧さ—製作のころ

一本の線もゆるがせにはしない雪像製作。製作過程も入れるとじつに一月近い作業行程ではあるが、完成してからの「いのち、は、はかない雪のそれ」にも似てわずか一週間余と短い。雪まつりが終わると札幌のマチでは春の序曲が奏ではじめるのだ。



何度もモデルの写真を観察して、粘土でミニチュアの模形をつくったり、一基の像を完成するまで想像以上のち密な計算が繰り返される。みごとな造形「ウイーンの広場」(第26回)



大雪像「モナリザと凱旋門」の一部(第25回)



アメリカ合衆国建国200年にちなんだアメリカンスケェア(国会議事堂)(第27回)



青年よ大志を抱け、栄光のSL(第27回)



ミュンヘン市庁舎(第28回)



—日本の伝統—

仏像、歌舞伎、そして歴史上の人物など、雪まつりにわが国の伝統を模写した雪像も毎年登場する。仏像の前にはお年寄が供物を置いていくこともある。人は雪まつりで本ものの「ニッポン」を見るのであろうか。写真は高さ10メートルの「愛染明王」の像（第19回）





幽玄—「弁財天女尊像」(第22回)



歌舞伎「土蜘蛛」から(第24回)





川中島の合戦(第20回)

郷愁への誘い—お伽の国

雪まつりのメイン、大雪像のテーマを決めるのに、毎年、市内小、中校を対象にアイデアを求め、それを基礎にして像を製作する。最近ではテレビマンガや劇画などの応募が多くなったというが、一貫して人気を保っているのが童話、民話をモデルにして雪像をつくってほしいという声である。殺ばつとした世相であればそれだけに人びとは幼いころの郷愁にやすらぎを求めるのであろうか。雪まつりはそうした人の“こころ”をお伽の世界に託した。

みんなが知っている童話「舌切雀」や民話の登場人物にはどうしたわけかおじいさんが善人のばあいが多い。雪像はその表情をたくみにとらえた(第29回)







大黒さん(第29回)



花さかじいさん(第26回)



「ひかり号に驚く孫悟空」は新幹線の本道入りを祈念して製作された（第20回）



やまたのおろち(第28回)



「竜宮城」が製作された年は雪まつりも全国的な催しへとその名が高まっていた(第11回)

笑い・遊ぶ—市民の広場

明るい笑いがある。家族にボクらが作ったんだよと自慢する若者がいる。大通会場「市民の広場」は雪まつりの原点を見る思いだ。大通会場から一足遅れて開設された真駒内会場はファミリー向きに構成されている。スベリ台、ポニーと写そうなど遊びがふんだん。雪まつり—やっぱりみんなの冬のレジャーなのである。



ここ「市民の広場」は“素通り観光、ではない。じっくり見て、笑い転げて、みんなは雪まつりっていいな—と思うのである。



見つめられてちょっと恥しそう



ポパイ、オリーブどうも、どうも……



思わず苦笑……。



高いところから失礼



あんたかわいいネー



大雪像のスベリ台はいつも子供達の人気のマト。



新幹線でどこへ？(上)スーパーカーはエンジン付(中)もうすぐ春—お雑さ
まも雪まつり会場にお目見得した(下)



シャンシャン馬ソリは長沼町観光協会が協賛



ミニSLに乗って楽しもう(第23回)

華やかに2月の歓び

大雪像を“静、と表現するなら雪像を囲んで練りひろげられるさまざまな催しは“動、といえるだろう。市中パレード、氷上カーニバル、さっぽろモードショーと、その華やかな躍動美は、凍える2月の空にあまりにも鮮やかである。



雪まつりの開幕をつげる市中行進



子供たちのちょうちん行列



まつりだワッショイ



昭和39年東京オリンピックの開催された年の市巾行進(第15回)

雪空に勇壮な太鼓の響き





クス玉を割って晴れの開会式



雪像と似てる?(モードショー)



チビッコも登場



雪の結婚式



氷上カーニバル見物の子供たち



雪ん子に仮装して出演

大雪像完成まで

大雪像製作は12月に像のモデルが決められ、1月上旬から雪輸送の開始、約1ヵ月間作業が続けられ2月1日の開会2日前ころまでに総ての工程を終了させる。期間中は厳しい〝しばれ、との闘いでありそれだけに完成させた後の喜びは大きい。



みごとに完成した大雪像と人垣。ここまでの行程を逆進すると――。



雪と材木を運び込み…(1月9日)



ワクを組んで雪を詰め込む(1月4日)

ワクをはずすと全容が顔を出す(1月18日)





線一本にも細心の注意を(1月25日)

いよいよ最後の仕上げ(1月26日)



またツララが出来ちゃって…



もう少し深くミゾを掘ろうかな—

思い出を手元に

一枚のポスター、絵はがき、そしてひとつの小さなバッチにも、30年という長い雪まつりの足跡をたどることが出来る。それは、雪まつりに何らかの形でたずさわって来た人たちの歴史でもある。ここに初回のポスターなど思い出深いものを収録した。





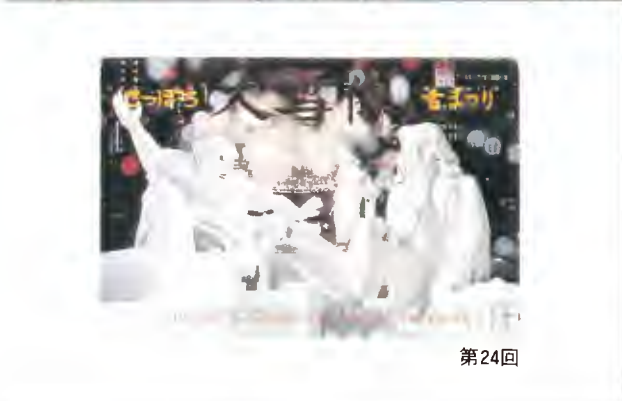
第11回



第10回



絵はがき





第28回



第27回



第18回



第27回



第25回



第29回



第26回



第26回



第29回



第28回



第26回



第29回



第27回



第13回雪まつりに製作された「布袋」(ほてい)像

わっぽる雪まつり30年の歩み

白の世界の幻想的なページェント「さっぽろ雪まつり」はこととして第三十回をかぞえた。

明るい冬の陽をあびて、雪氷像の広場を埋めた人びと。東南アジアなど海外からの客とわかる人たちもいて、その表情におどろき、感動の色をあらわに、おびただしい人の流れとともに動いていく。この記念すべき年にふさわしく画家、岡本太郎氏デザインの「雪の女神」が札幌の製作グループによって作られ、フアンタスティックな大雪像のまわりは、いつもあふれるような人波が押しかけていた。岡本氏は大阪万国博の太陽の女神、メキシコオリンピックの競技場大壁画で知られる国際的な芸術家であり、雪という短かいのちを素材にしたデザインは岡本氏にとっても初めてのことであったが、さっぽろ雪まつり実行委員会（会長、今井道雄札幌観光協会会長）の依頼に快諾し、「芸術が一部の階層のものになっている現状に反対だ。札幌の雪まつりは市民大衆の間で生まれ、育てられたもの、そこに私の芸術が加わるのは良いことで、雪という素材に合わせてデザインをしよう」と語り、自ら寒さの中で製作グループを指導する熱の入れようだった。

また、雪まつり初期、大通会場に面してあった明治の建築、いま愛知県犬山の明治村に残る札幌軟石の札幌中央郵便局の局舎が雪で復元され、同実行委員推薦で「さっぽろ雪まつり音頭」（作詞平善雄、作曲澤昭夫、歌春日八郎、藤野とし恵）が生まれるなど、実行委と関係各界の熱意を反映して数多くの企画が一月三十一日の前夜祭にはじまり、二月五日まで雪の会場を楽しくいろいろどるなか、一日には喜びの第三十回雪まつり記

念式典が挙行された。

さっぽろ雪まつりは回を重ねるたびごとに、ますます国際的なカラーを強めてきているが、その起源をたぐってみると、長く重く重い冬をつき破って暮しに明るさ、楽しさを求めた札幌市民の夢からスタートしたといつてよいようである。

第一回開催は昭和二十五年。戦後の復興はようやく緒に付いたばかりだった。戦争の長い日々は、人びとの生活から夢と生き甲斐を奪い去った。

戦後——その失われた部分をひとつ、またひとつ取りもどし、埋めていく努力のあとに、北国の市民の暮しのひだ（蹙）に埋めつくされたいものが残ったとしたらそれは「冬ごもり」という言葉の響きからくる暗さだったろう。

春には春、夏には夏、そして秋にも、それぞれ季節のうつろいを楽しむ催しがあるのに、冬にそれが無いのはなぜだろう。市民の胸のうちに、なにかこの暗さを突きくずすものを求める思いが長く堆積していた。

「雪ダルマを囲んで、みんなでスクエアダンスでも踊ろうじゃないか」——発想はお祭りというほどのことではなかった。雪をみて家にひきこもりがちな市民を戸外に誘うことが目的で、重い腰を上げさせるために、そのころ普及しだしたスクエアダンスを選んだのだった。

雪まつりはこうして誕生した。

風がほほを切るように冷たい朝から、凍りついたように風もやんで、高い靴底を寒さがつき上げてくる夜おそくまで、雪まつり会場の大通に市民が集まった。

そして、白い雪像の巧稚とは別に「雪」がもつファンタスティックなものに魅かれる人びとが多かった。

それから三十年。厳しい冬と市民生活の関わりの中で生まれ、育った雪まつりの歩みは札幌市の戦後の歴史でもあった。昭和三十年代に入るとともに訪れた全国的な観光ブームによって、それまでのさやかな市民のまつりは本州にも名が知られていった。そして、四十七年の冬季オリンピック札幌大会に雪まつりがテレビ電波に乗ったことで、雪まつり観光客は本州から世界へと広がりを見せた。とくに、雪を知らない東南アジアの人びとの白い雪への憧れの強さにはおどろくものがあった。

また、同四十九年以後のオイルショックと続く不況は市民生活を直撃したが、その暗いかげは雪まつりの「いのち」にも投影したものであった。しかし、こうした変遷のなかのどの時代にも人びとは雪まつりに強い愛着を持って接してきたといえるだろう。社会が暗くうち沈んだときこそ、実行委など関係者はまつりを盛り上げることに心をくだいたものだったし、その演出され練りあげられた優美でしかもクールな世界は多くの人びとの心を慰さめたのであった。雪まつりの今日はこうした人たちに支えられてきたと言って決して過言ではない。

市民生活にとって常に邪魔者であった雪を観光資源として見直し、今や主要観光地がきそって開催するようになつた冬まつり誕生のきっかけとなつたことも、また忘れてはならない。流水のくる町、輝やく樹氷の町にカラフルに装った人たちが集まり、嘆声、喚声が雪空にはじける。こんな愉快な冬の暮しが、これらの

町々の十年前、二十年まで誰が想像できたであろうか。

昭和三十一年、第七回雪まつりの年、エッセイストの市川謙一郎さん(故人)は雪まつりのありかたを提言した

―読者よ、あなたはスイス山中、音に名高きプリンデルワルドの宿舎のポーチに腰をおろし、街にあふれるさんざめきを半ば呆れ、半ば感心しながら眺めている。まるで大浴場のようであり、夏の日の海水浴場か、一流都市の盛り場のようでもあるスイス・アルプスの一角。もしそうであるとしても白銀の湯煙り、白銀の波しぶき、白銀のペーブメント。なにからなまでに雪と氷のたわむれ、凜然たる寒気の底の歡樂。読者よ、スイス人が冬の喜びを追究するのにいかに貧欲かをしたかと御覧なさい。(著書「一日一言」より)

雪まつりが初めて開かれた三十年前、札幌市の人口は三十一万人であった。いまは百三十三万人、わが国第六位の大都市になつた。昨年の第二十九回に訪れた雪まつり観光客は百六十一万五千人、その経済効果は五十四億七千万円にのぼっている。もし、市川氏がことしの第三十回雪まつりを見ることができたなら、その印象をどう表現したことであろうか。

本誌は第三十回記念事業の一つとして編さんしたものであるが、この間雪まつりの成長を見続けた板垣武四札幌市長が「雪や厳しい寒さを市民生活のいろどりとしての雪まつりやスポーツに積極的に生かしたとき、札幌の魅力は急上昇した。」と語つた言葉が印象に残つた雪まつりはすでに北都札幌市の冬のくらしに定着した、そういういけることに、三十年の意義を発見出来るのがうれしい。



第1回雪まつりに製作された「裸像」



初 期

起源・昭和25年(第1回)～29年(第5回)

初期の雪まつりは、昭和二十四年暮れに具体的に動き始め、市民の冬のレクリエーション、二月の不況対策、観光行事の三本の柱を立て、翌二十五年にスタートしたのであるが、初めての試みであったことから、前途はまさに多難で、関係者の労苦は筆舌につくし難いものがあった。だが、一回、二回と、手さぐりのなかで雪まつりの歴史は刻み始める。凍える手にシヤベルを握る生徒、ガンガン(石油缶)に炭火を燃やし、雪像を作る人たちに「暖」を運ぶ市職員。雪を自然の恵みとしてみんなはがんばった。しかしそれを支えたものは、いままでもないその土地を愛する市民のあたたかい心であったのだ。

ルーツは三大行事にヒント

雪戦会・雪像展・カーニバル

雪まつりのルーツをたどるといずれも戦前、

中（現南高）の雪戦会、中島公園内の池で催されていた氷上カーニバル、それに、小樽市内の小学校で盛んだった雪像展がかさなり合う。

雪戦会は三十一、二十二年開催の雪まつりで自衛隊員二百人が参加、紅白に分れて騎馬戦を展開、東西両側から四、五層もある雪の城を奪い合う勇壮なゲームで復活しているが、当時は進駐軍の厳しい規制のもとに置れていたため、軍国主義の復興ということで実現出来ないのではないかと心配された。このため当時の助役だった原田興作前札幌市長は、雪まつりのなかで雪戦会も催しとして



愛らしい雪ダルマを先頭に雪まつり市中パレード(第2回)

加えたいむね進駐軍に打診したところ、アメリカ本土にもスポーツとして雪戦会のような催しがある。スポーツとして考えれば良いのではないかという理解のある回答があったという。

氷上カーニバルは、これものちに雪まつりの行事としてとりあげられ、市民の楽しみの一つになっているが、参加者がルイ王朝時代の風俗衣装で登場するなど、思い思いの趣向を凝らしたスタイルで、固く張りつめた池の氷の上をスケートをつけて軽快に滑るもの。各界から選ばれた審査員が仮装の出来栄と、スケーターとしての技を採点、入賞者を決るというユニークな札幌の冬の遊びで、その華やかで都会的センスのゲームは、今も懐しく思い起す人が多い。

雪像展は現在の大雪像中心の雪まつりの中に深く投影しているものであるが、昭和十年から太平洋戦争の激しくなる十八年ころまで小樽市立北手宮小(当時、高山喜市郎校長・故人)が毎年二月一日に校庭に雪像を製作、『雪中運動会』のような行事を行っていた。

雪像は先生の指導で小学生が製作したのだが、それを証明する16分記録映画(撮影者、小樽市佐藤吉男さん・故人)によると、「肩を組んで校庭の雪を踏み固めその雪をノコギリでアロクに切り

積みあげる。雪の山にハシゴをかけ、シャベルで雪をたたき、削り、やがてシロクマ、ホテイさまが完成する。一年生から六年生まで一カ月がかりでつくった」とある。のちに長橋小など、小樽市内の小学校で雪像展が盛んに行われ、札幌からも見物に出かけたほどだった。

この三行事がヒントになり、さっぽろ雪まつりの誕生となったことは当時を知る人達の証言によって明らかである。これが具体的に動き出したのは二十四年四月に行われた札幌観光協会第十四回総会にかけられ、採用された以降のことである。

当時、観光協会に近藤直人さん(元事務局長・故人)が居た。雪まつり実現に情熱を傾けた人であるが、三十四年二月、雪まつり実行委員会が十年を記念して発刊した「さっぽろ雪まつり写真集」に回想録として次の一文を記載している。

—小樽市の北手宮小学校校庭に、小学生が製作したとは信じられないほど大きくみごとな雪像が並び、児童が楽しく遊んでいるのを見た。札幌の大通にもそのような雪像をつくって市民が冬の日を楽しく過してはどうかと考え、ある学校に相談したところ、当時(十五年)は物資欠乏の時でもあり、児童のゴム靴や手袋が破損するという事由で協力して頂けなかった。

一方、札幌市は二十四年ころから観光行政への模索を始める。京都市で第一回全日本都市観光連絡会議が開かれたのもそのころであり、全国的にも都市の観光資源づくりに対する論議が活発化しつ

つあった。

雪まつりの開催についての原案は当時の経済部長、板垣武四現市長。商工課長であった石林清現札幌商工会議所専務、それに前述の近藤観光協会事務局長らの間で煮つめられ、二十五年一月二十日、第一回の打ち合せが行われ、開催期日、催し内容



雪を積みあげ、踏み固めてスコップやノミで形づくっていく初期の雪像は、総て生徒達の作品だった。(第一回)

などが決められた。こうして雪まつりが開催されることになったのであるが当時この行事に携わった人たちは誰もが、現在のように規模が世界的に拡大されていくなどとは思いつかないことであつたという。長い戦争の歴史から解放されたとはいえ、厳寒の地に住む人たちの冬の暮しはいも変らず荒涼としたものであつた。そのなかに、あの男の血を湧きたたせずにはおかない雪戦会、優雅なカーニバルの一夜、そして無限の雪を使った雪像展が札幌の一隅で催されたらどんなに楽しいだろうとみんなはそう考えたのであつた。

会場は人垣、華やかな開幕

第1回(昭和25年2月18・19日)

人目をひくような雪像をどのようにつくるか、野ざらしの野外ステージで、バレエや日本舞踊が出来るのだろうか、滑る雪の会場で事故はないか—関係者の不安は開幕してもなお続く。だが雪まつりは市民の大きな期待をになってスタートしたのだった。

会場は大通西七丁目、雪像製作には高校四校、中学二校が参加した。指導は道展の元老格である坂垣道さんから美術の先生達。手法は一度雪を山のように積み、踏み固めてそれをノミやスコップで削っていく。規模は二、五層の雪像ではあつたが芸術作品をめざすものや、一つ一つに生徒達の苦労がしのばれる作品が多く、つめかけた観客を喜ばせた。

一月いっぱい積雪がなく、関係者を悩ませたが二月に入つて一層ほどの降雪があり、ようやく開催に間に合う状態だつた。しかも寒気は厳しく、凍てつく戸外での作業はきつかつたという。

出展作は東高の「バルザック」向陵中「生徒の首」北海高「裸像」西高「ローサンの記念品」啓明中「白熊」などのほか札幌鉄道管理局が駅前に一基製作した。

初期は催しが中心の雪まつりだったが、主な行事は「歌謡コンクール—北海タイムス」「タンブリング—札幌高」「スクエア—ダンス」「小学生唱歌大会」「演芸発表会」「野外映画—松竹札幌支社」「花火大会」のほか、日本ケネルクラブ札幌支部の「ドッグレース」と盛りだくさん。会場には間口十六尺、奥行八尺、高さ一・五層のステージがつくられ雪まつりの電飾行燈や、一千ワットの投光器、広告塔と広告塔の間には色電球数百個を吊して、「白い会場」に色どりをそえた。夜は雪像の周囲にかがり火を焚いてまつりムードを盛り上げた。

今日のレジャーからほど遠い時代のことである。わずかの楽しみを求めて集まった市民は一日で五万人。狭い会場は人垣で埋めつくされた。とくに人気があつたのは、スクエア—ダンスに映画会。氷点下十度という寒さにもめげず殺到した観衆のなかでダンスを始めたところ、会場はますます狭くなった。札幌中央警察署から警官約三十人が出勤して整理に当たったが路面が氷結、群衆が押しされて転倒、負傷者が出たためわずか三十分で中止し

この年～ (25年)

■年齢を「満で数える」ことを実施

■朝鮮戦争で、“特需ブーム” 株式

ブーム” 株式市場盛況

■金閣寺放火で焼失



ドッグレース(上、第1回) 凍てつく日雪像製作に余念のない生徒達(下、同)

なければならなかった。

野外映画はニュースと有名映画を上映したところ、娯楽の少ない世相を反映して会場に観衆が押し寄せ、足もとが滑るため途中で映写台が押しつぶされるといふ騒ぎになった。このため上映途中で中止せざるを得なかった。期待されたスキー仮装行列は積雪が少なかったのと、場所が狭いなどで参加者は五人が参加しただけにとどまった。

花火大会は大小五十発を打ち揚げ、花火の中に映画館の入場券二百枚を入れたり、定山溪温泉旅館組合の協力を得て、旅館のアベック招待券を入れ打ちあげるなど、趣向を凝らしての大会に観衆は大喜びだった。

愛犬家の集まりである日本ケネルクラブ札幌支部のドックレースは、大通西七、八丁目の歩道で行われた。犬にソリを引かせ、スピードを競う楽しい競技で、アイヌ犬など約二百頭が参加した。



二月十七日～十九日まで「宮様スキー競技大会」が行われ、三笠宮様がおいでになった。当初宮様を雪まつり会場にご案内する予定だったが、予想外の人出に警官にオートバイで道筋を開けてもらい、ドックレースを観戦していただいたという。こうした催しのほかに、当時としては珍らしいカラー映画を撮影したことは特筆に価するところである。これは北海道通信社に依頼、会場風景を16mmで撮影したもので、フィルムは当時の進駐軍、ニプロ民政部教育課長の好意でアメリカから取り寄せ、現像も本国でいろいろな便宜をはかってもらった。

この映画がアメリカから戻って来たのは初夏のころで、関係者はその映画を見、当時の労苦をしのんだという。のちに札幌の四季や支笏洞爺国立公園を撮影したフィルムとともに、道が本州市で実施した観光と物産展の会場で上映、北海道のPRに使用した。

また雪まつりをPRするポスターは、商業デザイナーの栗谷川健一氏に依頼して製作した。図柄は中央に可愛い仔熊の雪像、周囲には仮装した若者がスクエアダンスを楽しんでいるというもので、依頼を受けた栗谷川氏は「氷上カーニバルの楽しい雰囲気や頭を描いてデザインした」と述べている。初年度は二千枚を印刷、国鉄に依頼して全道の国鉄の駅に貼るなど、雪まつりPRに本腰を入れた。このポスターが非常に好評だったことや、ドイツではこのような催しをするばあい、

この年～(26年)

■対日講和条約、日米安全保障条約調印

■民間放送開始、民間航空の復活



大通周辺は木造の建物が建っていたところで雪像「顔」が大きい(第2回)

毎回同じポスターを使っていたという例もあったことから毎年雪まつりの時に同一ポスターを使うという話が出、結局、第八回までつづけて使用された。

経費は初めての試みとあって予算が組めず、大幅な赤字。総額二十五万四千八百八十五円のうち、六万四千四百八十五円の「足」が出た。これらはステージの周囲に(株)今井、(株)三越などに協賛広告をお願いし、また、会場に高さ二十メートル、周囲十六メートルの巨大な広告塔をつくり、上部十二メートルには「祝さっぽろ雪まつり」と掲げ、下部には商社、旅館等の広告を入れ、そこで得た広告費によってまかされた。

札幌市の年間行事に決る

第2回(昭和26年1月26・27日)

初回の雪まつりが予想以上に盛会だったことで市民が冬のレジャーに大きな期待を寄せていることを確めた主催者側では、今後雪まつりを市の年間行事として固定することにした。実施団体も、主催が札幌市、札幌観光協会、後援には国鉄札幌地方営業所、札幌商工会議所、札幌中央放送局、北海道新聞社、北海タイムス社という体制を整え、「北国の冬の灰色ムードを吹きとばそう」をスローガンに万全のかまえて望むことになった。

この年は、一月二十五日～二十八日まで「第十二回宮様スキー大会」が開かれたため、雪まつりもその時期に合わせて二日間と決め、ムードの盛

りあげを図った。「雪に対する理解を深め、冬の暮しを明るくものに」という文化展「雪の教室」を開き、市民待望のカーニバルもこの年に復活した。

雪像はいずれも高さ七、八メートルにおよぶ力作揃いで、伏見高(現札工高)の「かがり火を持つウィーナス」札商高「スフィンクス」北海高「平和」東高「座像」藤高「顔」で、各高校が非常な努力を払って雪像を製作したことに対し、札幌市長、観光協会長名で、感謝状と一校に二千元を贈呈した。

催し物は二十六日が「雪まつり子供大会」「観光の夕、郷土芸能祭」「パレード」「スクエアダンス」「ドックレース」。二十七日は「タンブラーリングー札商高」「歌謡コンクール」「花火大会」「カーニバル」「野外映画」のほか期間中に文化展「雪の教室」を開いた。

歌謡のど自慢コンクールには、マスコミ関係のPRがきいて、砂川や江部乙からも参加するなど、はやばやと札幌の行事から、全道的な催しへと発展のきざしを見せ始めた。

市民会館で行われた郷土芸能祭では、開館前から押すな押すな盛況で、主催者側では入場整理券(有料で四円九十九銭)を発売したが、ツリ銭を渡す事が出来ないほどの混雑に、窓口に一銭玉を積み、五円を持って来た者は各自それぞれツリ銭を持っていけるよう苦肉の策で引き抜けた。プログラムは別に五円で発売。また場内は立って見物したり、入口からのぞき込む者などで超満員。この混乱のため椅子や、ガラスなどが破損し、終了後

会館から損害費として二万数千円を請求される破目になった。

文化展「雪の教室」は、「雪の神様」と呼ばれていた北大の中谷宇吉郎教授（故人）の指導で、札幌市、札幌PTA連合会、北海道新聞社、道庁、北大低温科学研究所、国鉄、气象台、道観連、札幌観光協会が共催、**㊦**今井百貨店の協力を得、「雪と科学」「雪と生活」「雪と健康」「雪と交通」「雪と気象」「雪と観光」の六部門に分けて行われた。これはパネルなどで、雪をさまざまな角度でとら



第3回に製作された雪像「ハヤテを抱くカリモ」は男女の抱擁の像

え展示し雪に対する認識を高め、雪国の生活実態を科学的に究明する態度を培い、生活文化の向上に資することを目的としたものだった。一月二十六日から二月三日まで催され、終了後は釧路、函館両市でも展示会を行い好評を博した。

花火大会では、花火のなかに定山溪温泉十二軒から寄贈されたロマンス招待券を入れて打ちあげ、それを拾った十二組を三十日各旅館に招待したが空から落ちてくる招待券を拾おうと、観客が会場内を右往左往、拾って喚声をあげる女の子、息子



子供バレエは人気の催しだった（第2回）

夫婦に——と嬉しそうにポケットに入れて帰っていきお年寄り、拾うことが出来ずにくやしがる子供達と、厳しい寒さもものかわ、冬の一日を楽しんだ。氷上カーニバルは予想以上の人出でにぎわいをみせ、平常は静かな雪の中島球場は、明るい雰囲気包まれ、出場者が登場すると喚声が湧き起り「カンパッテ」と仲間を励ます声も。

宮様スキー大会は、一月二十五日から二十八日まで、札幌市内近郊で行なわれた。この大会には、高松宮殿下がおいでになられたが二十七日は雪まつり会場を、二十八日には、堀低温研究所長の案内で「雪の教室」を観覧され、たくましい北国の人の子かたに満足な様子だった。

二回目とあって、主催者側や、参加した市民も雪まつりに慣れたことなどで、初回のような混乱も少なく、すべての行事日程を消化した。今回の総経費は四十七万四千円。

会場を大通西四丁目に移動

第3回（昭和27年2月9・10日）

二回までは「宮様スキー大会」に合せて日程を組み雪まつりの盛りあげを図ったが、今回はスキー大会が三月に行われたため、雪まつりは独自の体制で日程を組み開催した。

大きな特徴は、主会場を大通西七丁目から西四丁目に移動したことである。今でこそ大通会場は十一丁目まで拡大されたが、当時は雪像数からみても一〜二丁目で充分だった。しかし七丁目を会



ステージを囲む人の波……寒さなんか平気だ（第4回）

この年～（27年）

- 〈赤い羽根〉の共同募金始まる
- 血のメーデー、皇居前広場で乱闘
- 白井義男、世界フライ級チャンピオンに

この年～（28年）

- NHKテレビが放送開始
- 英登山隊エベレスト（8,840メートル）登頂に成功
- 札幌-千歳間34.5キロの弾丸道路開通

場としたばあい、交通主要路の駅前通りから、何もない雪野原のかなりの距離を歩いて会場に向わなければならず、一般に不便をきたしていた。

このため三、四丁目から七丁目までを雪像や催しでつなぐ方策が検討されたが、交通事情で電車線の駅前通りを中心に会場をどちらか一方で行うよう、警察署からの指導もあったことから、第一会場を四丁目、第二会場を市民会館、協賛行事のスケート競技大会は中島球場で行うことにしたものである。

スケート競技はこれまで中島公園の池のリンクで行って来たが、今回からは市が中島球場に特設リンクを設置したため、多少の暖気でも氷が陥落する恐れがなくなり、関係者や、一般市民を喜ばせた。主催、後援も従来までのものに、札幌商店街振興連合会、札幌旅館組合が新たに後援団体として参加した。

雪像は南高の「魔性」北海高「ハヤテを抱くカリモ」学大附属中「群像」向陵高「ハヤテ」札幌高「哀愁」伏見高「波間の電光」の六基。いずれも力作揃いで評価も高かった。また今回から札幌中央放送局協賛の放送劇「さんごの唄」（森本儀一郎作）の内容をテーマにし、雪像に一貫性を持たせたことは興味深い。

この放送劇は雪まつり会期一週間位前から三日間ラジオ放送したのだが、内容はメノコの悲恋物語り。雪像も男女の抱擁像や裸像などが多かった。このため、一部の市民から「中、高校生の作

品としては少々行き過ぎではないか、しかも大通のどまんかに展示するとは風紀上好ましくない」という批判が出た。現在では別に気にとめない事柄でも当時としてはかなり抵抗があったものと思われる。時代の移り変わりを改めて考えさせられるものである。

雪像製作校には札幌中央放送局長と札幌市長、札幌観光協会長連名の感謝状、観光協会から一基に対し二千元、放送局から二千元を謝礼として贈呈することになった。

このほか、札幌商店街振興連合会では雪まつりに協賛して、店頭装飾と各地区毎に雪像をつくり全市をあげ雪まつりムードを盛りあげた。会場内の雪踏みや雪像製作用のスコップは市交通局、手ソリや丸太類は市土木課が提供した。

催し物も多彩で九日は「雪まつり子供大会」市内各小学校代表。市民会館「雪まつりの集い（雪まつりの夕）」舞踊、民謡、軽音楽、観光の話「映画」十日には「ドッグレース」日本ケネルクラブ道支部、大通会場「花火打揚げ」大通会場「歌謡コンクール」北海タイムスのほか「スクエアダンス」「アイヌ犬雪中展示会」「模型飛行機（エンジン付）飛翔大会」それに「氷上カニバル」中島球場特設リンクなどでそれぞれ行われた。花火大会は映画協会から入場券五百枚の寄贈を受け、花火のなかに入れて打ちあげてはどうかと、観客へのサービスを検討したが警察から会場が混乱し危険な状態も心配されると注

意があったため中止になった。

市民会館で行われた「雪まつりの集い」では市内小中学校生徒の歌や踊りで観客を魅了。日本舞踊、タンブリング、映画など期間中の多彩なプロはなかなか好評だったが、第二回同様多数が押しかけ会場が混乱したため、市民会館の使用は今回限りで取りやめることになった。

このころから雪まつりに対する一般の関心も高まり、デパート協会から寄贈を受けた「祝第三回雪まつり」と染抜いたタオル三百本や映画入場券は、それぞれ出演者などに贈り、喜ばれた。

期間中晴天に恵まれ、各会場の催し物は開始前に三千人以上の人がつめかけ、呼び物のドックレースは、三十五匹の名犬が出場、飼い主を乗せたソリを引いて一周四百五十メートルのコースを走破したが、途中でコースをそれてしまう犬、飼主をふり落したまましっ走りする犬などと、珍プレーが続出、そのハプニングに見物客は大喜び、寒冷の二月の空にときならぬ歓声がこだました。

大雪像「昇天」製作——伏見高

第4回（昭和28年2月7・8日）

商店街協賛の雪像がお目見得、また高さ十五メートルという大雪像「昇天」が伏見高（札工高）の手で製作され観衆を驚かせ、大型雪像のはしりとして注目された。会場は雪像が大通西五、七丁目に表示、ドックレースは七、八丁目、氷上カーニバルは十四日に中島球場内特設リンクでそれぞれ行わ

高さ十五メートルの雪像「昇天」は、現在の雪まつりのメインになっている大雪像の「はしり」高校生製作（第四回）



れた。

主催は市、観光協会に、新たに商工会議所、市教育委員会が加わって四者で。また後援団体には、札幌鉄道管理局、北海道新聞社、北海タイムス社、札幌中央放送局、北海道放送、札幌商店街振興連合会、札幌旅館組合、札幌スキー連盟、札幌デパート協会、北海道写真材料商店組合札幌支

部がそれぞれ参加した。

実行委員会は自衛隊北部方面隊が初めて野外演奏会に参加、また提灯を作り一般に売るほか、各商店が雪まつりに協賛し大売り出しをやるよう働きかけた。

商社提供の雪像は七丁目に展示されたが、北海タイムス社提供の「雪の動物園」は、カンガルー、タヌキ、酔っぱらい熊、山小屋などを配置した楽しいものだった。駅前広場には札幌鉄道管理局、地区商店街、札幌商店街振興連合会、駅前通振興会提供の雪像が各地区に展示され、市内各小学校の雪像も市内各校校門、校庭に製作、雪まつりムードを盛りあげた。

例年中、高校生が製作する雪像のテーマは、札幌中央放送局の特別番組、参加放送劇「カムイヌプリに雪が降る」（森本儀一郎作）。製作された雪像は伏見高の「昇天」、東高「乙女の祈り」、西高「虚」、北高「大熊とワカルバの死闘」、北海高「野性の熊」の五基。

なかでも「昇天」は、高さ十五メートルの大雪像で凱旋門を土台に若者と熊の魂と、女神に祈るアイヌ娘を表現し、門の四方に天を射る像を作り、昇天の方向を示した大作。七丁目入口に作られたが、実施前に土木科の生徒を動員、大通周辺の記念塔や、建物の高さの測量を行い最適の高さを決定した。雪集めには市土木課のトラック数十台で運搬、ブルドーザー一台が一週間フルに活動、凱旋門頂上に一つ、四隅に各一つ、計五つの像が配置されているが、これには建築科や美術部の部員が協力



降り積った雪の会場をはしゃぎ回る子供達 (第5回)

この年～ (29年)

- 防衛庁、自衛隊が発足
- 洞爺丸転覆事故で死者1,011人出す
- 世界スピードスケート選手権大会開催

して作りあげた。

全校あげて雪像づくりに参加、延べ一千人を動員する大工事となったが、この年は、厳しい寒さに見舞われたため、製作する生徒達のコートや手袋が凍りつき、夜中まで焚火をして暖をとるなど製作の苦心談はつきない。自衛隊製作の大雪像が主会場を占める現在では決して大き過ぎるものではないが、当時は巨大な雪像への賛否両論があった。「雪で製作したものはすぐ壊われる、それならより大きいもので観衆に喜んでもらっては」という発想からの製作だったというが、その思想は現在の雪まつりに生かされている。

雪像の製作校については、札幌中央放送局長、札幌市長、札幌観光協会会長連名の感謝状と謝礼金



優雅—心をこめた雪の傑作 (第5回)

五千円(放送局二千円、協会二千円)を贈呈した。催しは、第四回雪まつりをテーマにした「懸賞写真募集」「雪と生活に関する作文懸賞募集」NHK「雪をテーマにした絵の募集」対象市内小学校」などのほか「花火打揚げ」「カーニバル」などを行った。

懸賞写真の入選作は三月二十五日から二十九日まで、㊦今井六階で写真展を開催した。日を遅らせて行われたカーニバルは、主催が札幌スケート協会、北海道新聞社で実施され好評だった。

市庶務課広報係が写真帳をまとめたものこの年でB五版のAシート紙十ページで雪まつりの状況を編集、全国の関係機関に配布した。

雪まつりの運営はどうあるべきかと、札幌市教護協会などと懇談会を持ち夜間の催しその他における児童、生徒の指導方法について話し合った。

毎年十一月に雪まつりの企画について相談会を開催することにした。出席者は放送局、北海道新聞社、北海タイムス社、各高校、商店街振興連合会、デパート協会、商店、芸術家、写真家などで、各自の分担を決めた。

国体スケート競技前夜祭で幕開け

第5回(昭和29年1月28日～31日)

会場は大通西七、八丁目、今回は一月二十八日から三十一日まで開かれた国体スケート競技、1954男子スピードスケート世界選手権大会に合わせて日程を組み、同競技の前夜祭会場とし大通七丁

にぎやかに出みせも並んだ(第5回)



目が使われにぎやかな開幕となった。

前夜祭には約五千人の選手、役員が入場、式典終了後雪まつりの開会式を行い、全国から集った選手の歓迎をこめ、高田元札幌市長(観光協会会長、故人)の挨拶、北海道放送提供の「歌の花束」札幌観光協会提供の「北海道民謡」(今井崑山師による江差追分、北海タント節など)が披露され、市民や選手に感銘を興えた。

しかし夜半から道央道南一帯は猛吹雪に見舞われ、各地で電信電話が不通になり、列車は立往生、

漁船の遭難が相いついだ。この激しい吹雪は二十日になってもおさまらず、雪像が雪に埋まり、原型がわからなくなったもの、傾いてしまったものなどが続出、アーチや広告塔の大半が倒れ、会場は一面の雪野原になった。このため人や車の往来が困難になったため、二十九、三十日の雪まつり行事は中止のやむなきに至った。

猛吹雪のため雪まつりのスケジュールはすっかり混乱してしまつたが、三十一日は快晴に恵まれたため、早朝から市職員が除雪にあたり、午前中いっぱいかかって会場を整備した。日曜日とあつてどつと繰り出した市民や家族連れは昼、夜間を通じて約十五万人。最終日にふさわしい盛況ぶりだった。

雪像は前回同様、札幌市全体の行事として盛りあげようという意図から市民課に依頼し、地区出張所、高校などからの出展するよう呼びかけた。今回のテーマ雪像は札幌中央放送局の参加ドラマ「雪が舞っている」。第一部「雪とゆめ」、第二部「雪の幻想」、第三部「雪が舞っている」の三部構成で、岸田利彦作。

製作された雪像は東高の「雪と少女」、北海道郷愁、東地区「熊」、曙地区「像」、鉄西地区「熊」、中央地区「希望」、北円山地区「熊」、東北地区「一九五四年」、南円山地区「平和」、豊水地区「讃雪」。

ほかに幅六寸、奥行二寸、高さ二寸の土台の上
に幅二寸、高さ二寸、厚さ五十枚の雪壁をつくり、彫刻家、坂坦道氏の「闘」、藤川基氏の「聖火」

が展示された。

大通西四、五丁目歩道には北海タイムス社提供の商業美術雪像、約八十基が展示され、行灯を雪像展の間に立て観衆を喜ばせた。札幌駅前につくられた札幌鉄道管理局提供の「祝さっぽろ雪まつり」と彫刻した雪像は駅に降りたつ旅行者の目を楽しませた。

催しは、「モデル撮影会」「仮装美人探し」「子供バレー」「ヒュッテ子供大会」「北海道犬展示会」「野外映画会―松竹札幌支社」「スクエアダンス」などが行われた。雪まつりをテーマにした懸賞写真撮影会は、なつかしい角巻を着たモデル五人が出演した。応募作品は二月二十三日から二十八日まで、三越デパートで展示された。

第九回国体スケート競技大会のリーフレット一枚を国体関係者に配布した。図柄は、中央に札幌市内案内図を入れ国体の会場である円山と中島のスケート場を明記、道順、日程、雪まつりのプログラムを入れた。

このほか五色提燈、浴場に雪まつりポスター、カラーで「祝第五回雪まつり」と書き宣伝し、場内整理にはボーイスカウトも協力した。

国体選手役員に記念バッチ一万个をつくり贈呈したが、時計台の鐘にアカシヤの葉をあしらった図柄で、なかなか好評を受けた。

今回の総経費は四十六万一千八百三十円。うち二十一万五千円は観光協会負担分。

戦後の冬の暮しに一条の光求めて

北国の冬の生活を快適にエンジョイしようとの発想からスタート、今では世界が注目する行事へと飛躍致しましたさつぽろ雪まつりも今年で三十回を迎えました。

雪まつり実行委員会では、この記念すべき年を一つの節目に、ここに関係各位にご出席いただき、三十年の軌跡をいま一度たどることによつて五十年、百年後と続いていくであろう札幌の伝統行事への一つの指標にと願うものでございます。

―司会者挨拶から―



総合司会 藤 委員長

みんなのアイデアを結集して

―戦後三十五年、その歴史と共に歩んで来たさつぽろ雪まつりは北国に住む者にとっては深い意味を持つ大きな行事ではないかと考えます。そこで今席に集っていただいたみなさんから、雪まつりがどのような形で生まれたか、起源を掘り起しながらそれを育てて来た苦労話を織り混ぜて話し合っていただきたいと思います。昭和二十五年に第一回雪まつりが開かれた当時、札幌市の商工課長でおられた石林さんから―。

石林 結論から申しますと、雪まつりの起源は第一回が開催された当時、観光関係に携わっておられた方々や、教育、文化、マスコミ関係者など多くの方々で構想を練り、当時経済部長であった板垣現市長が札幌市の行事としてGOサインを出したということです。

―当時の市長は高田さん（故高田富与元札幌市長）でした。現在のように大きくなった雪まつりを考えますと、これを市の行事として取りあげた高田さんの英断には感謝致しますが……。

今井 本当にそうですね高田さんはマチを明るくするということには非常に前向きの人でした。かつて南一条をカラー舗装したことがありましたが、渡り初めに来られた高田さんがマチがきれいになったと非常に喜んでく

(敬称略・五十音順)

出席者

荒川 毅

札幌中小企業センター専務理事

五十嵐 久一

元北海道タイムス企画部長

石林 清

札幌商工会議所専務理事

今井 保

丸井今井相談役

栗谷川 健一

商業デザイナー

坂 坦

北海道女子短期大学教授

佐々木 徳三郎

札幌観光協会副会長

佐藤 麟太郎

元札幌市教育部長

司会 薩 一夫

雪まつり実行委員会企画宣伝委員長



今井さん

おります。

石林 雪まつりが初めて開催

されたところは、私にとっても役

所入りした記念すべき年代なん

ですが、観光というものにはズ

ブの素人で何をすればいいのか見当がつかない。もちろ

ん現在のように観光行政がしっかり根づいているような

社会情勢でもありませんでした。ところが商工課の事務

れました。暗い札幌の冬の生活を明るくしたいという高田さんの心が今も雪まつりのなかに生きていると思っております。

分掌のなかに、すでに「観光に関する事」という一項が

記載されていたんですね。その「観光」という二文字を

どのように分析、理解すればよいか大変悩んだことを

今もはっきりと覚えております。

二十四年に京都市で「第一回観光都市連絡会議」が

開かれ、石林さんが出席なさったんですね。

石林 そうですね。あれこれ思い悩んでおりました当時

その会議に出席し、席上、観光というものはその都市の

性格にあったものを新しく生み育てていくものだとい

話が出され、観光資源が皆無の札幌市を考えて、非常に

感銘を受けて帰って来たものです。

佐々木 二十三年、四年ころといえは未だ戦争の荒廃の

跡も残っていた時期です。そこ

で札幌市が明るい都市づくりを

どのように進めていくと良いの

か、私を含め当時観光事業に携

わっていた人達の大きな課題で

あったわけです。とくに冬の生活を明るく楽しいものに

ということ、雪深い北国に住む者だけが知る切実な願

望でした。



佐々木さん

名称は簡明に「さっぽろ…」と

「厳寒の冬を人間の力で克服し明るい季節として生活に組み込もう」という大きな期待がこめられて雪まつりはスタート台に立った。しかも当時は敗戦直後という厳しい時代背景があったわけです。雪まつりを語る時忘れてならない人に近藤さん（故近藤直人氏・元札幌観光協会事務局長）がいらっしやいますね。

座談会・あの日の証言

今井 懐しい方です。当時私は本店の支配人でしたが、近藤さんから雪まつりのことで最初に相談を受けたのは営業部長だった平松君（平松英一 道百貨店協会事務局長）でした。札幌の冬の生活は陰気で困る。何か市民を元気づける催しは無いものだろうか、という話だったと記憶しております。平松君は新潟の出身ですから、故郷に雪を利用したまつりがあるという話しをしたところ、近藤さんは札幌にもそういうまつりがあってもいいと喜んで帰られたそうで、のちに私もそうした話に加わって雪まつりをサイドから応援させていただきました。

石林 近藤さんは全道各地の営林局を歩かれ釧路営林区の署長を最後に退官、昭和十



石林さん

一年に札幌観光協会が出来ること、すぐ専任職員となられた観光功労者です。私が近藤さんから雪まつりについての相談があった

のは観光都市連絡会議から帰った直後のことでした。

佐々木 今もそうですが、当時私は観光協会の副会長でした。協会にはこれという財源も無く、近藤さんとアイデアを出し会いながら景勝地の絵葉書をつくり、今井さんにお願いでパートで売ってもらうなど、非常に苦労して資金をつくり運営費に当てたものでした。札幌で冬の行事をといて相談を受けたとき思い出したのが戦前一中（南高）でやっていた雪戦会でした。形を変えてやってもいいと答えたのを記憶しております。

―初期の雪像は学生が製作したのですが当時教育部長だった佐藤さんにはどんな思い出がありますか。

佐藤 二十四年の十月だったと記憶しております。

近藤さんがふらりと部長室に来て、札幌で冬の行事をやりたいが知恵を貸してもらいたいというんです。そのころ青少年の不良化に頭を悩ましていたもんですから、その防止の意味から若者が心から楽しめる催しがあってもいいと考えたわけです。先ほど話しに出て来ました雪戦会やカーニバルを復活させることや、小樽の小学校の校庭で見た雪像がまず頭に浮びまして、雪像を囲んでスクエアダンスでもやるとみんな楽しく参加するのではないかと話し合ったものです。スクエアダンスは当時大変盛んでしたからね。

―雪戦会は非常に勇壮なゲームでしたね。あのころは柔道や剣道などでさえ軍国主義の復興だと規制を受けていた時代ですから雪戦会は出来ないだろうという空気が強かった。そこで原田さん（原田與作前市長）確か助役時代だったと思いますが、進駐軍の所へ伺いに行き、アメリカでもそれに似たスポーツがあるのでスポーツとして考えれば良いのではないかということに心良く了解して



佐藤さん

もらったと聞いています。のちに自衛隊がこれを行っているのですが、最初は雪像を囲んでスクエアダンスなど催しものでまつりを盛りあげたわけです。

佐藤 雪像を中、高校生が製作してもらいたいという話があったから、それなら早急に各校へ働きかけなければならぬだろうと、数校の美術の先生に時計台に集まってもらった。製作費を助成してくれるということでしたが、バケツやスコップを購入するまでには至らない。必要な用具は各自家庭から持ち寄って作業を進めること

になりました。

今井 当時は雪まつりの規模が現在のようにならなくなった。今井 当時は雪まつりの規模が現在のようにならなくなった。今井 当時は雪まつりの規模が現在のようにならなくなった。

石林 その通りです。雪ダルマを囲んでみんなでスクエアダンスでもやろうじゃないかという気持ちでした。名称もそのころ流行していた「祭典」という言葉を使って「雪の祭典」にしてはどうかという話が出ましたが、原田さんが市民に親しまれる名称がいいのではないかといわれたこともありまして最終的にはひらかなまじりの「さつぽろ雪まつり」になったわけです。

五十嵐 名称については私も懐かしい思い出があります。二十四年の暮れでした。近藤さんが私の所へ来て小樽の手宮西小で雪の彫刻展をやっているのを見て来た。大変



五十嵐さん

立派な雪像が並んでいて全市から見物者が集まっていた。札幌でも何かやりたいというのです。—その頃五十嵐さんは夕刊北海タイムスの企画部長だったんですね。

五十嵐 そうです。まあ冬に何か行事をとということなら雪像展もいだろうがそれだけではおもしろくない。札幌には戦前、雪戦会とかカーニバルなど歴史のある冬まつりがある。それらをミックスして考えてみてはどうか。先程出て来ました名称も簡明なほど一般に親しめるだろうということで、文字も「雪」以外は平かなを使っただ方がいいのではないかとアドバイスしました。今考えれば簡単なようですが、何しろ初めての行事であり、あれこれ悩んだものでした。

ポスターはカーニバルから……

—栗谷川さんは最初のポスターを作ったのですか。

栗谷川 あのポスターには非常に懐かしい思い出があります。当時私は未だ商業デザイナーとしてのデビュー前でした。近藤さんから雪まつりのポスターを製作してもらえないかと頼まれた時頭にひらめいたのは、戦前中島公園の池で毎年二月に行われていたカーニバルでした。池の周辺は人で埋まり、凍てつく氷の上で、それぞれに仮装した人びとが軽やかに滑っている。その華やいだ風景は、じつに都会風で洗練されたものでした。あのカーニバルがまた札幌のマチに復活する。そんな思いを雪まつりに感じとってデザインにかかった印象は今も鮮やかに思い出します。

荒川 図柄は大きなクマの雪像を中央に、仮装した若い男女が喜々としてスクエアダンスを楽しんでいるという、冬のまつりらしいポスターでした。みんなが大層気に入って雪まつりが続く限りこのポスターを使おうではないかという話になったのを記憶しています。

栗谷川 そうなんです、二回も三回も回数だけを直して同じものが使われた。そのうち印刷所の版がすり減って図柄が不鮮明になってくる。つまり兼ねて四回目付近藤さんに苦言を呈した。著作権の問題もあるし、新しいのをつくらせて欲しいというお願いだったんですが、あのポスターは非常に良く描かれている、雪まつりが続く限り変える意志は無い、芸術家がそういうことにこだわってはいかん(笑)と逆にたしなめられました。

—結局は八回まで使われたわけですね。著作権問題のう

座談会・あの日の証言

るさい今日では考えられないことで、大変いい時代だった(笑)ということになりますか。

栗谷川 近藤さんの熱意に動かされたんです。近藤さんの思い出は先程もみなさんから語られました。説得力のある方でした。予算が少ないなかでスタートした雪まつりだったと聞きます。近藤さんが手弁当で横のパイプをつなぎ拡大していったんですね。頼まれればいやといえない不思議な力を持った方でした。

―雪像製作の苦労話を坂さんから。

坂 初期の雪像は四回に伏見高(現在の札工高)が製作



坂さん

した「昇天」以外はせいぜい三六歳の小規模なもので、中、高校生が作ったものでした。参加校はどれも美術の先生が陣頭指揮に当り、指導したわけですが、当時私は北辰中学に籍があったので、担任のクラスを連れて参加しました。

荒川 坂さんもそうですが、道展、全道展などの元老格である亀山良雄さん、栃内忠男さん、伊藤正さんなども指導陣に加わっておいりましたね。

―技術面での苦労もあつたでしょう。

坂 手法は雪を一度山に積みあげそれを踏み固めてノミで削る方法で、今と異り非常に荒削りの雪像でした。ただ指導する側になればどのようにしたら雪像がつかれるのか皆目見当がつかないというのが本音で、まあ、やっていくうちにだんだんわかって来るだろうということからスタートしました。

佐藤 教師としての苦労も大変だったでしょう。当時、

祭りといえは不良が集まりそれが悩みでした。夢中になって雪像を作っているうちに夜になってしまふ。あまり遅くまで生徒を使つてはいけないということで夜の八時にはチャイムを鳴らして帰宅させるよう指導した記憶があります。

坂 その通りです。体力的に限界のある生徒もおりますからみんな同じように製作に参加させるというわけにいきません。個人差を考えながら指導することでは私に限らず実際に現場指導に当つた先生方の大きな課題であつたろうと思います。しかし寒さに耐えて作業を進めていくという苦労があるからこそ出来あがつた雪像を見る喜びはひとしおで、今も生徒達の嬉しそうな表情が思い出されます。

―NHKラジオの放送劇をテーマにして雪像を製作するようになったのは三回目からですね。



栗谷川さん

栗谷川 そうです、最初は森本儀一郎さんの放送劇、「珊瑚の唄」でした。このテーマにちなむ雪像は南高の「魔性」、学芸大学(現在の教育大)附属中学の「群像」などです。

石林 四回は同じ森本さんの「カムイヌプリに雪が降る」で、この時は伏見高が、高さ十五メートルにも及ぶ大雪像「昇天」を製作し観衆をアツと驚せたものです。その雪運びが大変で、市の土木課のトラックを動員してもらつて運搬に当りました。

荒川 第五回は吹雪に見舞われ岸田利彦さんの放送劇「雪が舞っている」がテーマでしたが坂さんが「闘」を出

展しましたね。

坂 私の「闘」と藤川基さんの「聖火」が展示されました。

今井 初期のころは私共の従業員も雪像を作ったんですよ。雪まつりにはみんなが参加しようという自発的な意気込みがありました。各町内会でもそれぞれの趣向で参加していました。

栗谷川 現在は市民の広場で一般の参加を呼びかけていますが、そういう呼びかけが無くても自分たちの雪まつりであるという意識が強かったというわけです。

会場整理に汗ダクのスタッフ

—雪まつりが始まって間もなく商工課のなかに観光係が出来て、初代の係長が荒川さんでした。初期の雪まつりは今のようには雪像がメインの雪まつりではなく、催しを中心だったわけですが、それなりに係としてのご苦労も多かったのではないですか。

荒川 市の機構に観光係が出来たのは昭和二十五年八月で、第一回雪まつりが機縁となって設置されたといえるでしょう。これで、観光事業の振興が体制の上で一歩前進したといえます。初期の雪まつりは歌謡コンクール、タンブリング、スクエアダンスなど、催しを中心でしたが、市や観光協会にはそれを行う予算の裏づけがない。ひつきょう、マスコミの宣伝力に頼ったり、商社のご協力を願うということでした。

五十嵐 雪まつりを行うといっても予算はわずか、宣伝費などはゼロに近い状態だ、申し訳ないが宣伝は新聞社でやってもらえないかという話があり、札幌市のた

めになることではあるし、私もまつりが好きだからそれは引き受ましようということでした。雪まつり前から期間内いっぱい、連日かなりのスペースをさいて宣伝しムードを盛りあげたものでした。今思えば破格のサービスでしたよ（笑）

荒川 当時楽しみの何もない時代でした。まして冬ともなればスキーも今ほど盛んではありませんでしたから雪まつり会場への人出は予想をはるかに越え、非常に盛会でした。

—混雑に催しを途中で中止したことがありましたね。

五十嵐 野外映画には観衆が殺到押すな押すなの大混雑、足元が雪でツルツル滑るものですから映写台が押し

潰されて途中で上映を中止したんです。



荒川さん

荒川 第一回のあとで、丸井今井の平松さんに客の入りを聞きましたら、入るも入ったりで、

通路も通れない位、夏の札幌祭以上の人出、動けないほど入ったものだから売り上げの方はその割に良くはありませんでしたよとニコニコ顔でした。

—第一回の雪まつり風景を16mmで撮影しましたね。

佐藤 あれは北海道通信社に依頼したもので、フィルムは進駐軍民政部のニプロ教育課長の好意でアメリカから取り寄せ、現像も本国へ送って便宜を図っていただいた。

荒川 そのフィルムが戻ってくるのに二カ月位かかり、初夏を迎えた札幌で関係者が集って雪まつりの映画を見ながら、当時の思いを新たにしましたものでした。そのなか

座談会・あの日の証言

で石林さんがスキーのストックを持って会場整理をしている姿が映っておりました。

佐藤 ドッグレース、花火大会など催しのなかで今も思い出すのが市民会館で行われた郷土芸能祭です。

石林 場内整理料として五円以上は税の対象となるものですから四円九十九銭を頂戴した。ところが開館前から大勢が長い行列をつくってまさに押すな押すな盛況でした。

五十嵐 五円持ってくる人が多いがすり銭を渡しているヒマがない。仕方なく窓口のところは一銭玉を積みあげておいて各自適当に持って行って下さい（笑）。

無い無いづくしをみんなでカバー

―初年度の総経費が二十五万四千円余。不足分は賛助金でまかなったと当時の記録にあります―。

佐々木 何しろ無い無いづくしの時代ですから旅館組合はもとより、商社、マスコミの協力が得られなければ何一つとして催しは出来なかった。会場に大きな広告塔を建て協力をお願いしたものです。

今井 札幌市のためになることであるという話は先に五十嵐さんからも出ておりましたが、じつにその通りで雪まつりに協力するというのはデパートとして当然のことでした。会場も現在のように広く使ってはおりませんでしたから協賛行事の「雪の教室」は私共のデパートを使ってもらいました。

栗谷川 初期の雪まつりは遊びのほかに冬を学ぶ心を培おうという意識が強かったと思います。その意味で「雪の教室」は、「雪の神様」と呼ばれていた北大の中谷宇

吉郎教授（故人）の指導で催されたものでした。

佐々木 学生はもとより一般市民も多数会場を訪れ、雪の実態を学び、雪まつりにこうした催しがあるのは大変素晴らしいことだとの評価を受たのを覚えております。

荒川 大通西八丁目で行われた花火大会では、花火のなかに定山溪旅館組合から寄贈されたロマンス招待券を入れて打ちあげ、大変喜ばれたものでした。

今井 冬の花火大会は雲が低いせいか非常にダイナミックなものです。近くのビルに音が反響して豪快そのものでした。

佐々木 花火をバックに雪像が浮き堀りされる。今は近くにビルが林立し、観衆への危険が心配されて中島公園に会場が移ったわけですが、それにつけても初期の雪まつりは実におおらかに行われたといえますね。

五十嵐 催しもそれぞれに吹き出したくなるような楽しさがあった。ドッグレースは、飼い主をソリに乗せてアイヌ犬やセパードがスピードを競うんですが、飼い主を落して犬だけゴールに駆け込んだり、仮装美人探し競争では、開始して三十秒も経たないうちに女性を連れて来る人がいる（笑）

石林 あのころはみんなおおらかでした。労を惜しまず働いた。夜遅くまで残って、雪像づくりににはげむ生徒達を激励したものです。

坂 雪を固めるのに水を使っていますが、そのため生徒のアノラックからツララが下る。それでも寒いなどと嘆く生徒は一人もいなかった。逆に私共が力づけられることもしばしばでした。

―有難度うございました。



中 期

昭和30年(第6回)～41年(第17回)

雪まつり中期は、大雪像製作に自衛隊が参加するようになったことと、真駒内会場が誕生し、折りからの観光ブームにのって全国的な行事に発展したことなどがあげられるだろう。従来までは、中、高校生、一般市民の手で雪像が製作されて来たが、これに自衛隊の大雪像が加わることによつて、まつりの内容がぐっと充実、内外に誇れるイベントに発展していった。時代も落ち着きを取り戻し、レジャー産業華やかな時期を迎える。雪まつりも押せ押せムードのなかで、かくして飛躍への一步を踏み出したのであった。



美香保中が製作した雪像「雪を射るもの」(第6回)会場の観客(下,同)

この年～(30年)

- 北海道のテレビ放送のテストケースとして
北海道放送初放送
- 日本社会党新発足
- 自民党結成

この年～(31年)

- 猪谷千春選手、日章旗をあげる(第7回冬季オリンピック回転競技で2位入賞)
- 日本マナスル征服
- 国連総会で、日本の加入可決

耐寒ラジオ体操、小学生一千人

第6回(昭和30年)2月27・28日

今回は全日本スキー選手権大会(二月十五日(三月一日)が開催されたため、雪まつりもそれに合せて開催された。雪まつり会場は大通西四丁目から西六丁目までで、また全日本純ジャンプ競技大会最長不倒賞の授与式が行われ、自衛隊が初めて雪像製作に参加するという雪まつり史上では画期的な動きがあった年でもある。

NHK協賛の耐寒ラジオ体操は、約一千人の市内小学生がそれぞれ担任の先生に引率されて五丁目広場に集合、北国の千のたくましさを披露、自衛隊の市中音楽パレード、フォークダンスの夕べと、全市的な盛り上がりを見せた。期間中は春を思わせるような暖冬異変で、折りから衆議院議員選挙の行なわれた二十七日は陽気に誘われて大通に繰り出した人はザット十万人、会場は身動きが



出来ないほどの混雑となった。せっかくの雪像も暖かい日射しに崩れかかり関係者をはらはらさせ「冬の女王」「ミスウインター」の撮影会ではどっと押し寄せた観客にモデルも悲鳴をあげた。

雪像は四丁目の中央に自衛隊が製作した高さ十メートルの巨大なマリア像「栄光」がメインで、西側には各出張所八基、東側には各商社が出展した。商社関係については創芸社と次の通り契約し製作するようにした。

①雪像は協会指定の個所に八基、台は四層四方高さ二層としてその上に雪まつりにふさわしい四層以内の雪像を作ること。但し図案を製作し協会の承認を得ること。

②スポンサーから徴収する雪像製作費は一基一万円以内として不当な徴収をして本会に迷惑をかけること

●雪像は二月二十四日までに完成し破損の場合には修理し三月二日まで降雪等の場合は除雪すること
今回の雪像テーマはNHK参加放送劇「雪を射るもの」(高橋善一作)で、五丁目に北海道「タルシスの首」札幌高「雪を射るタルシス」美香保中「雪を射るもの」HBCグループ「メノコと熊」が製作された。

四丁目には各区の作品が展示されたが、曙出張所「雪を射るもの」、鉄東出張所「トポリの峰のタルシス」、鉄西出張所「若者タルシス」、南円山出張所「三人の女神とタルシス」、中央出張所「白鳥を射るもの」、東出張所「女神三像」で、これらに対

この年(32年)

- 南極観測隊、オングル島に昭和基地設立
- 日本国際見本市を東京で開催
- 日本国連安保理事国に当選

して放送局長、札幌市長、札幌観光協会会長連名で感謝状と謝礼金五千円を贈呈した。このほか五丁目の聖恩碑前に雪壁を作り彫刻家、藤川基さんの「北風」を展示した。

催しは「耐寒ラジオ体操」「三つの歌」「全日本スキー純ジャンプ最長不倒懸賞募集」「音楽隊市中行進」「天然記念物北海道犬雪中展覧会」

「小学生雪像展、手ソリにのせたもの」「冬の女王」と「スイートガール撮影会」「歌謡コンクール」「舞踊」「野外映画会」「フルヤ子供大会」など、「冬の女王」「スイートガール」撮影会は、中島公園から雪



熊の雪像をバックに美女撮影会

まつり会場まで犬ソリとトラックのパレードを行い、雪まつり会場で撮影会を行なった。古谷製菓の「フルヤ子供大会抽籤会」は札幌市広報二月十五日発行分を雪まつり特集号として雪まつり記事を掲載紙面の一部にプログラムを印刷し、番号を入れ、二十七日午前十時からステージで、冬の女王、ミスウインターによる抽籤会を行った。

舞踊は雪印乳業(株)がスポンサーになり、日ノ丸、札幌、内山、本間各舞踊団が出演し、児童におみやげを贈って喜ばれた。

札幌駅ホームにステーションデパートの協力を得て五色提灯をつるしムードを盛りあげ、ステーションは三越デパートの寄贈、舞台の引幕は、(株)今井デパートから寄贈を受けた。記念タオルを、(株)今井、五番館、三越から、記念手ぬぐいをステーションデパート映画入場券二百枚を映画協会、風船二百個を各製菓会社からそれぞれ寄贈を受けたため、出演者や関係者に配布する一方雪まつりのPRに使用した。

勇壮な雪戦会に人気集中

第7回(昭和31年2月4・5日)

札幌市、札幌観光協会、市教委、商工会議所が主催し、後援団体は、札幌鉄道管理局、北海道新聞、北海タイムス、NHK、HBCなどである。

会場は第一会場が大通西四丁目から西六丁目、第二会場は荒井山スキー場として展開、この年自衛隊員二百人による雪戦会が行われた。雪戦会に

ついでには雪まつりを実施することにしたとき戦前一中(南高)で行っていた雪戦会を札幌市の行事として復活したいという意向が関係者間にあったもの。

雪像は雪不足のため当初予定した雪像二十一基を十四基に減らしてようやく開催にこぎつけたが、自衛隊が四丁目製作した愛馬に乗った楠正成の像「至誠」は、会期中の三日にプラス二度と平年より七度も高い暖気に見舞われたことと観客が馬の尾にブラ下がつって折ってしまい、応急手当も追いつかず閉会前に取り壊さなければならぬ破目になった。このためカメラを持って雪像をバックに記念写真をと集まった観客はがっかり、暖気で舗道に水が走り、ポタポタと汗をかき熊、尾のシンにしている縄が投げ出してしまいう牛など、暖気もたらしたハプニングには主催者側も大弱りだった。

テーマ雪像はNHK放送劇、岸田利彦作「獵人と雪と少女」で、そのテーマに沿って製作されたものは美香保中の「熊と闘う狩人」札幌中央地区「ルカと少女」札幌本部地区「雪と少女」の三基でほかに商社の宣伝像が九基、レリーフの一基がそれぞれ製作された。

今回は雪像製作の中心にあった高校の参加がなく関係者をさびしがらせた。

催しは「耐寒ラジオ体操」「闘犬」「バスガイドの観光地案内」「写真コンクール」「雪戦会―自衛隊」などである。

この年～（33年）

- 南海丸沈没，167人死亡
- 第3回アジア競技大会，東京で開催
- 北海道大博覧会開催

この年～（34年）

- メートル法施行
- 皇太子殿下と正田美智子さんがご成婚
- 伊勢湾台風，死者5,200人を越える
- 札幌市，アメリカ，ポーランド市と姉妹都市提携を結ぶ

耐寒ラジオ体操はNHKラジオ体操会に、一般市民も参加して行われ、とかく室内に閉じこもりがちな冬の生活を戸外で明かるく過ごすという雪まつり本来の面目躍如といったところ。バスガイドの観光地案内では、各バス会社から最も優秀なガイドを出演させ、観光客は雪まつり会場で観光地巡りが出来ると大喜びだった。



暖気で討死した「至誠」（第7回）

特別行事として、第四回から始まった

写真コンテストの撮影会はとくに盛大で「冬の女王撮影会」や「スイートガール撮影会」は非常な人気。ほかに荒井山スキー場に新しく設置されたスキリフトで空中撮影会も行われた。

もっとも人気が高かった催しは自衛隊員による雪戦会だった。百人づつ紅白に分かれた隊員が、軍艦マーチの伴奏で勇壮に騎馬戦を展開、東西両側につくられた高さ四、五層の雪の城を奪いあうもので、はちまきにワラジばきの隊員が冷たい雪の会場で熱戦を

繰りひろげた。

一方土佐犬の闘犬も親が熱中するあまりに迷子が続出、観客がエイサイトして場内が混乱したため四十分で中止のやむなきにいたった。四日に行われた音楽パレードは冬の女王を先頭に札幌高が五色のテープと風船で飾りつけ四十台の車で目抜き通り四*を行進した。

雪まつり参加規定をつくり商社に送付した。内容は催しや、雪像、アーチ、広告塔、馬ソリパレード、雪まつり提灯などと各項目に分けたもので、気軽に参加出来るように注意して作成した。

札幌中央警察署では道警から機動隊の応援を得雑踏の事故防止と場内整理に当った。

雪まつりの企画、運営を一本化

第8回（昭和32年2月2・3日）

雪まつりも回を重ねるに従って観客の増大、また協賛商社数が増えて来るなど、次第に大型化して来たため、催しその他に規定を設けたのはじめ、事務局を設置した。事務局は団体役員、市職員で構成し、企画、運営などの組織づくりを行うというもので、のちに設置された雪まつり実行委員会の基盤になったものである。

会場は今回から北海道新聞社が雪まつり主会場に参加することになったため、大通西三丁目から西六丁目まで拡大されることになった。

雪像は自衛隊が製作した「大雪像七福神」が四



大雪像「七福神」は本州方面に雪まつりの名を高めた（第8回）

この年～（35年）

- 尾関雅樹ちゃん誘かい事件起こる
- 全学連国会構内に入り樺美智子さん死亡
- カラーテレビ放送開始
- 浅沼稻次郎社会党委員長刺殺さる

この年～（36年）

- 天皇、皇后両陛下が植樹祭にご臨席のため行幸啓
- 札幌交響楽団発足

丁目広場に展示され、そのみごとな出来栄はさつぽろ雪まつりの表徴として道内外の人びとの話題となり、全国的な催しへの足がかりとなった。ほかに中、小雪像が三丁目、十二基、四丁目に十八基、五丁目に五基が製作された。

催しは「バスガイドの全道観光地案内」「歌謡コンクール」「自衛隊吹奏楽演奏会」「郷土民謡と踊り」「バレエ公演とファッションショー」「打上げ花火」「雪戦会―自衛隊」撮影会」などと盛りだくさん。会場一帯は白い雪像群のなかに赤、青、黄など色とりどりのアーチ、旗などで飾りつけ華やかだムードを盛りあげた。

初日の二日は朝からあいにくの雪模様となったが、その雪について「冬の女王」「スイートカー」を乗せた宣伝カーが市中をパレード。午後から雪も晴れ、観客がドツと会場に押し寄せた。五丁目の特設舞台では、歌謡コンクールなどいろいろ



流行の先端をゆく当時の冬のファッション(第8回)

ろな催しが行われ、夜の打ちあげ花火で幕を閉じた。

三日は気温がマイナス2・3度と絶好の雪まつり日和に恵まれた。人垣が沿道を埋めつくすなか自衛隊、学生、道警音楽隊約二百人がにぎやかに市中パレード、まつりムードを高めた。

催しのなかでも人気の高い自衛隊員の雪戦会には約二万人の観客が集まり、勇壮なゲームにやんやの拍手。しかし、ゲームが白熱化するにしたがつて、興奮した観客が押し合いになって転倒し、鼻血を出すものも出る始末。このため事務局では会期終了後の反省会で協議した結果、負傷者が出る心配もあるとして、次回から中止することに決めた。

回数を重ねるに従って人気行事となった撮影会は、各商社の協賛行事という形をとって来たが、

フィルム、モデルなどの提供を申し入れが増え混乱を招き兼ねない状態になったため関係者から会場使用場所と時間の割振りについての問題提起がなされた。このため、主催者側では次回からルールに沿って運営していくことを申し合せた。今回の観客は前回同様約二十万人の動員が見られ、会場は混乱したため中央警察署や、ボイスクアウトが出て雑踏整理にあたった。

前夜祭、カーニバルに人垣

第9回(昭和33年2月7日～9日)

会場を大通西三丁目～西八丁目まで拡大、会期も一日延長して前夜祭を行なった。また初回から使用して来たポスターを今回から新しいデザインのものに切り替え、新鮮さを前面に打ち出したのが大きな特徴といえるだろう。折りから札幌市を主催場に北海道大博覧会が開催されたため、雪まつりも道博の前哨的使命をになって規模、内容共に充実したものとなった。

雪像は全部で四十二基。自衛隊の大雪像は道博にちなむ「栄光三人像」を三丁目に、姫路の「白鷺城」をモデルにした「白雪城」を四丁目にそれぞれ製作したが、そのみごとな出来栄は観衆の人気のマトになった。ほかに中、小雪像を三丁目に八基、四丁目、二十基、五丁目十二基を製作した。

催しは「前夜祭―五丁目特設舞台」「郷土民芸大会―同」「氷上カーニバル―五丁目スケートリンク」

雪像「道博栄光の像」前で女学生コーラス 凍てつく2月の空に美しいハーモニーが（第九回）



「歌謡コンクール、子供大会」「コーリー犬鑑賞会」「バスガイドの全道観光地案内」などが行われた。

過去二回人気のあった自衛隊の雪戦会が中止になったため、行事のプログラムに大きな穴があき観客動員への影響が心配されたが、今回は自衛隊製作の雪像に人気が集まったことなどと合せて、催し全体も評判を呼び会期中通して盛りあがったとくに、前夜祭の主会場となった五丁目特設舞台の周囲には家族連れの市民でいっぱい。雪像が水銀灯で美しく浮き出された会場では、ブラスバンド演奏会のあと、郷土民芸大会で幕開け、多彩なプロで夜遅くまでにぎわいを見せた。

八日は午後から雪が降りはじめ夜まで続いたが、五丁目のスケートリンクで行なわれた氷上カーニバルは、戦前中島公園の池で行なわれ市民にはなじみ深いもの。それぞれの仮装に趣向をこらして市民がリンクを回り、仮装の出来栄を競うもの



白雪城（第9回）

で人工衛星、三悪追放、ノッポとチビの国際結婚など時局的風刺、ユーモアたっぷりな仮装が目立った。

九日の最終日は好天に恵まれ日曜日とあって会場は人垣に埋まって雪像見物もままならないほどにぎわった。ブラスバンドの市中行進が行われたあと、コーリー犬鑑賞会、撮影会、バスガイドの全道観光地案内などは超満員。中央警察署の臨時派出所では、係員が雑踏整理と迷子の続出にてんてこまいだった。

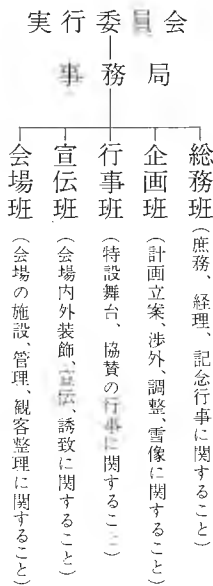
市電をはじめ各交通機関ではつぎつぎと増車をしたが間に合わないほど。大通バスセンターはバスを待つ人の列がいつまでも続いた。

盛大に晴れの十周年を祝う

第10回へ昭和34年2月7・8日

今回は十周年を記念、数多くのプロが組まれたほか、企画運営についての組織化をはかるなど画期的な動きがあった。

まず円滑な運営をはかるため雪まつり実行委員会が組織された。機構は次の通り





黒山の人垣、中央の雪像は牛若丸に弁慶(第十回)

内容については、前回までの二倍に近いスケールで観客動員五十万人を目標として全般の計画が進められた。基本的には①多彩な内容とし雪まつりの雰囲気を感じあける②観光行事として広範な郷土性を織り込む③全会場を充分利用し観客の流動を良くする④雪まつりに協力する参加者(団体・業者)は平等に受け入れ市民参加という基本線に沿って雪まつり開催の意義を高めていくことを申し合わせた。

会場は大通西三丁目と西八丁目を主会場とし予備会場を大通西九丁目に設けた。配置は三丁目小舞台、雪像、四丁目雪像、各種協賛行事、五丁目大舞台、雪像、六丁目雪像、協賛行事をそれぞれ行う事にした。

十周年記念行事については「十周年記念式典と記念パーティー」は二月七日正午から特設舞台で記念式典を行い、札幌市長から札幌観光協会名誉会員、近藤直人氏に表彰状、協力団体として陸上自衛隊北部方面総監部など十五団体に感謝状がそれぞれ贈呈された。産業会館で関係者約三百人が集まり祝賀記念パーティーが開催された。

このパーティーに出席したなかには日本航空招待の国内有力エージェンツ代表者十二人も含まれていた。

一方「雪まつり観光映画の製作」では雪まつりを主な内容とした冬のさっぽろを紹介する観光映画(カラー、16mm、光学録音)、一〇〇フィートを撮影した。また「雪まつり写真集」を発行した。

昭和二十五年の第一回雪まつりから十回までの主要な写真を集録した、写真集(A五判、写真七十三枚約六十頁)を発行した。

「観光写真展の開催」二月十日から六日間丸井今井四階催し場で、第二回冬のさっぽろポスター展と併設、道内観光写真展(道内主要観光地カラー写真四十枚、道観連提供)を開催した。

雪像は例年になく雪不足に見舞われたため一般が製作する雪像については開発局、市建設部のトラック約六百台が繰り出し、定山溪、中山峠方面から雪の輸送にあたり、大雪像では自衛隊のトラック約百五十台分で輸送した。雪像製作必要人員は中小雪像約一千人、大雪像千五百人を動員するという大がかりなものであった。

展示された雪像は、大雪像三基(陸上自衛隊一〇一通信大隊)で三丁目に「南極船宗谷」四丁目「五条大橋、牛若丸と弁慶」五丁目「雪の時計台」。中小雪像は六十一基で、北海道新聞十基、北海タイムス二十四基、NHK(放送劇、北の勇者)七基、HBC二基、毎日新聞三基、一般市民七基、商社六基、国鉄一基、日本航空一基で三丁目に十九基、四丁目に二十四基、五丁目に六基、六丁目九基など。

北海冷温(株)の提供、札幌割烹調理士会製作による「雪氷即席彫刻会」も催され好評だった。これに使用された氷は約二千貫。

催しは前夜祭からスタートして、全国民謡めぐり大会、映画会、雪まつりバラエティーショーと



おとぎの世界へ、龍宮城を去る浦島太郎（上 第11回）
寒さなんか平気だよ、耐寒ラジオ体操（右、同）



この年～（37年）

- 三河島駅構内で国電三重衝突。死者150人
- 東海村原研の国産第1号原子炉に点火

この年～（38年）

- 名神高速道路開通
- 核実験停止条約に調印
- 米通信衛星による日米間の中継成功

多彩で、まず六日午後五時の大音楽パレードの市中行進で開幕。自衛隊、道警、北海学園大学のブラスバンドを先頭に、たいまつを持ったボーイスカウト、スイートガール、ミスサクラと続き、列中には市内愛犬家の北海道犬三十頭も参加するというユニークな行進を展開、沿道を埋めた市民を楽ませた。

七、八日の催しには、三十五団体、一千人が舞台出演、協賛十六行事には千五百人の合わせて二千六百人が参加した。なかでも映画女優がモデルとして参加した撮影会はなかなかの評判で、カメラマニアが列をなす会場に自衛隊のヘリコプターが花束を投下するなどムードを盛りあげた。

出演したモデルは大映女優の叶順子、市川和子さん。ミスワールドの戸倉緑子さんに、「冬の女王」「ミスウインター」四人、ミスサクラ四人、スイートガール五人、ミス北海道の長瀬悦子さんの十七

人という豪華版だった。

会期中は晴天に恵まれ、三日間の観客動員は延べ五十五万人。ピーク時の会場流動人員は十万人と推定され、この交通整理には警察官約百人、ボーイスカウト百二十人、北海学園生徒二十人があたり、赤十字社の救急車一台が会場に常駐、市清掃部の移動トイレ六台が出動した。全会場の統括と迷子等の場内放送には五丁目に事務局本部を設置これにあたったが、迷い子（たずね人）の放送件数は約五百件以上にものぼった。

特筆されることは、雪まつりが初めてテレビ、新聞、週刊誌等で紹介されたこと、これが契機となって大挙観光団が来札するようになり、夏の観光にも大きく寄与した。

全国的な催しへと発展

第11回（昭和35年2月5日～7日）

今回目立った点は本州からの観光客が増加したことであろう。主催者側では前年から「札幌の雪まつりから日本の雪まつりへ」をキャッチフレーズに、日航、交通公社等とタイアップ冬季観光客誘致に積極姿勢を見せたが、今年になって効果が出て、東京、大阪等の旅行あつ旋業者が送り込んで来た団体客をはじめ、米軍三沢基地の将校四十数人等、前夜祭の五日にはめばしいホテル旅館はいずれも満員、実行委推定で一万人以上の観光客が来札した。

前回は十周年記念の年ということから特別企画

でまつりムードを盛りあげる一方、関係機関で構成する実行委員会を設置、雪まつり運営の組織化をはかったことから、十一回以降の雪まつりは進行上のトラブルが少く、運営が円滑に進んだことは特筆に価するところ。

だが今回の雪まつりは、大陸に張り出した低気圧のいたずらで、六日夜には季節はずれの雨に見舞われるなど、観客は春先のように雪の融けた会場で、足元を気にしながらの雪まつり見物となった。



牛の表情が何とも―大雪像「サイロのある風景」(第二回)

会場は大通西三丁目から西九丁目までで、雪像は全部で八十基、自衛隊が製作した大雪像は三丁目の「竜宮城」四丁目に「サイロのある風景」。北海学園大学製作の大壁画が六丁目につくられた。

このほか北海道新聞、北海タイムス、各商社協賛の雪像六十基、NHKの放送劇テーマ像六基、市民参加雪像十一基がそれぞれ製作された。

小雪像のなかには「ロッキードを買った岸さん」「危機に立つドゴール將軍」などちよっぴりワサビを効かした風刺的な雪像も顔を出し、観客も思わず苦笑。

ところがこれら傑作も、六日からの暖気と夜の雨に崩れてさんざん。エスキモー小屋を形どった北極ランドは危険になったため立入禁止のバリケードがはられ、「岸さん」や「ドゴール將軍」も台座から倒れてしまった。しかし、自衛隊が製作した大雪像二基は形はかなり壊れたもののどうやら会期終了までは健在で、主催者やカメラマニアを喜ばせた。

呼びものの雪像は自然のイタズラで倒れてしまったものの今回から「北海道らしさ」をメインに力を入れた催しものについては本州からの観光客が多数参加したこともあって非常に好評だった。

まず前後祭の五日は午後五時からパレードが行なわれた。ミス雪まつりを先頭に百五十人のボーイスカウト、道警、自衛隊等六団体のプラスチックバンが市中行進、ビルの上から紙吹雪が舞い、びっしりと沿道を埋めた市民を楽しませた。

会期中に行なわれた催しは「腕相撲大会」「耐寒ラジオ体操」「マーチ演奏会」「子供バレエ大会」「市中音楽パレード」と盛りだくさん。人気を集めたのは六日夜に行なわれた「アイヌの熊まつり」。旭川市近文のアイヌ部落から川村カト酋長(故人)をはじめ三十人が参加し、舞台の上でアイヌ小屋を建て、あかあかと燃えるかがり火の前で仔熊を引き出し、哀愁を帯びた古式ゆたかな熊まつり、イオマンテを披露。舞台を取り巻いた観客を魅了した。

北海道情緒豊かな江差モチつきばやしなども同時に披露されたが、その模様はNHKやHBCテレビで全国に放映されたため、雪まつり終了後熊本など暖かい地方の人達から、「北海道にこんなに楽しい行事があるのは知らなかった」という反響が寄せられ主催者を喜ばせた。

札幌割烹調理士会の雪氷即席彫刻会会場では、大きな氷がみるみるうちに五重塔、宝船に彫刻され、そのみごとにきつめかけた観客はびっくり。

三日間を通して人出はザット七十万人。会場は連日人の波に埋まったが、札幌駅の乗降客も平日の二万四千人を大きく上回り、六日が三万五千人七日は五万人となった。いずれも近郊町村からの雪まつり見物客が大半で七日の午前中まで到着した列車は超満員、このため駅では乗降客をさばき切れず各列車ともホームで十分から十五分立ち往生するという混雑ぶりだった。

この年～（39年）

- 新潟地震起こる
- 東海道新幹線開通
- オリンピック東京大会開催

この年～（40年）

- 万国博覧会1970年に大阪で開催決定
- 朝永振一郎博士、ノーベル物理学賞受賞

この年～（41年）

- 全日空機、カナダ航空機相ついで墜落
- 国会で黒い霧追放質疑、田中彰治議員逮捕



円山動物園が移動？「雪の動物園」(第12回)

「白い雪」求め東奔西走

第12回／昭和36年2月3日～5日

主会場が大通西一丁目から西八丁目まで拡大されて開催された。極端な雪不足に見舞われ雪像製作が危ぶまれるほどだったが、自衛隊をはじめ主催者側では雪集めに東奔西走ようやく開幕にこぎつけた。

雪まつりのメインになっている雪像の製作過程で高いウエイトを占めているのが雪集めである。市中の雪はチリやホコリで汚れているため、雪像をつくっても溶けやすく、このため「純白の雪」を中山峠や定山溪、丘珠方面から会場に運び込むことになるが、自衛隊が作る大雪像一基に必要な



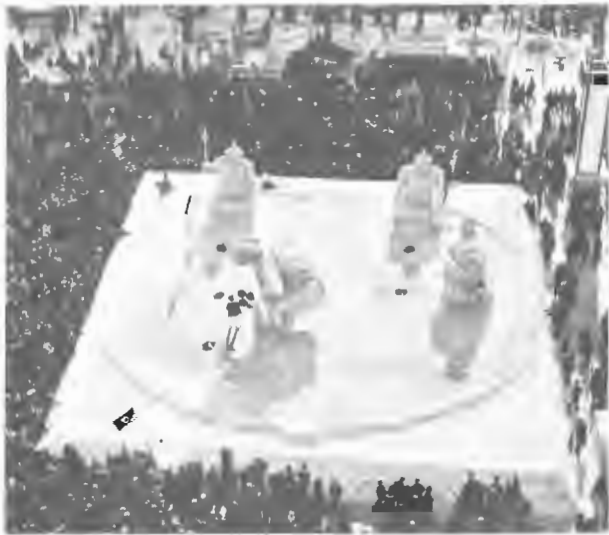
楽しい氷上カーニバル（第12回）

雪の量はトラック二百台分。例年七、八百台分の雪を大通会場に運び込んでいる。

今年は雪不足に合わせて暖冬異変に見舞われたため会期中に崩れかかった雪像の化粧直しも必要になり、雪輸送にかかる経費は例年よりも多くなった。会場には雪像を中心に美しい電飾の塔、アーチのほか、ボンボリがずらりと並べられ、照明塔を増設したので会場はかなり明るく、華やかな雰囲気をもも出した。

雪まつりのハイライトはなんといっても自衛隊製作の大雪像だった。西三丁目の「西遊記」はおなじみの孫悟空や猪八戒などが愛嬌をふりまき、四丁目の「雪の動物園」は、白熊を中心にライオンキリン、オットセイと円山動物園がそのまま大通に引っ越して来た様な感じで子供達は大喜び、また前回に引き続き北海学園大学の学生達が製作した暴力追放をテーマにした雪像「節分」は圧巻だった。ほかに協賛雪像四十五基、市民参加雪像八基、NHKのテーマ像五基、即席ゲーム像七基、生花造形像二基、氷彫刻像六基の合わせて七十六基が展示された。小雪像の中には「北国に生きる」「ケネディとフルシチョフ」など、秀逸な作品が目立った。

二日の前夜祭はたいまつパレードで開幕。暖気で水びたしになった通りをミス雪まつりを先頭にたいまつをかざしたボーイスカウトや道警、自衛隊等のブラスバンドが市中行進。期間中の催しは、七、八丁目をフルに使ってアイスダンス、フィギ



庄巻横綱大鵬の土俵入りは札幌工業高校と自衛隊が協力して製作したものである（第13回）

ユア模範演技と、今回初めての催しも行なわれた。ほかにコリー犬、北海道犬展覧会、全道腕相撲大会、のど自慢歌謡コンクール、ブラスバンド演奏会、全国民謡めぐりなどが催された。

一方、新聞、ラジオ、テレビ、ポスター（今回四種を作成）と雪まつりが全国的に広く紹介された事から、本州方面や道内各地から訪れた観光客は二十三万人に達した。うち、北海道スキー観光団が雪まつり見学日程をバックしてやって来たほか、全日空が東京の中学生を雪まつりに招待して喜ばれた。

札幌駅はドツと押し寄せた観客でごった返し、四日午後六時から五日午後三時までに、約九万五千人の乗客で平日の三割増。デイズルカーもド

アを閉められず、乗客はデッキにしがみついて札幌入りした。札幌市内の電車、バスも超満員で、市営バスは運休中の車輛も繰り出してフル運転。こちらも平日の二倍の乗客をさばくのに車両のやりくりが大変だった。

経済効果を知る上での手がかりとなるデータは、土、日曜と重なって平日の二・五倍の人口。群なす客の応待に従業員はてんこまい。五日にタイムスホールに開設した無料休憩所は家族連れやアベックなど約一万人の利用者。札幌酒精のアマ酒五斗がたちまち売り切れた。

会場整備にあたった札幌中央警察署の臨時派出所には迷い子の届出が相いつき、期間中に延べ五百人とこちらも盛況？。

「雪まつりの歌」できる

第13回（昭和37年2月2日～4日）

大通西一丁目から西八丁目を主会場として開催された。前年に引き続き雪不足に見舞われ主催側をヤキモキさせたが一月十四日になって五十センチの積雪がありようやく息をつく状態だった。

今回は三丁目の使用制限があったため、これまで催し物の会場としてはあまり使用していなかった七丁目を使うことにし、特設舞台も従来までの五丁目から六丁目に移し、全般的には西側に重点を置くように企画された。

メインの雪像は自衛隊と高校、大学が協力して製作した大雪像など素晴らしい出来栄えのものが多

く観客の目を楽しませた。

まず三丁目には自衛隊の「世界名作彫刻展」。ロダンの「考える人」、マリーンの「木馬」、マイヨールの「裸婦」と世界に知られる彫刻の数々が製作された。

四丁目の「横綱大鵬の土俵入り」は札幌工業高校工芸科と自衛隊が協力して製作したのだが、北海道出身の横綱大鵬を中央に、太刀持若三杉、露払い宮柱、行司木村庄之助で、横綱堂々の土俵入りを再現したものである。七丁目の「オリンピックは自衛隊と学芸大学美術部が製作したがアテネの宮殿をバックに、ギリシャのスポーツ群像を形どった豪華版だった。五日夜の最終日には、オリンピック宮殿に聖火が灯され、夜空に花模様を描く打ち上げ花火で雪まつりのフィナーレを飾った。

中、小雪像ではNHKテーマ像五基、市民製作像七基、商社協賛像六十四基、氷像一基、生花造形像一基の大雪像も合わせて八十一基。「イヨマンテ」「鬼退治」「仁徳天皇とばい煙」施設の子供達が作った「母子像」や、氷の芸術「五重塔」など異色あふれる作品が目立った。

二日の前夜祭は市民会館を会場に、昼夜二回北海道民芸大会が開催された。本道に伝わる民謡や踊りで冬の一日を楽しく過ごそうというもので、この催しには養老院のお年寄りや、施設の子供達千人を招待した。

六丁目会場の舞台では「雪まつりの歌」の発表会が行われた。これは雪まつりにふさわしい健康



大雪像ガリバー旅行記（第14回）

ンポスの神々が涙を流すなど主催者側をはらはらさせるひと幕もあった。

人出の方は前回は上回り、催しものは高校生のマーチ演奏会、ファッションモデル撮影会、歌謡のど自慢大会と多彩に行われ、どこも人垣が出来るにぎわいだった。

観客数はザット八十万以上だった。

真駒内スノーフェスティバル誕生

第14回（昭和38年2月1日～3日）

的で明るい歌を作ろうと、実行委が歌詞を全道から公募したところ一千二百十名の応募があった。この中から厳しい審査を経て入選したのは三笠市の吉田隆雄さんの作品。作曲家、桑山真弓さんが曲をつけ、発表会当日は北大、北星短大の合唱団員によるコーラス、桑山さんの指揮によって披露された。

ポートランドのシュランク市長の代理でアーウィング・レーエン氏（カリフォルニア州の木材会社社長）がカリフォルニア州パサデナ市で開かれた山車パレードで、ポ市が出品した「さっぽろ号」が全米二位に入賞した記念写真を持参し来札、雪まつりを楽しんだのをはじめ、外人観光客の姿が目立ち始めた。

会期中は連日晴天に恵まれ、絶好の雪まつり日和となりコートも要らないほどの暖気だったが、大雪像の大鵬のマゲ大いちやうが崩れたり、オリ

会場は大通西二丁目から西十丁目まで拡大されて開催された。今回も雪不足に悩まされ、近郊のスキー場も土がでてしまうほど。一月中旬になってかなりの積雪があったものでもまだ不足で、真駒内自衛隊駐とん地から雪を運びようやう間に合わせる状態だった。

今年の目立った動きとしては真駒内スノーフェスティバルが催された。これまで真駒内自衛隊駐とん地で隊員の雪像コンクールやレクリエーションを行っていたが、大変立派な雪像が展示されているのを見た陸上自衛隊第十一師団、平井重文師団長から隊内の催しだけにとどめて置くのは惜しいという話が出て、スノーフェスティバル開催となった。雪像は、自衛隊製作のものに平岸中生

徒が作った雪像二十七基。「滝不動」「二重橋」「仁王」「金剛力士像」「かくや姫昇天」などの力作。

またススキノの旧東本願寺跡でも「徳川将軍ビールを飲む」など、ユーモラスな雪像十二基が並び通りすがりの人達の目を楽しませた。

大通会場に製作された大雪像は三基で、いずれも童話をテーマにしたもの。まず二丁目には自衛隊と北海学園大学が協力して製作した「ガリバー旅行記」四丁目には、自衛隊と学芸大学製作の「シンデレラ姫」七丁目には自衛隊の「アラビアンナイト」

ほかに中雪像が十四基、小雪像が五十五基、氷彫刻像五基、生花造形像一基で「北国の詩」「大漁と牧歌」「ウサギの郵便配達」月よりの使者」

催しは、高橋圭三ショー、西田佐知子ショー、スター千一夜、アイヌ大展覽会、写真撮影会、サヨナラ雪まつりショーなど盛りだくさん。NHKのドラマ「若い季節」のロケが会場で行われたこともあり、有名タレントの来札が目立ち観客を喜ばせた。主なタレントは高橋圭三、西田佐知子、ペギー葉山、山本丈晴、富士子夫妻、淡路恵子、坂本九、森山加代子などで雪の札幌を満喫、この模様はテレビ、ラジオなどで全国に紹介された。

一日の前夜祭には、在日米陸軍第二九六軍楽隊、道警、自衛隊など約二百二十人のブラスバンドが、バトンガールを先頭に市中行進、市民会館では日米親善音楽会が催され、雪まつりを通して国際親善の輪を広げた。

期間中は通して好天に恵まれ、絶好の雪まつり日和となったため、一般市民や、近郊近在から、さらに臨時列車やバスで札幌入りする観光客で会場はもちろん、中心街も身動きが出来ないほど。とくに最終日はどっと繰り出した人出はそのままた中心部の商店街、映画館、デパートに流れ込んだためどこもかしこも超満員。狸小路は終日人波が通りを埋め、夏まつりをしのぐ売り上げを見せた。飲食店は午前十時ごろから客の切れ間がなく店員もてんでこまい。定員の二倍近い客が立て込んで席の奪い合い。ある映画館ではあまりの混雑に木戸止めをしたところ「入れろ入れない」の押し



大雪像「オリンピック・スタジアム」ステージで雪像引渡式(第15回)

問答もあった。どこも平日の二倍近い客。デパートは平日の五倍近い売り上げにホクホク顔だった。会場の方は雪像をバックに写真を写そうとしても、あまりの混雑にそれも出来ず、迷い子も三百六十七件、たずね人千五十六件、呼び出しマイクは休むひまもないほどだった。札幌市立緑ヶ丘小の上田明美さんと級友が雪のない鹿児島市城南小の下野陽子さんを雪まつりに招待するなど、数々の美談も生まれた。

オリンピクムード一色に

第15回(昭和39年1月31日)〜2月2日

オリンピック東京大会が開催され、冬季オリンピックを札幌へ再度誘致しようという市議会で議決された年でもあり、このため雪まつりもオリンピックムード一色に包まれた。

会場は大通西二丁目から十丁目までを主会場に開かれた。実行委では、「百二十万人以上」の観客動員目標をうち立てたが、初日三十万人、二日目四十万人、そして最終日二日は八十八万人近くの人々が来札したと推定され目標を上回る盛況ぶりだった。本州からの団体客もグンと増え、前年の千五百人を上回って二十人以上、米軍の三沢基地からやって来る外人観光客が目立った。

真駒内第十一師団内のスノーフェスティバルは大通会場より一足早く二十八日から開幕したが、PR不足や距離的にも問題があつて前半は振るわず初日は四、五千人程度に終わった。しかし一日に

なつて三万人、二日も三万人と大通会場に負けじ劣ずの盛況ぶり、このため真駒内に通じる藻岩橋中の島方面はマイカー族の車がスズなり、いたるところで交通マヒをきたした。

大通会場は、自衛隊が作った大雪像がまず、二丁目に「おとぎの城」七丁目にはエジプト古代遺跡を模造した傑作「スフィンクス」それにオリンピック協賛雪像は四丁目に「オリンピック・ハイライト」六人の選手が障害物競争を競う姿を表現した力作。さらに東京オリンピックのメインスタジアムを形づくった「オリンピック・スタジアム」これは、縦十四、横二十五、高さ十四の大規模な雪像。

このほか中雪像六基、小雪像六十五基、氷彫刻像二基、生花造形像一基、壁画一基が展示された。「二〇一匹ワンちゃん大行進」「アトム劇場」「黒田清隆と永山武四郎」「時計台」などと、見た目も楽しい雪像がズラリと展示されて観客を喜ばせた。催しものとしては、おおば比呂司、工藤恒美、富永一朗、西川辰美各氏によるまんが集団壁画展「ジュークボックス」、自衛隊北部方面音楽隊による雪の吹奏楽、札幌対抗歌合戦、全国歌謡ショーなどが行われた。

三十一日は雪像引渡式のあと雪まつり音楽パレード。開会式は大雪像「オリンピック・スタジアム」をバックに、ファンファーレ、開会挨拶、祝辞など形通りに行われ、オリンピック賛歌の合唱、雪でつくられた聖火台に点火と、オリンピック開会



高さ10メートルの大雪像「奈良の大仏」(第16回)

またこの年は前回同様深刻な雪不足で、一月中旬に入ってもわずか十一センチの積雪があっただけ。このため真駒内からの採雪も出来ず丘珠方面から雪輸送に当るなどの苦心もあった。

真駒内会場正式に参加

第16回(昭和40年2月5日～7日)

大通会場は西二丁目から西九丁目を主会場に、九丁目を「市民の広場」として一般に解放、市民に積極的に参加してもらおうよう配慮、市民全体で雪まつりを育てていこうと呼びかけた。

今回から真駒内会場が正式に第二会場として参加した。大通会場は見ても楽しむ雪像展と催し、真駒内会場の方は、観客が雪に触れ、雪中で遊ぶ喜びを味わってもらうための会場構成にした。

期間中、沖繩の遺児、名嘉真弘君と母親の節子さんが関係者の招きで来札し、札幌に住む祖母の河村ハルさんと感激の対面をするなど、北と南を結ぶドラマチックな出会いが演出された。

雪まつりの花形、大雪像は、大通会場に三基。

二丁目に高さ十メートルの「奈良の大仏」。かたわらに鳥獣戯画を彫り込んだ能舞台、池などを配置した。

この雪像にはお年寄りが生花を供えるなど、数多くのエピソードが生まれた。四丁目には「冬の動物園」。巨大な氷山をバックに白熊、オットセイなどの雪像がつくられ子供達の人気を集めた。七丁目には「春告魚」を製作、にしん御殿の大雪像に

灯台、ヤン衆を組み合わせ、にしん漁場に盛えた

北海道日本海岸のありし日をしのぶ大作。八丁目には「東海道新幹線ひかり号」で、国会議事堂、大阪城を結んで走る新幹線ひかり号を模造した。

真駒内会場には、城の周囲二百六十メートル、天守閣の高さ十八メートルという「大阪城冬の陣」恐竜や大昔の動物を再現した「古代動物園」デイズニールランドを思わせる「夢の遊園地」かぐや姫や、かちかち山などを配した「おとぎの国めぐり」の四基が製作された。

中雪像は宝船に乗る七福神をはじめ、両会場合わせて二十基、小雪像七十二基、氷像二基、生花像一基、壁画像一基が製作された。新設された「市民の広場」には、各職場のグループなど、市民手づくりの雪像が並べられ、大型化していく雪像のなかではのぼりとした北国の人の春待つ心をうかがわせ、好評だった。

五日午前十時の自衛隊から実行委への雪像引渡式を皮切りに、午後からは雪まつり音楽パレード、午後五時から開会式が行われ十六回目の雪まつりの開幕。

大通会場は弱電業界の不況の影響を受け、照明塔、アーチなどが少く、会場装飾は充分とはいえなかったが、会期中は晴天に恵まれ、絶好の雪まつり日和となったこと、豪華な雪像群が展示され、会場の催しも多彩だった。

主な催し物は、大通会場では自衛隊北部方面音楽隊吹奏楽大会、コロンビア歌謡ショー、ジュークボックスただいま放送中、ズバリ当てましょう、と

式を模写して行なわれ参観者の感激を誘った。

雪像をバックに趣向を凝らしたテレビ、ラジオの生放送や録画どりに東京から駆けつけた一流タレント、森山加代子、旗照夫、勝新太郎、中村玉緒などが出演、今回から混雑を避けるため催し会場を、七、八丁目に限定したことでさしたる混乱もなかった。

会期中は若干の暖気と降雪があったていどで好天に恵まれ、道内外の観光客に混じって外人観光客も目立った。とくにエマーソン駐日アメリカ公使や、軍用機を仕立てて来札した三沢基地の米空軍将校も雪まつり見物にやって来た。

道警ではヘリコプター「ぎんれい号」をとばして空から大通、真駒内両会場の整備にあたった。

びだせスタジオなどが催された。

一方、真駒内会場では、東京オリンピック重量挙げで優勝した三宅義信選手のサイン会、雪まつり撮影会、オリンピック報告会などが行なわれた。

今回の観客数は、大通会場に延べ百六十万、真駒内会場が百三十七万人と推定され、大通会場を中心とした市内は人の波で、あらかじめ混雑が予想された大通―真駒内間の道路事情に合わせて交通規制を行ったが、極端に増えた車両のため交通マヒは避けられなかった。

雪まつりに海外の大、公使招待

第17回（昭和41年2月3日～6日）

大通会場は西二丁目から西九丁目まで、前年か



アラスカ・エスキモ一部落（第17回）

ら正式に加わった真駒内会場と二カ所で華やかに行われた。今回は特に冬季オリンピック札幌大会の開催が決定した記念年である。ところが新年を迎え、雪像製作が始まったところから悪天候続きで会期直前には豪雪に見舞われ、関係者は雪像製作除雪作業にひと苦労だった。夕方をあけたところ初日はむざんにも雨にたたられ雪像が崩れたり強風でアーチが倒れて怪我人が出るほどだった。二日目からはようやく天候が持ち直し無事会期を終了することが出来た。また、会期中、雪まつり観光客を乗せた全日空機が遭難するという悲しい出来事もあった。

雪まつりの主役、大雪像は、大通、真駒内両会場で八基。大通会場は二丁目に「伐折羅」（バサラ）。奈良興福寺所蔵の国宝のひとつで、正面二十センチ、側面十五センチの台座の上に高さ十三センチという巨大な神将像。

四丁目一角を全部使った最大規模の「雪の広場」は、アラスカからエスキモーが訪れ、雪の部落を展示した。雪像は縦三十センチ、横百十センチの台座に、エスキモーのイグルー（氷で造る家）熊、トナカイ、星の塔がつくられた。西洋美を誇る「愛の泉」はローマの噴水を模造したものが、アイスバーンを土台に高さ十四センチ、横幅二十四センチ、奥行十八センチの宮殿と泉が中央に造られたみごとなもの。八丁目には若者の祭典実行委員会が製作した「雪国の若者」。市内の勤労青年たちが団結して初の参加で、「冬季オリンピックを札幌へー」がテーマ。

また真駒内会場の大雪像は、象、ライオン、ダチョウなど、三十種の動物を集めた「子供の国動物園」、砕氷船とペンギンを配した「南極船ふじ」、ギリシャで有名な「古代の文明」と「トロイの木馬」の四基。

大雪像は例年の大雪像なみの大きなものが多く、大通り会場九丁目には札幌工高製作の「五条大橋」、二丁目には北海学園大学の「奈良公園」など傑出したものを含めて、中雪像三十六基、小雪像六十三基、氷像四基が製作された。

催しはテレビ、ラジオの公開番組が多く、大通会場ではバラエティ雪まつり、氷上カーニバル、歩け歩け運動、雪まつり子供音楽会、自衛隊合同演奏会、冬の若者の祭典。真駒内会場では小川宏ショー、おはよう子供ショーなどがそれぞれ行なわれた。

ユニークな催しとして人気を集めたのがアラスカからやって来たエスキモーによるイグルーの製作実演だった。前年十二月、北海タイムス社では本道のギリヤーク、オロツコの人たちとの文化交流を兼ねて、エスキモーの風俗、習慣、文化を雪まつりに集まる人びとに紹介したいとエスキモーの派遣を要請した。これに対してアラスカ州知事からエスキモーを参加させる事に全面的に協力するむねの回答があり、実現したもので、広場の中央に建てた塔を中心にエスキモーによる実演。また同社では、雪まつりを海外に紹介しようと、各国の大、公使ら八十人を招待した。

家族連れに人気の真駒内会場

(敬称略・五十音順)

出席者

- 安宍 文雄
陸上自衛隊旭川業務隊長
- 大場 実
北海道酒類販売(株)常務取締役
- 小柴 伸
札幌市審議室長
- 四宮 和興
北海道新聞事業局企画部長
- 高橋 新平
毎日サービス北海道支社長
- 渡辺 秋雄
国鉄道支社札幌車掌区区長
- 渡辺 信
札幌工業高校教諭
- 司会 薩 一夫
雪まつり実行委員会企画宣伝委員長

自衛隊、雪像製作に参加

「雪まつりの中期は雪像製作に自衛隊の協力を得られるようになったことが大きな出来事の一つにあげられるのではないかと思います。そのいきさつについて小柴さんから。」

小柴 初期から市民の喜ぶ雪まつりへと試行錯誤を繰

り返して来た雪まつりも、観光ブームの抬頭により札幌へやってくる観光客が増大、つれて市民に喜ばれる行事と併行して観光客へもアピール出来る雪まつりを考えなければならぬ時期が参りました。たまたま自衛隊から雪像製作に参加しても良いという話が事務局の方にありましたことで、以上の事柄を考え合せ、是非ご協力いただきたいとお願いしたわけです。



渡辺(秋)さん

渡辺(秋) 従来の雪像は中、高校生や、町内会の人たちが主として製作しました。しかし三十年ころからは高校、大学への受験が大変厳しい状態に置かれるようになったことと、実業高校でも非常に受験率が高まって来て、これまでにように生徒への依存度を高いたのでは無いのですか。

四宮 学生の参加は現在も続いておりますから受験のために学校の協力が得られなくなったと断定するわけにはいかないと思いますが、雪まつりに今まで以上のものを求めるとすれば、大雪像をメインとするひとつの改革を検討する時期であつたらうと思います。

大場 雪まつりの大雪像は誰れが見ても驚くばかりの出来栄でそれがメインになっていることは事実です。

座談会・あの日の証言

自衛隊の力を借りなければ出来なかったでしょう。

渡辺(信) 私共の高校は実業高ですから、受験という問題は他の高校に比べてそれほどの厳しさはなく、雪まつりの雪像展には市民の広場のなかで今も参加しております。それと自衛隊の大雪像製作は別に考えるべきかも知れませんが、ただ、一般の人の手で製作する雪像には限界があるということは認めざるを得ないでしょう。

—安六さん、隊内ではどのように考えていらつしたのでしょうか。



安六さん

安六 二十九年に真駒内に駐とん地が設置されましたが、当時行政目標の一つに「国民に愛される自衛隊」というのがあり、地域社会に貢献するという意味から考えれば札幌市民が有形無形の恩恵を受けている雪まつりへの協力は進んで行くべきであろうというものでした。

高橋 隊内には本州方面の雪を知らない隊員が多く、北海道の寒さに慣れるためと初めて雪を見る楽しさもあって、雪が降るところで戸外に出て雪ダルマをつくり誰れが一番上手だとか批評し合い、冬のレクリエーションとして楽しんだと聞いています。

安六 その通りです。私は当時の担当ではありませんが雪まつりに市民の一人として参加したいという希望は上からの命令では無く隊員誰れからともなく出たと聞いています。

小柴 雪像製作を行う以前に、プラスバンドで協力してもらっておりますね。

雪まつりは観客が主役

—七、八回と雪戦会があり、催しのなかで非常に人気がありましたか。

大場 隊員二百人が紅白に分れ軍艦マーチの伴奏で騎馬戦をやり雪の城を奪い合う勇壮なゲームでした。

渡辺(秋) 雪まつりを考えた当初に出て来た戦前の一中(南高)のゲームですね。

小柴 若者の血をたぎらす勇ましい催しで、そのころはまだ催し指向の雪まつりだったので、観衆は大喜びでしたが、鼻血を出したりしたものですから一回で中止し残念がられたものです。



高橋さん

高橋 やっぱり冬のまつりなんだという実感があつたのはプラスバンドの演奏で楽器にウイスキーを飲ませてたましながら演奏する(笑)という話を聞いた時です。

四宮 凍って音が出なくなるんでしょか。

小柴 そうなんです。金管楽器のばあいですが、口につけると凍りつくばあいがあったりする。それで口にウイスキーを含んで流し込むんです。期間中ポケットびんで百本近いウイスキーを飲んでしまう(笑)。これは毎年のことです。

—安六さんは札幌の生れですね。

安六 そうです。初めての雪まつりのころは学生で、冬の大通公園といえば近くの人が捨てに来る黒い雪の山でとても汚れていた。それが、大きな雪像が並び、美し

イルミネーションが輝く大通の冬を迎え、自分も今まで参加していると思うと、札幌市民として、感無量のものがありました。隊員が純粋な心で雪像製作に当たっているのを見ますと、自分の故郷のために労を惜しまずやってくれていると思います。

―雪まつりと観光客を結ぶパイプ役は何といっても当時の「旅の足」国鉄の役割は大きかったと思いますが。

渡辺(秋) 国鉄は初期から後援団体として参画して来たのですが、本格的に加わるようになったのは七回ごろからだと思います。

小柴 会場に切符販売所を設け観客の便を図ったり、今も続いておりますね。



小柴さん

渡辺(秋) 雪まつりの成長

と共に全国的な観光ブームの波が北上して来ましたが、この素晴らしい行事を札幌だけのものとしてとどめて置くのはもったいないということでスキーツアーと雪まつりをセットした本州観光団の募集や、主要都市の各駅に宣伝ポスターを貼るなど、PRを強力に進めて来ました。

小柴 駅前に「歓迎さっぽろ雪まつり」の雪像を製作駅に降りたつ人たちの目を楽しませたり、当時国鉄の宣伝力は非常に強かったものです。

大場 現在ほど旅行代理店が多くありませんでしたから、一般が国鉄にける期待は大きかったですね。

渡辺(秋) 三十五年から国鉄道支社では、関東支社とタイアップ、雪まつりをセットした「北海道スキー観光団」の募集を関東地域を対象に大々的に行いました。

それによって十二回開催の二十六年には九十九人、三十七年には百八十八人、三十八年には百六十三人が札幌へやって参りました。冬季観光団のはしりではなかったかと思えます。

四宮 全国が観光ブームに浮かれても、さて北海道はと考えると、夏のシーズンはだまっても観光客はやってくるが、冬は眠っていると同じでまさに「デカンショ観光」だった。雪の美しさ、雪の遊びをどの様な形で本州の人に知ってもらうかは、全道各都市の悲願であった訳です。その意味で、さっぽろ雪まつりの成功は、旭川をはじめとして各市に冬まつりの誕生を見、スキーブームと併行してデカンショ観光脱皮の起爆剤となったと言えらると思えます。

高橋 旅行代理店が増えたということは冬の北海道を売る意味で非常な力になっています。

小柴 本州各都市の有名なまつり、京都の「山鉾(ぼこ)」にしても青森の「ねぶた」でも、芸術的な作爲をもって全国に知られ、長い歴史を築いて来ました。しかし雪まつりは、保存ということは不可能な自然の雪を素材とした造形美であってこれは全国に例のないユニークなまつりといえるでしょう。

―十日町の雪まつりも三十年を迎えたと聞きます。札幌と同じスタートですが、その間雪不足で数回休んでいる。北海道と異って、どんなに立派な雪像でも暖気に見舞われると一日で駄目になってしまふ。それに市に大勢の観光客を収容する施設がない。マスコミ関係が札幌ほど集中していないなど、数多くのネックを抱えていると土地の人は言います。その意味で札幌は非常に幸運であ

座談会・あの日の証言

ると言えるのではないのでしょうか。

大場 自衛隊参加によって雪まつりの内容が非常に充実した。市民の参加気運が高まった。長い間続きさらに拡大して来た理由は市民を含め多くの観客に愛されたというところにあると思います。

小柴 アメリカの太平洋艦隊司令長官がハワイからやって来たり、ソ連大使が訪れた。また札幌冬季オリンピックを中心にして雪まつりが国際的な行事として飛躍していく話しは後に出て参りましょうがすでにこのころそのきざしが見え始めていたんです。

雪像製作の経過も観賞を

—このあたりで中期の雪像と催しなどについて語っていただきたいと思いますが、渡辺(信)さんから—。



渡辺(信)さん

渡辺(信) 三十年前と言いますが、苦労したということより、なつかしい語り草として思い出されるのです

が、私共の高校は五十二年に六十周年を迎えましたが、その記念誌の中に、四回の雪まつりに製作した「昇天」の指導に当たった先生の話しが掲載されておりそれによりますと、雪像は、石造工事と同じ方法で足場を組み、固雪を鋸で切り取って石を積むように積み上げる。札工全科、延べ一千人を動員する大工事になったとあります。もちろんこの他に市交通局、市土木課などの雪運搬作業等、大変な協力を得て居る訳です。

高橋 出来あがった大雪像をながめてどうこうというのは簡単ですが、それまでの努力を衆知してもらうことに

よって、より一層雪まつりへの理解と楽しさを深めてもらえるのではないかと思います。

大場 全くその通りで製作過程の公開は、今後も強力に行い一般に理解を深めてもらうべきであろうと思います。

渡辺(信) 雪像の製作は単に像をつくるということとどまらず、像をとりまく周辺と深い関係を持っているということを知って欲しいと思います。例えば、大通周辺の建築物が高層化していくと、そこに製作される雪像もかなり大きなものでなければ周囲に負けてしまう。いろいろな角度から側定して製作する。そういうことを知ることによって、毎年作られるみごとに大雪像は、又別の角度から観賞してもらえないかと思うのです。小さいものはそれなりの味があり大変楽しく見られるものが多いのですが。

四宮 私共では地下街が出来て大雪像が三丁目に製作されなくなるまで、自衛隊にお願いし、仏像をシリーズで製作してきました。その出来栄が非常に良く、高い評価を受けたものですが、観客のなかには、像の前に供物を供えるお年寄りが居て、たまたま担当者がそれを目撃、感激して語っていたのを今も忘れません。ところが雪まつりが終り、それをとり壊す段階になって、立派な雪像を壊すだけでも惜しいという声が強いところへたまたま仏像を頭から壊す写真が新聞に掲載された。それを見た市民から「何という罰当りのことをするんですか」とお叱りを受けたこともありました。(笑)

—期間が終わったら末だ崩れていない大雪像を解体する。惜しむ声も確かにあるでしょうね。

小柴 二月の雪まつりが開かれる時期は寒暖の差が激しく、一夜にして雪像が崩れ落ちるほどの暖気が来る場合もあり得るわけです。開期中はそれなりの警備体制をとって万全を期しているからいいわけですが、長い期間ともなるとそうそうかかりつきりというわけにも参りません。万が一にも危険があつては、せつかくの雪まつりも台無しで、雪像の解体は、製作と共に雪まつりには欠くことの出来ない作業なのです。

大場 天をつくような大雪像が期間が過るとあつという間に会場から姿を消す。季節が来たらあとかたもなく消えていく雪の命に似て、これも、雪まつりらしい余韻残す意味でいいのではないのでしょうか。雪まつりが終わった。もう春は近いという感触があつて。

真駒内会場は家族連れ対象に

—突然やって来る暖気や吹雪に悩まされた年も多いですね。それに雪不足も市民の暮しにはいいのですが、雪まつりには敵です。

高橋 七回目の雪まつりに暖気に見舞われ雪像を期間中に取り壊したことがありましたね。



大場さん

大場 四丁目に自衛隊が製作した楠正成が白馬に乗った雪像「至誠」です。立派な出来栄で大変人気だったんですが、ところが観客のなかに尾にブラ下が

つた人が居て折ってしまったんです。(笑)

小柴 あげくに暖気で形がすっかり崩れてしまった。

泣く泣く開期中に壊わさなければならぬ破目になって、非常に惜しまれたものです。

四宮 酔っ払いとか、いたずらものが時どき現われて自衛隊はもとより事務局の人も随分苦労して居られました。

小柴 当時は石炭を燃やしておりましたから、大通周辺もご多聞にもれずで、ばい煙で雪像が「黒像」になってしまふんです(笑)。それで汚れていない雪を採って来て化粧直しをする。少し暖かくなると又黒いハダが見えて(笑)。これが大変な作業でした。



四宮さん

四宮 雪像をイタズラされないよう事務局のものが、当時舞台を木ワクで組んでおりましたから、その下にストーブを炊き交替で寝ずの番をしたそうです。

安栄 これは真駒内会場のことですが、毎年会場に姿を見せる若い女性グループがいました。市内の幼稚園の保母さんの仲間で、子供のころ両親と来たのが最初。大変楽しかったのがそれと続いているということです。

—いよいよ真駒内会場が誕生したわけですが、そのいきさつを。

安栄 三十七年に第十一師団が置かれ、初代の平井重文師団長(故人)が、隊内につくった雪像のみごとな出来栄えに感心して、雪まつりとタイアップして真駒内でも雪像をつくり、観賞していただいてはどうかと話されたのがきっかけでした。三十八年(十四回)三十九年(十五回)は「真駒内スノーフェスティバル」と銘うって、雪まつりに協賛のかたちをとってりましたが、四十年(十六回)からは正式会場としてスタートしたのです。

座談会・あの日の証言

高橋 私共（毎日新聞）が後援の形をとり宣伝その他を引き受けております。最初はPRがいき届かないこともあって観客はわずか一万人そこそこ、隊員が五千、その家族も含めて考えると、隊内でやっているのと少しも変わらないではないか（笑）といわれ、その後、真駒内でも雪まつりをやって居りますと、声を大にPRにのり出した。大通に「追いつけ追い越せ」（笑）。

安宗 一人も多くの市民に観てもらいたいと思い、隊内でもあれこれ工夫をこらしたものでした。大通会場と同じものであれば大通を観るだけで充分、真駒内らしい雪まつりで喜んでもらおうというわけです。

高橋 大通と異なる点は豊富に「白い雪」があり、広大な敷地を有している。家族連れに喜ばれる雪像をつくってはどうかということでした。

安宗 ファミリーランド的要素を持った会場を考えたわけです。

高橋 今は地下鉄を利用する観客が多く、輸送面のトラブルはありませんが、真駒内に大量の観客を動員出来るようになった最初のころは交通面で大変苦労しました。

中期は飛躍への土台づくり

―何をやるにしても最初に手がけた人達の苦労は想像をはるかに越えたものであることがわかります。とくに輸送面などは、毎年細かい計算の上でそれを実行するんですが、次の年は又考えを新たにして検討し直さなければならぬという悩みがあったようです。

小柴 苦労を積み重ねていくうえでそこに歴史が培かわれてくるものですが、経験がまた新しいアイデアを

生んでいくといえるでしょう。雪まつりも大きくなっていくに従い、それなりの体制を整えていかなければならない。話しが前後しますが、昭和三十四年に雪まつり実行委員会が出来、運営主体を担って来ました。そのなかでいろいろな事業を展開して来た訳ですけれども、地下鉄が出来るまでの真駒内会場への観客輸送問題は毎年のように新しい局面を迎えて来たものです。せっかくの雪まつり会場に行かないのは困るけれど、行き過ぎても又困る（笑）。事故は無い。人的トラブルは無かったか、期間が終わるまでハラハラのし通しました。

安宗 隊内でもそれなりの心配をしましたね。マイカーでやって来る人が多いので、駐車場のスペースをどうとるか悩んだものです。しかし、せっかく寒いな会場までやって来てくれる、来て良かったと思って帰ってもらいたい。今もその気持は変わるものではないでしょうが、細い点に注意を払うことは主催者側の義務だと思いましたよ。

高橋 雪像をつくって見てもらうというだけではない隠れた苦労をそれぞれにならっているわけです。

四宮 その意味からいえば、中期は体制づくりに全力投球をした時期であったと思いますね。

大場 まあ、より大きく飛躍していくための土台づくりをしたということでしょうか。一方では民間放送局がタレントを招いたり会場でショーをやる。それが電波にのって全国津々浦々まで浸透していったのも大きな特徴でしたね。

―ではこのへんで。



後 期

昭和42年(第18回)～54年(第30回)

雪まつり後期は第十八回から第三十回までであり、この間、札幌オリンピックの開催によって雪まつりも本格的に世界の桜舞台に踊り出した。またオイルショックと、暗い世相のなかに雪まつりのありかたを見直す重大危機を迎えたこともあった。大きな曲折のなかで、しかし雪まつりはたくましく育ち第三十回の記念すべき年を迎えたのである。その裏には関係者のひたむきな努力があったことは今さら論をまたないであろう。だが何をあいても声を大にしななければならぬことは雪まつりを愛する札幌市民と観光客の喜びの表情である。

真駒内への交通網整備

第18回(昭和42年2月2日)〜5日

大通会場は、西二丁目から西九丁目まで使用、今回は雪まつりの会場構成や雪像、氷像に統一性を持たせるため、テーマを決め、それに基づいて開催した。この年のテーマは1972年に開催が決定した札幌オリンピック冬季大会と、1970年に開催される大阪での万国博に協賛し、「二大国際行事を成功させよう」

人気の焦点、大雪像は大通会場に四基、まず二丁目には京都・万福寺所蔵の「布袋」(ほてい)。高さが十メートルという大きなもの。西丁目には縦二十メートル、横八十メートルの「オリンピック 夢のかけ橋」。七丁目には旧約聖書に出てくるノアの箱舟とバベルの塔を形づくった「創世紀」。八丁目には高さ

十メートル、長さ三十三メートル、実物の四分の一の大きさを誇る「世界の連絡船十和田丸」中小雪像は四十基、氷像が五基、「子供の列車」「開道百年」など趣向のこらした作品が多かった。

真駒内会場は、会場入口前に北海道の夜明けをテーマにした「松前城」 広大な敷地をフルに活用して、観客が雪の鳥居をくぐり、松前城を見物するという趣向をこらした。

正面近くには「子供遊園地」カバ、ゾウのすべり台、迷路、動く木馬と、子供達に楽しい一日を過してもらおうというもの。次いでテーマに基づいて「札幌オリンピックジャンプ会場」、ありし日の東郷平八郎をしのぶ「日本海海戦と東郷元



18「さっぽろ雪まつり」



大通会場全景(上・第18回)と市民の広場(下・同)

師」テレビの人気番組から「ウルトラマン対マガラ」いずれも高さ七メートルから十メートル。敷地をふんだんに使った大雪像ばかりで合計五基。ほかに、大雪像が十三基。「ひよっこりひよたん島」「エゾの夜明け」など。

さて三日の初日は午後一時から大通八丁目につくられた「世界の連絡船十和田丸」前ステージで雪像引渡式。プラスチックの市中行進でムードを盛りあげた後、午後五時三十分から開会式が行われ、真駒内会場でも午前十時から開場式が行われ一般に公開された。

催し物は、大通会場ではJBただいま放送中、陸上自衛隊吹奏楽、香の女王撮影会、若者の祭典、耐寒ラジオ体操などが行われ、真駒内会場では、底ぬけ脱線ゲーム、モデル撮影会、ジャイアント馬場のスターサイン会、フォークジャンボリーなどがそれぞれ催された。

会期中は好天に恵まれ、連日春のような陽気が続いた。このため、雪像が融けて補修にお忙しという場面も大通、真駒内両会場で見られたが、人出は市民をはじめ、本州方面の観光客に混じって、海外からの観光客もグンと増加したのが目立った。

実行委のまとめた観客動員数は、大通が二百二十六万人、真駒内会場が百四十万人、合計三百七十六万人と推定され、かつてない盛況ぶり、このため大通会場をはじめその周辺は人の洪水、デパートはごった返す客に売り場はてんでこ舞いだっ

た。

観客動員数の増加に伴って、毎年問題になって来た真駒内会場への交通事情は、前回から一方通行の実施、駐車場の設置など、早くから交通規制を各報道機関に協力をお願いしてPRにつとめた効果が、事故もなく、平穩裡に幕を閉じた。

また今回はフランス・グルノーブル市のユーベール・デュブドウ市長夫妻、浜井広島市長、鷹野甲府市長ら、本州主要都市の市長らが関係者の招待で来札、「オリンピックへ夢のかけ橋」の渡り初めに出席、雪国の都市、札幌の冬の過しかたを



雪像と遊ぶ子供達(第19回)

見物した。フィリピンの遺児で日本に留学しているドロシー・マバキアオさん、ノエル・レスパルさんも雪まつりを見物、華やかな「北の祭典」に感激していた。

今回の総経費は一千五十三万九千円と、一千万円をはじめてオーバーして大型化、前回、第十七回の七百八十八万円、第十四回の百七十九万円に比較し、雪まつりの規模がふくらむにつれて、必要経費もジャンボになった。

海外からの観光客大幅に増加

第19回(昭和43年2月1日〜4日)

今年が開道百年に当ることから、雪まつりもそれにちなむ催しが展開された。とくに大通会場は、各丁目ごとに主要テーマを決め、会場構成にそれぞれ特色を持たせた。

大通会場は西二丁目から西九丁目までで、二丁目は「万国博コーナー」、三、七丁目が「北海道百年コーナー」、四丁目が「札幌オリンピック冬季大会コーナー」、五、八、九丁目が「札幌創建100年コーナー」にそれぞれ区分けした。

真駒内会場も大雪像に「開拓使庁舎」など北海道開拓の歴史にちなむ像が展示され観客の目を楽しませた。

この年は、フランス・グルノーブルで冬季オリンピック大会が開催されたことから、次期開催地札幌市との親善を深めるため、一日の開会式で両市のメッセージの交換が行われた。

雪まつりのメインである大雪像は大通会場に四基、二丁目には高さ十メートルの「愛染明王」の像。奈良西大寺が所蔵する約七百年前の木像を模造したもの。四丁目には「金太郎と熊」。七丁目には「未来に輝く北海道」と題して開拓使庁舎、北海道百年記念塔と青年達を配置した大雪像。八丁目には「旧札幌駅と義経号」で動く馬ソリをつくり観客を喜ばせた。また、中小雪像は百二十八基、市民のひろばにつくられたポートランド学生の雪像や、若者の祭典実行委員会が製作した「氷のすだれ」が異色で観客の目をひいた。氷像では「タイムトンネル」「五重塔」「1972年札幌に飛ぶ」など。

真駒内会場は大雪像が五基で、会場正面に高さ十メートルの「北海道神宮」。キングコングの見晴し台、ケロヨンのみたくぐりなどの「子供遊園地」をはじめ、「開拓使庁舎」「黒部第四ダム」「五稜郭」が製作された。

一日午後一時からの雪像引渡式、ブラスバンドの市中行進のあと、午後五時三十分から八丁目に大雪像「旧札幌駅と義経号」をバックにつくられたステージで開会式が行われた。(真駒内会場の開場式は午前九時から)

期間中両会場の催しものは、まず大通会場では、伊東ゆかり、ブルーコマメツツが出演した光あふれる雪まつりをはじめ、レッツゴー北海道、ゴーゴ大会、若者の祭典、ミス・ワールド、ミス・インターナショナル撮影会などが行われた。

この年～（42年）

- 建国記念日を制定
- 東京都初の革新都政
(美濃部亮吉氏都知事に当選)
- 吉田茂元首相死去(戦後初の国葬)

この年～（43年）

- 十勝沖地震起こり、死者50余人
- 札幌医大の和田教授が心臓移植手術
- 作家川端康成氏がノーベル文学賞受賞



ビルの谷間に大雪像「一寸法師」(第20回)

真駒内会場では音楽会と映画会、モデル撮影会と写真コンテスト、J B ラジオスタジオ、たこあげ大会、こま回しゲームが催された。会期中は一日と三日に若干雪が降ったほかは晴天に恵まれ、最終日は春を思わせるような暖かきでこの陽気に誘われて練り出した観客は両会場合せて延べ二百万人以上、またこの年はAP通信が雪まつりを大々的に報道したのをはじめアメリカの有力月刊誌が特集記事を掲載したなどにより一層国際ムードを高め、今回雪まつり見物にやって来た外人観光客は五千人にのぼった。

四日間を通じての観客は大通会場二百四十万人、真駒内会場が百五十万人の延べ三百九十万人が雪まつり見物にやって来たとみられ両会場と交通整理に警察官延べ二千二百人が動員され、迷い子が四百十六人、落し物百六十一件、四日にはマイカー族が多かったため真駒内会場へ通じる道路が交通マヒになるほどの混雑ぶりだった。

大通会場周辺を中心街デパート、商店などの売りあげも伸び、実行委の推定では、期間中に観客が落した金額は約十五億六千万円とこちらも大型。真駒内会場につくられた大雪像「北海道神宮」のさい銭箱には十七万七千円ものさい銭が集まったためこれをオリンピック資金財団に寄付した。

市民参加で二十周年記念

第20回(昭和44年1月31日)～2月2日

二十周年記念の雪まつりは市民参加を前面に、

多彩なプロが組まれた。会場は例年通り大通西二丁目から西九丁目まで、真駒内会場と合せて行われた。

今回の主要テーマは「札幌オリンピックと万国博の二大国際行事を成功させよう」で、両会場には、オリンピック、万国博関係の雪像、氷像、記念塔、アーチなどでムードを盛りあげた。

メインの大雪像のアイデアを一般から募集し、応募のあったなかから、優秀なものを選び、大通、真駒内会場に九基を製作、また開会式では、昭和二十五年の第一回雪まつりが開催された年に生まれた黒川和雄さん、本間孝子さんが開会宣言を行うなど、積極的に一般市民の参加を求めたのが大きな特徴だった。

しかし、今回の雪まつりは一月中旬まで札幌市内と近郊地域は暖冬異変に見舞われ積雪が皆無。実行委では新年早々から雪を求めて大忙し。雪輸送を開始するころは、岩見沢方面にまで出向かなければならない有様だった。中旬過ぎになってようやく雪が降り、中山峠や丘珠あたりからの雪輸送が可能になったもののそれでも不足で、結局江別、小樽方面からも雪を輸送して雪像を製作した。大雪像製作のアイデア公募は前年末から各報道機関を通じて行なわれたが、市内はもとより全道各地や、遠くは本州都市から多数の応募があった。この中からみんなに親しまれ、楽しんでもらえるものを基準に厳選の結果、大通会場の二丁目には鎌倉時代につくられた「初江王像」(根室市厚床、



真駒内会場の雪像滑り台は家族連れで満員（第20回）

佐藤キンさん）。四丁目には童話「一寸法師」（札幌市真駒内、田中信雄さん）。七丁目には十九世紀のアメリカの巡航船「ショーボート」（札幌市元町一九〇五、管塚さん）。西八丁目には西遊記と新幹線を組みあわせた「ひかり号におどろく孫悟空」（札幌市南二西一八、本田正勝さん）の四基が製作された。ほかに同会場には中小雪像が三十九基、大中氷像が九基製作され、とくに氷の芸術「オリンピック聖火台」「オリンピック採火式」、万国博の誘い「大阪城」「動物のオリンピック」などが圧巻だった。

真駒内会場の大雪像は、正面に今回の雪まつり

を象徴する「万国博と札幌オリンピック」（札幌市澄川三〇九、新出明美さん）。例年子供達の人気を独占している「子供遊園地」（同市真駒内一七、渡辺節子さん）。四十三年に完成した新宮殿「長和殿と伏見櫓」（室蘭市輪西二一八、奈良耐さん）。太平洋に消えたムー大陸「イースター島の謎の巨人石」（札幌市藻岩下三八四、鈴木淑子さん）。「函館トラピスチヌ修道院」（室蘭市宮の森町四、千野俊伝さん）の五基。中雪像は十三基で「グルノーブルから札幌へ」。

二十日午後一時から雪像引渡し式、午後五時二十分から大通西八丁目の大雪像「ひかり号におどろく孫悟空」をバックにした特設舞台で開会式が行なわれた。（真駒内会場開会式は午前十時）まづ第二十回雪まつりの開催を記念して高らかに響くファンファーレ。前札幌常任指揮者、荒谷正雄氏に作曲を依頼して今回から開会式に取り入れる事になったもの。黒川さん、本間さんの力強い開会宣言、大雪像製作に寄せたアイデア採用者と、市民のひろば参加者への記念品贈呈、大通小学校児童の主催者、来賓への花束贈呈が行なわれた。このあと万国博エスコートガイドの挨拶と花束贈呈、鹿児島市長からのメッセージと、桜島大根の披露、次期オリンピック開催地のミュンヘン市とのメッセージの交換、祝典ドリルと「世界の友よ札幌で会いましょう」の全員合唱で開会式を終了した。

会期中は雪が降ったり、曇り空の日が多く、天

候には恵まれなかったが雪像見物や、多彩な催しものに参加した観衆は史上最高を記録。主な催しは、大通会場が吹奏楽演奏会、ミス・ワールドなどが出演するビューティーフェア、雪のフォークジャンポリー、若者の祭典、雪まつりJ.B合戦、真駒内会場では底ぬけ脱線ゲーム、写真コンテスト、雪像人気投票をはじめ各種行事が行なわれた。会場はどこも黒山の人だかり、転倒してけがをするものが出るなど、危険な状態になりやすいため、今回は出演種別の規制や、防護柵の増設と整備にとくに力を入れ、観客の安全をはかった。実行委の推定観客数は大通会場二百四十五万人、真駒内会場百五十六万人の合せて四百一十万人。諸経費は前回より百万円ほど多い一千四百二十万円となった。

大阪万博・札幌ビックのPRに二役

第21回（昭和45年1月29日）〜2月1日

会場は大通を西一丁目から西十丁目に拡大した（雪像は西二丁目〜西九丁目まで）。真駒内会場は従来通り陸上自衛隊真駒内駐とん地内。主要テーマは前回にひきつづき、「二大国際行事を成功させよう」との意気込みから、「日本万国博と札幌オリンピック冬季大会」とした。大通会場では各丁目ごとに、真駒内会場でも全会場を通して、雪像、氷像、照明塔などにより、「二大行事のPR、啓蒙に努めることになった。

雪まつりに市民の心を反映させるため、前回に



大阪・万博のPRも兼ねた雪まつり（第21回）

この年～（44年）

- 東大紛争での安田講堂攻防戦終結
- 日本の原子力船第1号「むつ」が進水
- アメリカが人間の月着陸に成功する（7月20日）

この年～（45年）

- 日本万国博開催、183日間に6千4百万人が入場した
- 日航「よど号」事件起る
- 大阪のガス爆発事故で78人死亡

ひきつづいて両会場に製作する大雪像のアイデアを公募したところ、二百九十一人の応募があり、この中から九人のアイデアを両会場合せて九基の大雪像製作の資料として採用した。

民間の雪まつりに対する協力体制がこの年からスタートした。大型化していく雪まつりの運営については、諸経費もそれなりに大型化していく事と合せて、民間の協力なしでは困難な状態になった。このため雪まつり協賛会を設置、協賛金の取りまとめをすると共に、市民の立場から雪像製作に苦勞している自衛隊員に感謝の心をこめて慰勞し、また各関係団体と共に祝賀パーティーを実施する。これは、全市的に雪まつりを盛上げようという意図からの設置であった。この年、北方領土復帰署名コーナーが会場内に設けられた。

宣伝、サービスについては、今回、ポスター五千枚、絵はがき五万枚、パンフレット二万部などを印刷、関係方面に配布した。

雪像は主要テーマに市民のアイデアをプラスして製作を開始したが、一月八日から開始された大通、真駒内両会場の雪輸送は、前回以上の雪不足に見舞われ、市内での採雪は不可能で中山峠周辺を主体に輸送した。

まず大通会場の大雪像は四基で二丁目には「菩薩半跏像」、童話からとった「浦島太郎」が四丁目に。西七丁目には「アブ・シンベル神殿」、西八丁目のメルヘンを誘う雪像「ひかり号で白雪姫がやってきた」がそれぞれ製作された。

このほか中小雪像と氷像は合計百三十八基で、二丁目の大水像「オリンピックシャンツェ」、二丁目の「東大寺七重塔」、四丁目の「集う世界の若人」、五丁目の「新世紀を拓く北海道」、七丁目「新世紀を拓く北海道」と力作揃いで、雪の祭典から「雪と氷の祭典」への感を深めた。これら大水像製作には、「オリンピックシャンツェ」「集う世界の若人」「万国博虹の塔」の三基を、とくに商業デザイナー、栗谷川健一氏の協力を得て製作したものである。

真駒内会場の大雪像は五基。会場正面には世界を結ぶ産業とスポーツと題して「万国博と札幌オリンピック」。子供の夢を誘う「子供遊園地」、四十四年のアメリカでの月面着陸を祝う、世界の偉業「人類月に立つ」さらに「万国博カナダから日本へ」と「カナダ館・日本政府館」を。中雪像は十三基で、国民の願い「北方領土返還」、忍耐と努力「巨人の星」「黒猫のタンゴ」のらくろ近代二種など楽しみがいっぱいの雪像も。

各種行事は大通会場では二十九日午後一時から雪像引渡式が八丁目のステージで行なわれ、自衛隊中村第十一師団長（代理、西田副師団長）が出席原田札幌市長（代理、板垣武四助役・現札幌市長）から雪像製作、雪輸送に協力して自衛隊真駒内駐とん地各隊に感謝状を贈呈した。

開会式は午後五時三十分から行なわれ、今回は札幌テレビ放送が担当、多数の観客と来賓の参列する中でファンファーレと花火を合図に照明が一



会場に設置された北方領土コーナー（第22回）

齊に点灯、開会された。主催者、来賓挨拶のあと、大雪像アイデア採用者、市民のひろば参加者に記念品の贈呈、ハワイホノルル市長、沖繩那覇市長、万国博協会長などから寄せられたメッセージ、花束の披露があり、吹奏楽に合せてポートランド留学生などが参加する国際色豊かなジェンカを踊り開会式を終わった。

真駒内会場の開会式は同日午前十時から大雪像世紀の偉業「人類月に立つ」前で行なわれ、ファンファーレを合図に開幕、クス玉が割られ、花吹雪の舞う中で宇宙船アポロ11号が打ち上げられ、月着陸船から降り立った宇宙人、さらに万国博エスコートガイドから、主催者代表にそれぞれ花束

が贈呈された。

このほか両会場とも期間中行われた催しは撮影会、音楽と映画会など有名タレントが出演するなどバラエティーに富んだものが多く観客を楽しませたが、いずれも報道機関の協力で行われた。

今回の観客延人員は大通が二百五万人、真駒内百十三万人だった。

プレオリ開催で世界に紹介される

第22回（昭和46年1月26日～31日）

大通会場（西四丁目～西十丁目）と、真駒内会場でそれぞれ行われた。今回はプレオリンピックが二月に開催された関係で会期を早め、また地下鉄工事のため会場も二、三丁目が使用出来なくなり、これまでの会場構成を一部変更して開かれたが、プレ・オリンピック取材のため来札した海外の報道関係者などが多数雪まつり見物に参加、スノーフェスティバルとして各国へ紹介された事もあって、雪まつりが大きく世界の桧舞台に踊り出た記念すべき年ともなった。

今回の主要テーマは「札幌オリンピックを成功させよう」で、プレオリンピックを間近に控えている関係から、歓迎の意をこめ、大通、真駒内全会場のアーチ、ボンボリ、雪、氷像、照明塔を通してPRに努めた。二十回からの大雪像アイデア募集には三百三十四人の応募があり、この中から九人を選んだ。「雪まつり協賛会」の活躍もめざましく雪まつり前夜祭パーティーや自衛隊員の慰

問など全市的な雪まつりムードの盛り上げを強力に推進した。

交通規制については道警本部が中心になって所轄警察署の協力を得、大通―真駒内を結ぶ関連道路を重点に自家用車と営業車との経路を区分する交通規制を実施したため、車の流れが円滑だった。

メインの雪像製作で、雪の輸送が一月七日から開始した。今年も雪不足で中山峠を採雪地としてスタート途中から一部丘陵地域からも採雪した。

大通会場の大雪像は四基で、童話から模造した「桃太郎の鬼退治」を四丁目に、子供達の人気を集めた。七丁目には民話から「竹取物語」。八丁目には「姫路城と新幹線」、十丁目には「弁財天女尊像」をそれぞれ製作した。

中小雪像と氷像は合せて百六十四基で、四丁目には大水像「ようこそ世界の若人」五丁目に「高よ還れ北方領土」十丁目には「オリンピアの女神」などが前回通り栗谷川氏の協力で製作、八丁目には丸高水産㈱の協力によってイルカ（身長四・七メートル、体重一六〇〇キロ）が展示され、観客を喜ばせた。

真駒内会場の大雪像は五基で、日本古来の伝統を誇る「平等院鳳凰堂」を会場正面に、「オリンピアから札幌へ採神火」「子供遊園地」「郷愁、D51」「冬季オリンピック札幌へ」を展示、中雪像十三基のうち、「正しく、明るく、強く、みなしごハッチ」「なまはげ」「童話、ぶんぶくちやがま」など、子供達の夢を誘う作品がズラリ。

この年～（46年）

- 大久保清 8人の女性の連続誘拐殺人
- 全日空機と自衛隊機が空中衝突162人死亡
- 天皇・皇后両陛下、ヨーロッパ御訪問

この年～（47年）

- グアム島で28年ぶりに横井庄一さんを救出
- 札幌冬季オリンピック開催（2月3日～2月13日）
- 連合赤軍による「あさま山荘」事件
- ノーベル賞作家川端康成氏がナゾの自殺



真駒内雪まつり会場へ美智子妃殿下（第23回）

雪像引渡式は二十八日午後一時から大通西八丁目会場に関係者が参列して行われ、実行委から自衛隊各部隊に感謝状の贈呈が行なわれた。午後五時三十分からは、北海道放送の協力による企画、構成で、①オープニング②開会宣言（舟橋副会長・故人）③ファンファーレ、花火五段雷④北海自衛大鼓⑤点灯（原田札幌市長）⑥主催者挨拶（同）⑦来賓代表祝辞（町村北海道知事）⑧メッセーじ紹介（ミュンヘン市長、鹿児島県観光連盟会長⑨八丁目大雪像「姫路城と山陽新幹線」にちなんで来札中の姫路市長挨拶などがそれぞれ行われた。席上大雪像アイデア当選者と、市民のひろば参加者に感謝状と記念品が贈呈され、ミュンヘン市長からは、ビヤ樽一樽と、伝統のビールまつりに使われているビール運搬車の模型、鹿児島県観光連盟会長から菜の花等がメッセーじに添えて贈られた。

真駒内会場の開会式は同日午前十時からギリシヤ・アテネ（オリンピック）における採火式を模造した大雪像「オリンピックから札幌へ、採神火」の前でファンファーレを合図に①オープニング（北海自衛太鼓、ファンファーレ）②開会挨拶③採火の儀（女性三人により雪像の聖火台に点火）④爆竹、五段雷の花火打上げなどの行事をどどこおりになく終了し二十九日からの開幕を告げた。

期間中の催事は前回同様各報道機関の協力のもとに有名タレントが出演するなど両会場はバラエティーに富んだ催しもので盛りあげ観客を喜ばせ

た。

会場の警備及び整理については観客の流れをスムーズにするため、大通西四丁目から十丁目までの各丁目に臨時交番を設け、これに警察官の外、実行委事務局職員をも配置し、スリ、置引などの犯罪防止、迷子の案内等についても万全を期した。会場内の通路確保については、連日夜間作業で除雪作業を行うと共に、塩カリ、炭ガラを敷き観客が安全に歩行出来るようにした。

今回は好天に恵まれ、両会場に延べ四百五万人の人が繰り出した。うち外人観光客はザット一人。消費推定額は二十三億三千万円だった。

オリンピック会場に大雪像

第23回（昭和47年1月27日～30日）

今回は第十一回オリンピック冬季札幌大会が二月三日から十三日まで開催されたため従来までの大通会場と真駒内会場に加えてオリンピック会場である道立真駒内自然公園内のオリンピック開会式及び閉会式が行われた真駒内アイスアリーナと屋外スケート場の中間に史上最高の大雪像「ガリバーようこそ札幌へ」を製作、外人選手団に対し、歓迎の意を表わした。この大雪像はオリンピック開催中展示され、開会式等の模様と共にテレビ電波にのって世界に放映され、雪まつりが名実共に世界中の注目を集めることになった。

もう一つの出来事は、地下鉄南北線の開通であ

この年～（48年）

- 水俣病裁判で患者側が全面勝訴
- オイルショックで、消費パニック起こる
- 江崎玲於奈氏ノーベル物理学賞受賞



ポニーと写真を一真駒内会場

り、地下街の誕生であった。地下鉄はこれまで交通の難関とされていた大通―真駒内会場を短時間で直結し、交通系統に大きな変革がもたらされ、地下街の完成によって大通西一、二、三丁目も会場として復帰、大雪像以外の氷像などが展示出来ることになった。

会場は大通会場が西一丁目から西十丁目まで使われ、これに真駒内会場、オリンピック会場の三会場で開催された。

大雪像のアイデア募集では百六十四人の応募者中、八人を採用した。また従来までの観客調査では正確さを欠くきらいがあるという意見が出たため、今回からは調査方法を大幅に変更、大通会場では午前八時から午後十一時までの観客の動きを限られた地点でチェック、正確に把握する一つの方法を試み、今後はその方法を採用する事にした。また、真駒内会場においても、自衛隊の協力で通用門地点で測定した。

この測定方法によって、今回は大通会場が延べ八十一万人、真駒内会場が延べ四十万人の合計百一十一万人。実動員八十八万人という数字が明らかになって、前回やそれ以前よりかなりの落ち込みと見られるが、これはあくまでも調査方法の変更によるもので、実際は、より上回った観客動員数があったものと実行委では推定している。

雪輸送は一月七日から開始したが、今年もかなりの雪不足に加えて、オリンピック競技場の整備による採雪量の増大から苦慮、結局中山峠と合せ

て丘珠、真駒内周辺からの採雪で間に合せた。

大通会場の大雪像は四基で四丁目には「金太郎」七丁目に「ようこそガリバー」、西八丁目に「法隆寺五重の塔と西院中門」十丁目に「聖徳太子十六歳孝養の像」ほかに中小雪像五十四基、大氷像九基、小氷像百二十八基。

真駒内会場の大雪像は四基、会場正面に「古代の情熱札幌に燃ゆ」、子供達が待ちこがれる「子供遊園地」、さらに「清水寺」「すずらん丸」。中雪像は十四基だった。

今回の特色であるオリンピック会場の雪まつりは三日から六日まで行われ、大雪像「ガリバーようこそ札幌へ」は、高さ二十五メートル、雪輸送台数、トラック千三百台という通常の大雪像の二倍を超える史上最大の大雪像。設計の段階から関係者がそれぞれ綿密な打合せを重ね、寒暖に耐える強度、バランスに細心の注意をはらった。

二十七日の開会式は、「ようこそ札幌」の歓迎合言葉をメインテーマに実施、オリンピック参加選手を開会式に招待し、札幌市長から歓迎の挨拶、参加選手全員に記念品を贈呈した。

真駒内会場の開会式は同日午前十時、大雪像「古代の情熱札幌に燃ゆ」の前でファンファーレを合図に開催され、オリンピック聖火リレーを模した聖火ランナーの入場と、オリンピックムードを盛りあげた。

聖火集火歓迎式が雪まつり期間中の一月三十日午後五時三十分から大通西八丁目の特設スタジオ



ミニ機関車運転会はパンダが場内整理(第24回)

で行われた。この日白一色の会場には、アベリイ・ブランドーJIOC会長、渡海元三郎オリンピック担当大臣、植村甲午郎オリンピック組織委員長、地崎宇三郎道体育協会会長、堂垣内尚弘道知事、板垣武四札幌市長ら来賓、オリンピックの成功を祈念する市民多数の参加のもとに、二十九日道庁に到着し一夜を明かした聖火は堂垣内知事から板垣札幌市長に手渡され、特設スタジオ聖火台に移され、高らかに鳴り響くファンファーレと共に聖火の引渡式は無事終了した。

三十一日には、皇太子殿下、美智子妃殿下が真

駒内会場をご視察になられた。

雪像製作中の隊員慰問は、今年はとくに慰問週間(一月十八日〜二十四日)を設け市民にPRした結果、札幌市婦人団体連絡協議会レクリエーション部会、グロリアサツポロ、国鉄道総局、札幌配膳あつ旋所などの協力を得、実行委、雪まつり協賛会と共に厳しい寒さの中で雪像製作に励む隊員を慰問した。

テレビ宇宙中継で雪まつりは世界へ羽ばたいたが、一方、オリンピック取材に来た三十九カ国の記者団が一斉に雪まつりの楽しさ、雪像の素晴らしさを自国の新聞、雑誌に報道したため、世界各国から、札幌市へ雪まつりの問い合わせが相次いだ。また、雪まつりを観た外人記者団は、いち様に「ワンダフル」を連発、賞賛した。

雪まつりの経済効果を大通、真駒内両会場で、面接聴取によるアンケート方法で調査、サンプル二千六百を採取、考察した結果、会場周辺その他の消費額は市民が五億円、観光客が十一億七千万円の合計十六億七千万円。実行委員会の支出総額は二千七百五十万円だった。

会期を固定、浸透をはかる

第24回(昭和48年2月1日〜5日)

「家族みんなで楽しめるさっぽろ雪まつり」をテーマに大通会場は西一丁目から西十丁目までを使用、それに真駒内と二会場で実施された。

従来までの雪まつりは、宮様スキー大会、オリンピック冬季札幌大会など、冬の大きな行事日程とニラミ合せて開催日程を設定してきたが、毎年開催日に変更があるという事は、誘客やPR面不都合な点が多いとして今回から開催日程を一日延長して二月一日から五日までと固定することになった。

また大雪像のアイデア募集は、市内小中学生約四万一千人を対象に行い、日中国交回復を記念して贈られたパンダを内容にしたもの二千点の応募があった。

真駒内会場では国鉄の協力でSL、D51-237号の試乗会を実施した。雪で駅、ホーム、トンネルをつくり、全長二百五十メートルを走るもの。

雪像は、大通会場の大雪像は三基で、四丁目に「大國主命と因幡の白兔」七丁目には「天安門と清晏船」八丁目が「SLでパンダがやってきた」このほか大氷像一基、中小雪像八十九基、中小氷像百四十九基で、五丁目につくられた大氷像「ウエディングケーキ」は圧巻だった。

「市民参加の雪まつり」をテーマにした今回の雪まつりは八、九丁目全域を「市民の広場」として確保、一般に雪像製作の参加を呼びかけた。その結果参加グループは五十六に及び、これまでの約五割増、参加人員千三百余人を数えた。

これら参加グループの中には札幌市の姉妹都市であるポーランドの留学生や、来日聖徒イエスキリスト教会青年部の外人グループを初め、子供、

学生、職場、趣味の各グループと多彩だった。

雪像製作のうち札幌工業高OBによる中雪像は一月二十日から製作にとりかかり、その他小雪像は一月二十七日から三十一日までの五日間で完成させた。製作期間中は常時二人の指導員が巡回しその指導にあたり、初参加のグループにはあらかじめ粘土で指導したため順調に作業がすすんだ。

真駒内会場の大雪像は四基で、「シートピア」をはじめ「首里城正殿と守礼の門」「子供遊園地」「雪問の宮 太宰府天満宮」。中雪像は九基であ



オリンピック会場につくられた大雪像「ようこそガリバ
ー札幌へ」(第23回)

るが、このなかには「ミニSL」「牛若丸と弁慶」「ノサップ灯台」などがある。

大通会場での開会式は一日午後からの吹雪で中止。真駒内会場の開会式は例年自衛隊が毎日新聞社の協力を得て行ってきたが、今回から実行委の主催で一日午前十一時、ミニSL前広場で、板垣札幌市長をはじめ、関係団体代表が出席して行なわれ、真駒内保育園児約三十人を招待してミニSLの処女運行、ミスさつぼろの手で張られたテープを園児二人がハサミを入れ、大勢の観客が見守るなか、市長と園児を乗せたミニSLが会場を一周、楽しい処女運行が無事終了。そのほか北海自衛太鼓の競演、ブラスバンドの演奏があった。

期間中の催しは例年通り各報道機関の協力で多彩なプロが生まれ、観客を楽しませたが、関連行事は「ケベックカーニバルへの代表団派遣」で、カナダのケベック州知事、ケベック市長、ケベックカーニバル委員会から札幌市長あてにケベックカーニバル雪像国際コンクールへ雪像製作代表団を派遣して欲しい旨の招請があつて実現した。派遣団は久末鉄男さん(観光協会役員)を団長に渡辺信さん(札工教諭)高橋八郎さん(自衛隊)三浦勝人さん(市職員)で、代表団一行は二月十七日～三月二日までの日程でカーニバルの公式行事に参加、現地では歌舞伎の「鏡獅子」をテーマにした大雪像を製作展示し、観光客に注目される作品の一つとなった。

このほか、会期中西六丁目南側の一角で北方領

土復帰期成同盟による雪まつり協賛北方領土コーナーを設け市民へのPRを実施した。十丁目会場では交通安全推進委員会による雪まつり協賛交通安全教室を開催、市民への交通安全の普及を図った。

青少年凧上げ大会は二月三、四日の二日間日本風の会北海道支部の主催による青少年凧上げ大会を実施した。また二月一日から四日まで毎日午後二時から一時間、五丁目南側で道穀物取引所の好意により暖かいしるこの無料サービスを実施。札幌四番街商店振興組合連合会の協賛で交通規制区二十五万部を作成、農林中央金庫の協力で雪まつり記念絵はがき二千部を作成した。

期間中は初日夕方の吹雪を除いては好天に恵まれ、期間の固定化が各種報道機関を通して早くからPRしていたなどで、観客は前年対比33%増、大通会場百万二千人、真駒内会場五十一万人の合計百六十一万二千人にのぼった。

オイルショック雪まつりを直撃

第25回(昭和49年2月1日～5日)

石油危機、物不足等の社会情勢を背景に、雪まつりもかつてない試練の場に立たされた年である。まつりのメインである雪像製作も雪輸送のための軽油不足で危ぶまれ、電力の節約を図らなければならぬなど成りゆきが心配された。

会場は大通は西一丁目から西八丁目までと公園造成の関係で前回より縮小、真駒内会場、各区の

この年～（49年）

- 衆院で石油危機に便乗して暴利をあげた企業幹部追求(3月12日)
- ルバング島の小野田元小尉、30年ぶり帰国

この年～（50年）

- エリザベス女王来日
- ベトナム戦争終結
- 沖縄海洋博開幕



ブームによってモナリザ登場(第25回)

自主会場でそれぞれ行なわれた。大、中雪像は雪輸送を少くするため、なかにドラムカンなどを詰めておぎない、両会場に遊びのコーナーを強く出す構成にした。

今回は雪像製作の過程をできるだけ沢山の人の目に見てもらおうと、両会場を準会期として一月二十九日から三十一日までの三日間を一般に解放、四万二千人の市民や観光客が日を追って完成していく雪像製作の行程を見物した。

雪まつりの国際色を強めようと、初めて国際雪像コンクールを実施した。一月二十九日から三十一日の三日間、大通西二丁目で開催されたが、参加国はカナダ、フランス、韓国、南ベトナム、アメリカ、日本の六チーム。それぞれ民族カラーを出した雪像を製作、市民の目を楽しました。

とくに南国からやって来たベトナムチームは雪を見るのも初めてという若者達。審査は二月一日、七人の審査員にもって行なわれ、最優秀賞がカナダの「セラビロン」。アイデア賞、フランス「弥鞞菩薩」。テーマ賞、韓国「南大門」。努力賞ベトナム「アオザイを着た少女」。国際親善賞、アメリカ「牛」。技術賞、日本「獅子頭」がそれぞれ決った。

雪輸送は一月八日から開始されたが、石油危機の影響で軽油調達に困難をきたし、関係者が奔走した結果、年末になってようやく前回実績の66%に相当する二十五蹄が確保出来た。少い油で前回と同量の雪を輸送するため自衛隊では綿密な輸送

計画を作成する一方、不足分をおぎなうため市内道路の除排雪の利用を検討した。しかし輸送期間中大量に降雪があったことから運搬業務は予想以上に順調で計画より早く作業を終えることが出来た。

大通会場の大雪像は三基で四丁目に「さるかに合戦」七丁目に「モナリザと凱旋門」また八丁目には「ひかりを迎えるトラ」。ほかに中小雪像六十四基、大中小氷像百十一基、うち大氷像が五丁目に「氷のルーテル教会」がつくられた。

真駒内会場大雪像は六基で、会場正面の「まぼろしのネッシー」のほかに「伊勢神宮」「赤レンガ」「なかよし動物園」「白雪姫と七人の小人」「山ねずみ、ロッキータック」。中雪像は八基で「マジンガーZ」「マンガ遊園地」など。

今回は二会場に設けられた市民の広場への雪像が人気を集め、大通八丁目にはサークル・あざみが製作した「チャップリン」、道産子サークルの「北の浜の夜明け」など三十基。二丁目には札幌リゾート開発公社、「ゆきんこ会」の「石油ショック関係ないや」北大応援団の「我等がシロ」など七基。真駒内会場には白石トッポサークルの「トッポジョ」真駒内青年会の「風雪をゆく新聞少年」など十基。

大通会場の開会式は一日午後五時半、八丁目特設ステージで開催され、初の試みとして七丁目から八丁目までたいまつパレードを行い好評だった。また今回は「若者が参加する内容」をネライに若



大雪像「花咲爺さん」(第26回)

ほか佳作五編がそれぞれ選ばれた。

二月三日夜は豊平川河畔で花火大会、三百八十発の早打スターマインを十分間打ちあげ冬の夜空に彩りをそえた。

若者実行委員会が行った催し、若者の祭典は、二月二日、大通西八丁目会場でフォークダンス、ゲーム大会、豆まき、ゴッソーなど。三日には会場を真駒内に移しファミリーゲーム、チャリティオークションなど。参加団体は四十八団体で延べ千三百人にのぼった。

市民参加行事は二月二日、大通西八丁目ステージでママさんコーラス大会、十二グループ、二百六十人が参加。同日真駒内会場では子供風あげ大会、三日、子供バレエ大会、四日には大通西八丁目ステージで、日本芸能舞踊会が行なわれた。

協賛行事も盛りだくさんで、市内全域で雪まつりを楽しもうと各区役所、教育委員会が地域住民に呼びかけ、各区の自主会場でそれぞれ催しが行なわれた。

会期中好天に恵まれ、人出も前年より八万五千人上回る百六十九万人を記録した。両会場の観客輸送も順調にいき、例年通り観客サービスマスにも力を入れた。今回の消費額はサンプル二千二百五十から考察して市民が六億円、市民外が十八億八千万円の合計二十四億八千万円にのぼった。二十五周年記念として盛りだくさんのプロを用意した事もあって、実行委が計上した運営費総額は二千九百六十万円と大型だった。

「観光客の広場」で雪像製作

第26回(昭和50年2月1日～5日)

前回最大の悩みだった石油危機は好転したものの金融引締めによる不況、物価高騰という社会情勢を背景に今年も又厳しい雪まつりとなった。

今回の雪まつりテーマは「ふれあいの雪と氷のシンフォニー」「夢ひらく雪と氷の世界の広場」で本州からやってくる観光客に、実際に雪像を作ってもらおうと、大通会場に専用広場を設けた。

「あなたも雪の芸術家」がテーマで、雪の無い地方の人達は大喜びだった。

会場構成は大通が西一丁目から西十丁目までとし、それに真駒内、市内七区の自主会場で雪像展や催しが行なわれた。

雪輸送は例年通り自衛隊の協力を得て一月八日の雪輸送開始式からスタート、自衛隊真駒内駐屯地、及び丘珠空港、道々小樽―定山溪線から採雪した。

雪像テーマのアイデア募集は、市内小学校五、六年、中学一年、高校一年の約四万八千人に用紙を配布、四千八百十九通の応募があった。この中から採用したアイデアに沿って雪像を製作したが、大通会場の大雪像は三基で、四丁目に「花咲爺さん」、七丁目に「ウイーンの広場」八丁目「長鳴3兎時計台」。ほかに中小雪像九十七基、中雪像では「ムツゴロウの動物王国」「納沙布灯台」など。氷像は大中小百十基で、五丁目の大水像「夢

者実行委のメンバーが主役を演じた。

期間中の催しは報道機関の協力によって行われたが、市民参加意識の高揚をはかるため二十五周年記念の雪まつりシンボルマークを制定、会場装飾、PRの媒体として活用する一方、バッチワッツペンなどオリジナル記念品を製作して販売、運営資金の一助とした。

小、中学生を対象に雪まつり作文を募集した。

テーマは「僕(私)と雪まつり」で、応募は三百五十一人、この中から厳正審査の結果、最優秀賞に中央小四年の下妻奏君「こわしたくない雪像」

この年～（51年）

- ロッキード疑獄発覚、田中元首相逮捕
- アメリカの州裁判で“植物人間”の安楽死認める
- 日本で初の5つ子生まれる（1月31日）

この年～（52年）

- 青酸コーラ殺人事件（1月4日）
- 大学入試不正続出（5月24日）
- 芸能界大麻汚染（9月5日）
- 王選手 757号（9月8日）
- 円高日本経済直撃（11月24日）



クラーク大雪像が大通会場に(第27回)

の城」は観客をメルヘンの世界へ誘う素晴らしい出来ばえだった。

真駒内会場の大雪像は七基で、「ロボット遊園地」が子供達の人気を集め、ほかに「北海道の夜明け」「ムーミン谷」「子供遊園地（二基）」「勸進帳」「迎賓館」。ほかに中小雪像十六基。「人魚姫」「アルプスの少女ハイジ」「ハクション大魔王」など。

両会場の市民の広場は製作参加者も年ごとに増え、今回は大通会場を一丁目増やして八、九、十丁目をあてた。ボランティアサークルに市内のおかあさん達が参加して製作した中雪像「ガリバー」が注目された。

開会式は「みんなが見て楽しめる式典」を企画、大通会場は二月一日午後五時半八丁目の大雪像「長嶋3兎時計台」をバックに作られた特設舞台で行われ、会場では巨人軍長嶋監督の声の祝辞をテープで流し、全国各地のミスの参加、第二回国際雪像コンクール入賞者の発表も行われた。

真駒内会場開きは一日午前プラスバンドの演奏、くす玉割り、ゲッタービームの点火で式を盛りあげた。アトラクションは長沼町、長沼観光協会協賛のシャンシャン馬ソリが参加者を乗せ、自衛太鼓の曲にのって走った。

第二回国際雪像コンクールは一月二十九日から三十一日の三日間、大通西三丁目広場で行われ、今年は昨年より二カ国多い八カ国の参加があった。参加国はオーストラリア、ブラジル、カナダ、イ

ンドネシア共和国、韓国、アメリカ、ベトナム、日本で一チーム四人の編成で自国の民族カラーを出した雪像を製作、市民の目を楽ませた。

審査は二月一日、六人の審査員によって行われ、結果、最優秀賞、カナダ「鍛冶屋」子供人気賞、オーストラリア「カンガルー」感激賞、ベトナム共和国「水牛」初陣賞、インドネシア共和国「ガルーダ」ふるさと賞、日本「ゆきんこ」技能賞、韓国「龍」ノーベル平和賞、アメリカ「自由の鐘」ごくろう賞、ブラジル「コルコヴェアートのキリスト像」

一月三十一日夜雪まつり前夜祭を行った。資金造成と市民総参加に対する意識高揚を図る目的で開かれたもので、第一部は、「市民の集い」で札幌市無形文化財の丘珠獅子舞や、四十九年度市民文化奨励賞を受賞した琴友会をはじめ、自衛隊音楽隊、HBC少年少女合唱団等が出演した。

毎年四月に選出しているミスさっぽろは今年から雪まつり会期中に発表することになり、前夜祭の席で選考会が行なわれた。第二部はどさん子歌手、北島三郎が出演、数々のヒットソングを一時間にわたって披露するなど盛りだくさんのプロが組れた。

雪まつりへの若者参加を目的として前回に結成された若者実行委員会では二月一日、二日、大通・八丁目広場でフォークダンス、ゴーゴー、合唱、さらに九丁目会場では「チビッコ広場」を設けもちつき、のど自慢などを催した。この会場には若

この年～（53年）

- 探険家上村直己さん北極点に
- 成田空港滑走路一本の“片肺”で開港
- 日中平和友好条約に調印
- 円相場が急騰！
- 妹背牛商バレー初優勝
- 芥川賞に高橋撥一郎氏



ユーモラスな雪像「ミッキーマウスとキングコング」(第28回)

「市民の会」が企画し網走の流水が展示された。二日、真駒内会場では雪中運動会が行なわれ、ミカン拾い、バイアスロン、人馬競争などのゲームが行われ多数の市民が参加した。

昨年にひきつづき雪まつり作文を募集した。応募は千四百三十三点で、「低学年の部」では最優秀賞に猪瀬さつきさん（幌南小）、「高学年の部」最優秀賞は水崎理さん（和光小）ほか優秀賞、佳作十八編が入賞した。

そのほか大通会場では二月二日カレッジフォークが行なわれ、静修短大、札幌短大、東海大、大谷短大四校のフォークソンググループが参加した。三日は太鼓競演会、北海自衛太鼓、狸太鼓、誉太鼓の出演、道少林寺拳法学生連盟による少林寺拳法演武会、雪まつり最後の夜は札幌フォークダンスクラブの協力でフォークダンスが行われた。

会期中は平均して雪まつり日和に恵まれ、両会場に押し寄せた観客は百七十三万人、二日の日曜日は地下鉄利用者が四十六万七千人にのぼり、開通以来の最高記録だった。消費額調査は例年通り大通、真駒内両会場で面接聴取によるアンケート方式で実施二千百四のサンプルに考察を加え、市民八億円、観光客二十五億九千万円の合計三十三億九千万円にのぼった。

盛会だった若者の祭典

第27回（昭和51年2月1日～5日）

「きらめくロマン、雪と水のフェスティバル」を

をテーマに開催され、雪氷像数は昨年を上回る二百三十八基が展示されたが、暖気で崩れかけ修復に追われ、破損の大きい八基の雪氷像が会期中に取り壊すというハプニングがあった。

行事関係では前夜祭を皮切りに各会場で盛りだくさんの催しが行なわれ、また昨年九月、市、実行委と観光協会では香港へキャラバン隊を派遣、雪まつり観光のPRを強力に実施した。このため今回の雪まつりは香港からの観光団が大挙来札、国際化が一段と進んだほか、三回目を迎えた国際雪像コンクールには九カ国の参加があった。

会場は真駒内会場に、七区の自主会場、大通会場は西一丁目から西十丁目までを使用した。雪輸送は一月七日から開始、雪像に使用するための採雪量は二万六千九百九十五m³を両会場に運び込んだ。

雪像は大通の大雪像は四丁目に「分福茶釜」「インスブルグオリンピックスタジアム」五丁目に「北海道のハボサ像」七丁目「アメリカンスケエア」。また八丁目から十丁目まで設けられた市民の広場にも大雪像が製作された。「青年よ大志を抱け、栄光のSL」（八丁目）「続ムツゴロウのぼんば競争」（九丁目）「白雪姫と七人の小人」（十丁目）で、ほかに中小雪像、氷像、かまくらなどがそれぞれ製作された。なかでも大水像「ベルサイユのばら」の華麗さは観客を楽しませるに充分「あなたも雪の芸術家」をテーマにした十丁目の観光客による雪像製作は人気のマトだった。

真駒内の大雪像は「少年と犬の愛情物語、フラ



国際雪像コンクールで製作に励む各国チーム(第28回)

「宇宙の訪問者、謎のUFO」「歌舞伎十八番、象引」「宇宙の勇者グレンダイザー」「白亜の殿堂ホワイトハウス」「竜神門」「愛と死のロマン、ベルサイユのバラ」その他中雪像は「猿のスーパーマン孫悟空」など。

大通会場の「市民の広場」にはそれぞれの持味をいかしたユニークで楽しい雪像が立並ぶため年ごとに人気が高まりすっかり雪まつりの中に定着した感がある。今回は全出場六チームのうち連続五年以上が九チーム、初参加は十八チームであり、いずれ劣らぬ力作揃いであった。

行事は、大通会場の各ステージではテレビの娯楽番組やショー、アトラクションなどで一段とにぎわいを見せたが、雪まつり準会場期間中(一月二十九日から三十一日)に第三回国際雪像コンクールが開催された。今回の参加国は昨年より一

カ国増えて九カ国の若者が技を競い合い、二月一日審査の結果、最優秀賞―香港。アイデア賞―オーストラリア。子供アイドル賞―ブラジル。ユーモア賞―カナダ(ケベック)。民族賞―インドネシア。努力賞―大韓民国。優秀技術賞―アメリカ。敢斗賞―西ドイツ。芸術賞―日本がそれぞれ入賞した。

一月三十一日に市民会館で華やかに前夜祭が行なわれた。第一部は国際雪像コンクールや美の使節の紹介、76雪の女王、ミスさっぽろ発表会などが行なわれ、第二部では芦野宏、田代美代子の歌謡ショー、狸太鼓、日本舞踊、すすきのナイトなどのアトラクションで雰囲気盛りあげ、第三部はお楽しみ抽せん会が行なわれた。

真駒内会場開きは一日午前十時から「ベルサイユのばら」雪像前で行われ、今井実行委員会長の開会宣言にひき続き、市長の祝辞、シャンシャン馬ソリの初乗りが行なわれた。

今回はアメリカ合衆国建国二百周年祭にちなんだ大通会場のアメリカンスケエア(国会議事堂)と真駒内会場のホワイトハウス製作に対し、駐日アメリカ公使、ウイリアム・Dミラー氏から自衛隊第十一師団長へ感謝状が贈呈された。

「輝く世界と心のふれあい」をテーマに、今回も若者実行委員会主催による若さあふれる「若者の祭典」が繰りひろげられた。

一月三十一日は、大通西八丁目ステージでエネルギッシュな若者みこしをスタートにどさんこ太鼓節分、フォークダンスなどが行なわれ、二月一日はチャリティーオークション、子供向けゲームなど盛りだくさんのプロで観客を楽しませた。

真駒内会場では三回目の「シャンシャン馬ソリ」と「ポニーと一緒に」は子供をポニーに乗せ写真をとらせる初めての催しで、そのアイデアは家族連れに好評だった。

五日の最終日は「サヨナラ雪まつり、27回雪像解体式」が大通八丁目ステージで行なわれた。この催しは市民や若者により、期間中多くの観客を楽しませてくれた雪像へ感謝の心と、未来に向けての希望を託して行なわれたものである。

今年の観客数は準会期を含めて延べ百七十二万三千人、アンケートによる観客の消費額は二十四億七千万円だった。

氷上カーニバル華麗に復活

第28回(昭和52年2月1日〜6日)

「青春の語らい、世界のともだち」をテーマに、会場は真駒内、七区自治会場と大通は西二丁目から西十二丁目まで拡大され実施された。雪まつりのシンボルである雪氷像は大通、真駒内両会場で百五十七基に及び、香港からの千二百人を筆頭に



氷上カーニバル(第29回)

海外の観光客が多かった。

また十年ぶりに復活した「氷上カーニバル」や、初めて催された「さっぽろモード発表会」「オーピングパレード」と新企画も登場、国際雪像コンクールも欠かせない行事の一つに定着した。

前年九月、雪まつり海外PRの一環として市、実行委、観光協会では日本航空の協賛でマレーシア（クアラルンプール）、シンガポール、香港など東南アジア地区へのキャンペーンを行ったほか、これまで数回実施された東京銀座のソニービル提供による高さ四層の氷像「ミュンヘン市庁舎」は一月

三十一日、二月一日の二日間、同ビルソニースクエアに展示され雪まつりのPRに役立った。

降雪は一月七日に開始した。今回は降雪量が多く雪輸送は順調で、同月二十二日に大通、真駒内両会場に一七千㎡の輸送を完了した。

大通の大雪像は四丁目の「八またのおろち」七丁目「ミュンヘン広場」八丁目「西郷さんと桜島」

九丁目「北の狩人」十丁目「キングコング」「嵐」

十一丁目「象の滑り台」。ほか中小雪像と大中小氷像が展示、二丁目は「日中友好の広場」と名づけ、中国展にちなんだ大氷像五基と万里の長城のすべり台が製作された。ほかに大氷像は五丁目の「おとぎの城」。

真駒内会場は大雪像が十四基、「ガリバーと小人達」「コンボトラV」「藤娘」など。ほかに中雪像が十一基だった。

雪像テーマは小、中、高校生からアイデアを募集しそのなかから製作しているが、今回は一千二十通の応募があり、マンガ、童話がトップを占めた。

市民の広場は文字どおり札幌市民、とくに、青少年が自らの手で自由な選択のもとに雪の芸術作品に挑戦する創作的広場として人気があるが、各グループの技術も一段と向上し、優秀作品が展示され会場を訪れた観客から称賛を博した。

恒例となった札工OBの大雪像「北の狩人」は圧巻であり、市民有志で結成された一〇一人の会の大雪像「嵐」、札幌旅館組合青年部の大雪像「キ

ングコング」は力作だった。

雪像製作に励んでいる自衛隊への慰問は毎年続けられているが、今回は一月二十日に道製麺協同組合、札幌製麺組合では天ぷらそば三千食をふるまって労をねぎらったのははじめ和裁学校の生徒、銀行員のグループなど多くの市民が心のこもったサービスをした。

雪まつり作文募集は市内小学生を対象に行なわれ七百五十人にのぼる応募があった。この中から最優秀賞など合計六十六人が選ばれ三月十二日に表彰式を行った。

一月三十一日の前夜祭は札幌市民会館で行われ約二千人の観客が集まり盛大に行なわれた。一部は全国のミス、国際雪像コンクール参加選手などの紹介、77ミスさっぽろの発表認定書授与。二部はさっぽろモードショウ、道内各地から寄せられた千八百八十三点のデザインの中から第一審査で選ばれた三十七点が製作、発表され各賞が決定した。また、第一回を飾るために北緯40度以北の国々に参加を要請したところ、アメリカ、フランス、イギリス、西ドイツ、スウェーデン、フィンランド、オーストラリア、スイスの八カ国がそれぞれの代表的なモードを自国のモデルによって紹介、花を添えた。

三部は湯原昌幸、安西マリアの歌謡ショウ四部はお楽しみ抽選会でにぎやかに幕を閉じた。

開会式は二月一日午前十一時から真駒内会場で行なわれ、午後五時三十分からオーピングパレ



クス玉を割って開会式（第29回）

ードが初めて行われた。約二万人の観客が見守るなか、今井会長、杉野事業委員長が乗ったオープンカーを先頭に、自衛隊、道警、消防局のプラスチックバンド、トラックを電飾したフロート三台に全国のみスが乗り、少年スポーツ団を中心に約五百人のちようちん行列が続くなど、華やかに行進した。氷上カーニバルは二月二日午後四時三十分から中島スケートリンクに二千人の観客が参集、二十の企業、グループなど五百人が参加、それぞれ工夫を凝らした仮装で観客の喝采をあげた。

二月五日花火大会は中島公園に五万人の人が出て、全国花火コンクールで入賞した上位二十二社が参加し、約二千発の花火を打上げた。

これに先だつて一月三十日から三日間行なわれた国際雪像コンクールは八カ国が参加、審査の結果、優勝—アメリカ、準優勝—香港、オーストラリア、敢闘賞—マレーシア、技能賞—韓国、民族賞—インドネシア、アイデア賞—西ドイツ、芸術賞—日本とそれぞれ決定した。

またコンクールに参加したアメリカチームのパリー・ケリーさん（米空軍技術将校、34歳）とオーストラリアチームのゲイル・セイルさん（学生、23歳）が雪像作りがとりもつ縁でめでたく結婚にゴールイン、コンクールの会場で純日本式の結婚式を挙げた。

そのほか協賛行事は各区でそれぞれ行われ期間中北海道穀物取引所の「しるこまつり」（五、六日、大通五丁目）など盛り沢山の催しが繰り広げられた。

会期中は好天に恵まれ、期間が一日延長されたこともあって両会場で百八十三万五千人の観客を動員した。これは前年より十二万人増で、史上最高だった。

海を渡つた大雪像

第29回昭和53年2月1日〜5日

海外からの観客が大幅に増加、国際色がますます強まった。市、観光協会、実行委が事前に現地

でキャンペーンを実施したこと、また、大手エージェントを札幌に招待したなど積極的にPR活動を展開したことの効果が現われたもの。

また五回目を迎えた国際雪像コンクールもパキスタン、エルサルバドル、イタリアが初めて参加、史上最高の十二カ国が雪像製作にその技を競い合った。一方、こうした国際化へ向う半面、米国セントポール市ウインターカーニバル協会からの強い要請で、札幌から雪像製作チームを派遣し、東洋的な雪像を製作すると共に、常に市民参加のまつりであるという原点を見失うことなく、「市民の広場」の充実に力を入れた。

会場は大通が西一丁目から西十一丁目まで使用され、それに真駒内会場、七区の自主会場でそれぞれ展開された。

大通会場の大雪像は四丁目に「したきり雀」七丁目「シドニータウンホール」八丁目「大黒さん」九丁目「大通くま牧場」十丁目「シンドバットと怪鳥ロック」「ブレイメンの音楽隊と時計台」など。ほかに中、小雪像に氷像があるが、氷像については五丁目の大氷像「聖ワシリブラジエンヌイ寺院」のほか、「二丁目で開かれた全国彫刻展でも大氷像一基、中氷像二十二基、一丁目には「太宰府天満宮」の大氷像が展示された。

真駒内会場の大雪像は「飛べ孫悟空」「サイボーグ009」「広目天立像」など十二基のほか市民の広場に中雪像十二基。雪像テーマのアイデア募集では市内小、中、高校生から三千四百十九



大通会場を埋めた人垣(第29回)

通の応募があり、その中から「さるとかに」「ダ
ンガードA」などが採用された。今回はマンガ、
童話、人物などの応募が多かった。

セントポール市、ウインターカーニバル協会か
らの要請で、雪まつりの大雪像が初めて海を渡っ
た。同国のカーニバルで実行委からの派遣チーム
が大雪像「趙雲と高覧の戦い」を製作したもので、
この様子は全米各地に報道され、雪まつりのPR
と友好親善に大きく貢献した。

六カ国の参加でスタートした国際雪像コンク
ルは、五回目を迎えた今年は十二カ国から参加、
いずれも自国の特徴や伝統が良く表現され、優れ

た出来栄であった。審査の結果、優勝—カナダ(ケ
ベック)、アメリカ、香港。優秀技術賞、カナダ、
アメリカ。技能賞—香港、韓国。芸術賞—西ドイ
ツ、日本。敢闘賞—オーストラリア、インドネシ
ア。民族賞—マレーシア、パキスタン。努力賞—
イタリア、エルサルバドル。

雪まつり作文の募集では、市内小学生を対象に
行い、五百二篇にのぼる応募があった。このなか
から一部、二部に分け、最優秀作品ほか四十六篇
を選び表彰した。

行事は一月三十一日、札幌市民会館で、約千八
百人の観客が参集して開かれた。一部はオープニ
ングセレモニー、オーストラリア大使、全国のミ
スなどが紹介されたあと、78雪の女王、ミスさつ
ぽろの発表、認定書授与。二部は第二回さつぽろ
モード「雪まつり賛歌・燃える恋の雪花火」の発
表会。三部、歌謡ショー、山本リンダ、湯原昌幸
出演。四部はお楽しみ抽選会と盛り沢山のプロで
にぎわった。

開会式は二月一日午前、真駒内会場で行なわれ
約二千人の観客が参加、ブラスバンド演奏、時計
台百年を記念して真駒内緑小学校児童とお母さん
のコーラス「はり、えんじゅ」による「時計台の鐘」
の合唱で二十九回の開幕を告げた。

同日午後六時からオープニングパレード。雪ま
つりテーマあんどんを先頭に、市長、会長、事業
委員長の乗ったオープンカー。自衛隊、道警、消
防局のブラスバンド、電飾したフロート七台、ス

ポーツ少年団によるちようちん行列と、楽しく豪
華なパレードは観客の目を楽しませた。

二月四日の水上カーニバルは、中島スケートリ
ンクに約二千五百人の観客が集まり、子供を対象
にしたゲーム大会で幕開け、札幌スケート連盟に
よる模範演技、歌謡ショーと続き、企業十八チー
ム、三百人が工夫を凝らした仮装で参加、観客の
喝采を浴びた。

同日夜全国花火コンクールは、中島公園に約五
万人の観客を集め、五十二年全国花火コンク
ル上位入賞二十一社により、約千五百発の花火が
打ちあげられた。

回を追うごとに人気を集めている真駒内会場の
シャンシャン馬ソリとポニーと一緒は、約二万四
千人の家族連れが利用した。サービス行事として
は「第六回しるこまつり」「ホット馬鈴薯プレゼ
ント」「ポピーの花プレゼント」「かまくらサー
ビス」「沖縄県星砂と黒砂糖プレゼント」などが
行なわれた。

各区の協賛行事は「北区雪中ゲーム」などそれ
ぞれ趣向を凝らして展開され、大通西八丁目、十
一丁目、真駒内会場で行なわれた「若者の祭典」
は楽しいプロがいっぱいで盛会だった。

入出は二月三日に六年ぶりという大雪に見舞わ
れ、国鉄、航空機とも全線がストップしたため、
大通、真駒内両会場で百六十一万五千人だった。
消費経済効果の調査では、総額では昨年を大幅
に上回る五十四億七千万円だった。

30回 華麗、国際色も豊かに 記念

第30回〈昭和54年2月1日〜5日〉

第二十回を記念して開催された雪まつりは国際的な芸術家、岡本太郎さんにテーマ雪像「バッヂ」、メダルのデザインを依頼、市民参加を前面に「心に残る雪まつり」としてムードを盛りあげた。

会場は真駒内と大通が西一丁目から西十一丁目までを使用。テーマ雪像「雪の女神」は岡本さんのデザインで札幌工業高OBが企画、製作を担当、九丁目に製作された。高さ十二メートル、横幅三十二メートル。



雪像製作中の「市民の広場」(第30回)

奥行十メートルで周囲に中小雪像が並ぶ「市民の広場」に彩りをそえた。

ほかに大通の大雪像は四丁目に「桃太郎」七丁目に「ポートランド広場」八丁目「明治村」十丁目「ねずみの嫁入り」宇宙戦艦ヤマト」など八基。大水像三基、中小雪水像は百三十九基。真駒内会場は「歌舞伎、茨木」「アラジンと魔法のランプ」「熊本城」など大雪像が十二基、中雪像十基。

これら大雪像のアイデアは前年九月に市内小学生を対象に行なわれ、三千二百四十八通の応募者のなかから「スターウォーズ」(三百二十七通)宇宙戦艦ヤマト」(二百三十四通)など、最も多いアイデアを採用したものである。

年ごとに盛んになる「第六回国際雪像コンクール」は、一月二十八日〜同三十一日までを製作期間と決め、大通西十一丁目の国際広場で繰り広げられた。参加チームはオーストラリア、ドイツ、香港、カナダ・ケベック州、アメリカ、インドネシア共和国、韓国、日本、マレーシアの九カ国で、団長一人、団員三人の計四人グループで技を競った。

催しは、氷上カーニバルが行なわれ、これまで中島公園で実施して来たものを今回は真駒内アイスアリーナに会場を移し、二月三日の記念式典に引き続いて仮装コンクールや各種デモンストレーション、タレントのショーなどで楽しいひと時を過ごした。

「さっぽろモード」は「はばたけ、冬のかもめた

ち」をテーマに、全国のデザイナーを対象に行なわれ、韓国、フィンランドからの応募も含めて、千九十四点の作品が集まり、うち優秀作十一点を入賞作と決め前夜祭で披露した。

毎回百八十八万人前後の観客を動員する雪まつりポスターは七社、十三点の応募作のなかから実行委が選んだデザインは、雪まつりの原点という意味合いから製作した空に浮く雪ダルマ。

「さっぽろ雪まつり音頭」(作詞、平善雄、作曲、澤昭夫、歌、春日八郎)がつくられ泉流家元、泉徳右エ門氏の振付で披露された。

一、白くネー

白く輝やく 雪像ひろば

ぱつと開いた雪の花

夢の祭典(まつり)へ 栄える街へ

まねく太鼓の 音が響く

ソレ日本中から世界中から

みんな笑顔で さっぽろへ

いらっしやいませ いらっしやいませ

雪まつり

「ミス・さっぽろ(雪の女王)」には高松恵子さん(南区澄川五の二) 風間香代子さん(西区西野八の二) 片川千洋さん(中央区南一〇西二二) 天谷寿子さん(西区西野一の七) が選出された。

その他本誌の発刊、雪まつりに共賛して、定山溪温泉での花火大会、記念祝賀パーティー(パークホテル)など、盛りだくさんのプロが生まれ、盛会裡に幕を閉じたのである。

「雪の女神」をデザイン 岡本さん—芸術の息吹を

青空をバックにした現代のスフィンクス、
「雪の女神」像、気象の変化とともに女神の表情も微妙にゆれ動く。北の詩の都、札幌—
そのメルヘン「さっぽろ雪まつり」に世界の画家Mr. TARO・OKAMOTOの作品が現われた。第30回のシンボル大雪像として—



「雪の女神」の原型と岡本さん

雪を素材とするだけに三十回の目玉を考え出すに当たり実行委員会の幹部も当初はこれという案はなかった。

実行委員会専門委員長会議の席上、薩一夫企画宣伝委員長から「大阪の万国博で総合プロデューサーとして活躍し、あの太陽の女神を残した岡本

太郎さんにシンボルの大雪像をたのんでみてはどうか。メキシコ・オリンピックではメイン・スタジアムの大壁画もつくり世界的な芸術家だ。」と提案したところ万場一致で賛成となり、実行委員会を代表して昨年九月上旬、薩委員長と石上札幌市観光部長（実行委事務局長）が東京都港区南青山の岡本邸を訪問、申し入れた。

岡本先生は「札幌の雪まつりには前々から関心をもち一度は多くの作品をいかす機会がないかと思っていた。たまたま数年前、テレビで見えていた雪まつりで多くの太陽の女神のモチーフでつくられた雪像が自衛隊の戦車で崩され、女神の顔がごろんと転るシーンを目にしたとき思わず涙が出た。芸術家にとって自分の作品は子供と同じにかわいいし、大事なものだ。わずか五日間でこわされるのは寂しくてやりきれない。終了後その雪像を銅像で復元してくれるのならやり甲斐がある」と語り、製作を引受けてくれた。

ところが後日、届けられた原型は「雪の女神」と名付けられ、目玉の部分が空間で後からみても表情があってもおもしろく、また気象の変化で雲が、空が移り変わると目玉もそれにつれて変化するため造型の美に非常に動きが付加されていた。しかし像自体は顔の部分、かざした両手、盛り上がった胸など重心が上半身にいくためこれを雪像にするると事故防止のシン材として鋼材を使わなければならない、この工事に二百万円もかかるため話はいちじ暗礁に乗り上がった。

再度、岡本先生を訪れた石上市観光部長の話に對してころよく重心を下半身に移したオリジナルをつくりかえてくれたほか、銅像建立も「条件としない」と白紙にかえてくれた。

十一月下旬、大通西九丁目広場でこの「雪の女神」をつくることになった札幌工業高校OBグループの渡辺信氏「札幌工業高校教諭」が岡本先生を訪れると非常に喜こび「あなたがたのような雪像づくりのベテランたちに私の作品をつくって貰えるなんてありがたい。無理なところはいかやうにでも修正するからといってほしい」と語り、芸術家は印象からしてこわい人種と思っていた渡辺さんをすこかり安心させ、渡辺さんも「先生、この像なら自信をもって作りますからご安心ください」と胸を叩き、岡本先生を喜ばせた。

さっぽろ雪まつりではじめて芸術家の作品が作られることになるが、実行委員会では折角のミスターTARO・OKAMOTOの作品に「顔の部分をメダル、バッヂにして売って資金造成に当たりたい。先生のご了解も原型もいただいてあります」とは抜け目がない。

これは現代のスフィンクスだ。
岡本太郎画伯は「世界のさっぽろ雪まつりから話ではことわりきれないし、万国博とは違った意味で名誉だと思っている。この現代のスフィンクス、私なりの工夫をこらしてあるので是非みていただきたい。渡辺さんにまかせたのであととは仕上りをみるだけです」と語っていた。

雪像は大きく、舞台は世界へ

市民が生み育てた雪まつり

―後期の雪まつりは、オリンピックという大きな国際行事をジャンプ台に世界に飛躍したところであり、国際雪像コンクールや、香港へのキャラバン隊を派遣するなど、海外へのキャンペーンを強化しました。反面オイルショックの余波、自衛隊の雪像製作に対する批判などこもごもの時代でもあったわけです。これらの現実を直視しながら座談会を進めて参りたいと思いますが、西田さんから―。



西田さん

西田 私は昭和三十九年に札幌へ参りまして、主に真駒内会場に関係して来たわけですが、それ以前の自衛隊は大通会場で二、三基の大雪像を製作して来ました。外は、真駒内については隊内で同好者が集って雪像展をやったものが現在のように発展したのです。久末 四十三年だったでしょうか、雪まつりに自衛隊が雪像をつくるということは、税金の無駄使いではないのかというような批判が地区労や全道労協から出ましたのは。

林 それがマスコミに取りあげられ、自衛隊の上層部で、札幌市民がそれを望まないのなら雪まつりへの参加

出席者

(敬称略・五十音順)

石上良忠 札幌市観光部長

光地勇一 札幌市商工会議所事務局長

佐々木昇三郎 自衛隊第十一師団広報班長

菅 昭二 札幌市庶務部長

西田秀男 元自衛隊第十一師団副師団長

中山大五郎

雪まつり実行委員会前夜祭委員長

〈札幌専門店会理事長〉

長井 忠

雪まつり実行委員会事務総長

〈北海道観光事業(株)社長〉

林 英夫

雪まつり実行委員会サービス委員長

〈三井観光開発(株)専務取締役〉

久末鉄男

雪まつり実行委員会財務委員長

〈北海道振興(株)社長〉

司会 薩 一夫

雪まつり実行委員会企画宣伝委員長

オブザーバ 松原和男 札幌市観光部観光課長

光野英親 札幌観光協会常務理事

津田光夫

同

座談会・あの日の証言

のありかたを考え直さなければならぬだろう」という話が出たのですね。

長井 確か大通会場の雪像製作は辞退したい。真駒内会場の規模もグンと縮少してという話だったのでね。

光地 当時、事務局の方も非常に驚いて、今自衛隊に



光地さん

引きあげられては大変なことになるかと頭を悩ましたものでした。

西田 ご存知のように雪像製作には各担当区域に報道機関などの後援がつくわけです。企業

のコマースシャルベースに自衛隊がのるといのはおかしいではないかということでした。

中山 北海道開拓の歴史を考えると、厳しい寒さにさいなまれる冬を自ら克服するということはそこに住む者の悲願であり、雪まつりはそういうなかから生まれ今日に至ったわけです。形こそ大きな変革を上げておりますが、実行委員会は雪まつりの原点に立ち返って考え、運営しようと努力しているわけで、現在の雪まつりのメインになっている大雪像をそのなかの分野として自衛隊にお願いしているものです。こういうことをかみ砕いて考えてもらえば自衛隊に対する批判などは生まれて来ないのではないかと思うのですが。



中山さん

西田 私共も札幌市民の一人として、また自衛隊が地域の発展に役立つという行政目標で進んでいる以上、進んで協力するのが当然ではないか。批判は批判として謙虚に受とめ、内部検討を加える一方では、それをやるこ

とによって百数十万人以上もの札幌市民を初め国内外の人達が冬の一日を楽しんで帰られる。しかも冬期間の札幌市の経済をうるおす原動力ともなるのだと考え、そこに、自衛隊参加の意味があるわけです。

林 雪像製作はもちろんですが、「市民の広場」に雪を輸送する作業も一部を交通局の車でというのもありま



林さん

すが自衛隊の輸送力への依存は大きいといえます。プラスバンドの参加も含めて自衛隊の協力姿勢については、全市あげて感謝しなければならぬでしょう。

石上 批判といっても極く少数の人たちの意見で、それが強いと思われては困る。

中山 自衛隊に協力していただかなければ大雪像がメインになっている現在の雪まつりはあり得ない。世界の冬のまつりで代表されるのは、リオ（ブラジル）のカーニバル、ニース（フランス）のカーニバル、ニューオーリンズ（アメリカ）のまつり、ケベック（カナダ）のスノーフェスティバルが挙げられますが、世界の人びとは、さっぱり雪まつりもこの中に入れて評価してくれております。自分の住む故郷に、世界に誇りとするまつりのあることは大きな喜びであろうと思えます。

菅 私も同感です。第一回の雪まつりにかかった経費は二十三万四千八百八十五円五十銭。現在雪まつりにかかっている関連経費を金額で試算するとザット六億円は越えるだろうといえます。しかし実行委員会の経費は、四千万円程度、その差額をどこで見ているかと言えれば総ては自衛隊をはじめとする市民の善意から生まれてい

るのです。

長井 自衛隊の今後の協力については、先程の西田さんの話で安心しておりますが、だからといって雪まつりが決して自衛隊のまつりである訳は無く、札幌市民がその手でつくりあげたまつりであることに異論を差しはさむ人は居ないでしょう。



石上さん

石上 大通八丁十丁目の「市民の広場」をぜひ注目していただきたいものです。ここに集まる若者のグループ、若い公務員、学生生徒達、お母さんのグループと誰れから頼まれ、強制されたものでもない。一人ひとりが進んで雪まつり参加への意欲に燃えている。自分の意志で夜空の星を仰ぎながら、凍てつく手で雪像をつくっていく。近くに出来あがっている自衛隊の大雪像に力づけられながら、それならこちらは像こそ小さいが心のこもったものと作業を進めていくのです。

光地 「市民のひろば」は年を追うごとに盛んになり、作られる雪像も立派なものが多い。自衛隊の大雪像を見てそれがみんなの励みになっていることも事実なら、札幌市民のほとんどは自衛隊の協力を感謝こそすれ、批判の目を向けるような人はいないと断言できると思います。

佐々木 自衛隊も「市民の広場」に雪像をつくるという、市民参加の形だけをとればいいとの声も確かに隊内にあります。しかし現段階は地域の発展のために誇りを持って協力しているという方向で進んでいるのですから、そのなかで若い隊員はもとより、雪像製作を指揮する幹部も、純粋な心から雪まつりに参画しているのです。

ジャンボ雪まつりに大型予算

—このへんで大型化した雪まつり運営の苦心談を聞かせていただきたいのですが、資金集めに毎年ご苦労なされる久末さんから。

久末 雪まつりが国際的な行事になり、大きくなっていきますと国賓クラスの人を札幌が迎えなくてはならないという一つの例をとっても、そこにかかる経費は決して少い額ではなく、単に協賛金、会議所だけがそれをやるのでは追いつかない訳です。そこで全市をあげ、みんなが力を合わせて雪まつりを盛り上げていくという意気込みが必要になり、最近では雪まつり自体が有名になったことで、そうした方向づけが固まったと見ていいでしょう。組織的な資金集めが可能かどうかということは、当事者として最初に考えなければならぬことですからね。



長井さん

光地 苦労がなくなったといいますが、やはり大変な仕事でして久末委員長自らあちこちとお願いして回られております。私共もじっとしてられない気持にさせられます。

長井 私の記憶では、自衛隊に協力していただいた最初のころは、実行委員会も役所も予算はゼロ。ガソリン代など総て隊内でまかなっていたものです。真駒内会場が出来ました時、交通が非常に混雑し、危険でした。当時の道警本部長は森永さんでしたが真駒内までの路線を一方通行にしてもいいから標識は実行委員会で作るようにとのことでした。当時のお金で数百万円、原田市長にお願いして出していた

座談会・あの日の証言

だいたいです。

―資金集めで一役かったのが前夜祭でしたね。

久末 オリンピック前夜祭を中島スポーツセンターでやったところから、自衛隊への感謝の気持ちを表わすことと、

資金調達のために本格的な雪まつり前夜祭を行いました。



久末さん

―最初は業者の好意で行ったものでした。一回目がテレビ塔二回が第一ホテル、三回はグラ

ンドホテル各社にお願いして実施したものでしたね。

石上 最近の前夜祭、開会式は、若者の手で盛り上げ

てもらおう方向で進めておりま。雪まつりに集まる観客は、七割近くが三十代以前と言う数字が出ておりまして、

雪像を「静」とすれば、前夜祭などは「動」となり後者を若者の手にゆだねることによって、雪まつりの期間い

っぱい楽しんでもらおうという気持からです。

長井 氷上カーニバルの復活、パレードなどもその意味では効果のあるものですね。

中山 オリンピックを成功させようと、当時全市をあげて売り出しやバザーをやったり、オリンピックメダル

を作って売り、会議所あげて資金集めをしたものです。

メダルが売れに売れて大変でした。

―最初に前夜祭を行った時、それを新聞で見て旭川の五十嵐前市長が、うち（旭川）では反省会をやって協力

していただいた自衛隊に感謝の気持ちを表わしているが、その時期が遅いために間のびしてしまう。前夜祭とはよく考えたものだと感じておりました。

林 自衛隊の苦勞に感謝する市民の気持ちを前夜祭のな

かで表わすことは大切で、今後も続けていくべきだろうと思います。

国際行事と共に世界へ飛躍

―オリンピックを頂点として国際色が強まっていく雪まつりの足跡をたどって見たいと思います。

菅 国際的な行事へと飛躍致しました背景には、当然オリンピックという国際的行事が開催されたことがあげ



菅さん

られましたが、忘れてならないのが以前にも北海タイムスが東京在住の大、公使を招待し、雪まつりを見てもらったことがあり、それが海外観光客誘致の引き金となった事実です。

松原 四十七年のオリンピックの時、開、閉会式場となった真駒内屋外競技場横に、高さ二十五メートルの大雪像「よ

うこそガリバー」が製作されました。これが、選手、役員

の行進コースにあるものですから、いやでも宇宙中継のテレビ放映対象となったもので、世界に雪まつりの印象を深めたわけです。

津田 プレオリンピックのときも、世界から報道関係者が大挙来札しました。雪まつりのころすでに訪れていた人達も多かつたわけで、会場でシャッターを切る海外

カメラマンが目についたものです。

松原 オリンピック組織委員会のブランデー会長も雪像を見、札幌市民の素晴らしい歓迎に心を打たれたと語

っていたそうです。

林 開会式には天皇、皇后両陛下がお見えになられ、

雪像ふきんをお通りの時には侍従から説明を聞かれ車窓から楽しそうに雪像をごらんになられました。

菅 皇太子殿下、美智子妃殿下

下が真駒内会場においでになられた時、妃殿下に雪像の滑り台から滑っていただきたいとお願いを致しましたが、スケジュールの関係で実現出来ませんでした。

―プレオリンピック、そして本番と世界中のマスコミが競技に合わせて雪まつりを報じた。その国際化を定着させたのは久末さんを団長とするカナダ・ケベックへの雪像コンクールに参加などがあげられますね。

久末 四十八年の二月、ノルマン・ベルニエさん（州政府駐日代表）の力を借りまして、ケベックの国際雪像コンクールに日本チーム代表として参加致しました。出



津田さん

展作品は「鏡獅子」で非常に人氣があったと自負しております。津田 招待は二回、三回と現在も続いております。

菅 雪まつり会場で国際雪像

コンクールを開催する様になったのは48年でした。東京で大使館を回り歩いて参加を呼びかけ、最初はカナダ、フランス、ベトナム、アメリカ、韓国、日本と六カ国の雪像が並び、各国では雪まつりをニュースとして大々的に報じたものでした。

津田 雪まつりが縁で結ばれたカップルも多いのです。ベトナムのブエン・アントン君と、NHK学園に学んでいた五十嵐美子さん、そしてアメリカのバリー・ケリー



光野さん

大尉とオーストリアのゲイル・セールさんなどで、国境を越えた若者達の交流は、国際化していく雪まつりの美談といえるでしょう。

―香港にキャラバン隊を派遣しましたのが五十年でしたか。

光野 キャセイ航空の協力で親善使節団を送りました。中山さんが団長で私も同行致しましたが、現地では極めて好意を持って迎えられました。翌年の国際雪像コンクールに香港が参加致しまして民族色豊かな「ジャンク」が製作されました。また香港からの観光団も大勢札幌の雪まつり会場にやって参りまして、国際親善の橋渡しになったことは非常に喜ばしいことです。五十一年から日本航空が協力してくれています。

菅 雪まつりが国際的になっていくことはわれわれとして大変喜ばしいことなのですが、先ほど財務を担当しておられる久末さんのご苦労の話が出ました、何しろ予算の裏づけが必要になってくる。それをどう調達するかは今後の大きな課題であるわけですが、その意味でいうと、航空会社などの協力は非常に有難いものですね。

津田 香港など海外へのキャンペーンは、雪まつりに限らず、夏の札幌観光誘致にも大きな力になっていますね。

光野 札幌へ来たということで挨拶に見えられる海外の方の話の聞くと、私共が現地に向いてPRしたことの効果は具体的に出ていると感じることがしばしばです。事務局としては非常に嬉しく思うことがあります。

光地 各国大使館の協力についても何らかの形で感謝の気持を表わすべきでしょうね。

ハリボテ雪像に連日緊張

―四十七年から期間を二月一日から五日迄に固定したことは画期的なものです。四十九年のオイルショック

は雪まつり開催が危ぶまれるほどの出来事でしたね。



佐々木さん

林 雪輸送が大変な作業ですから、その難関をどう突破するかということですね。

西田 ご指適の通り自衛隊が一番苦労しますが雪の輸送なんです。新雪の白い雪がどうしても必要なんです。峠、丘、定山溪あたりから集めるんですが、普通の年でも大変な作業に加えて、オイルショックをモロに受けた二十五回雪まつりは万事休すといった状態でした。

菅 家庭用灯油でさえ見通しの立たない時に雪輸送のガソリンなんかは考えられないことだというわけです。役員が上京して大臣折衝に当たったりで、それなりの成果は得られましたものの満はいとはいかず、結局は雪の中にドラムかんを埋め込んで張りボテの大雪像を作ったりしましたね。

佐々木 大通、真駒内両会場の大雪像づくりに使用したドラムかんは八百本にもなりました。しかしいつ崩れてしまいか予想もつかず、雪まつりが終るまで警備が大変でした。

―全国には伝統的なお祭りも多くありますが、雪まつりは北海道だけに息づく異色なお祭りではないかと思えます。そのときどきでいろいろ曲折がありました。しかし三十年も続いて来たことは意味深いことではないで

しょうか。最後になりましたが、三十回記念の雪まつりに照準をあて、今後の方向を語ってみたいと思えますが――。

石上 今回の雪まつりは実行委員会、札幌市などで参加した人達の心に残る企画を考え、実施しました。

―テーマ大雪像を岡本太郎さん（洋画家）にお願いしてはという話しは実行委員会の方で昨年の春ころから出ていたものですね。

石上 そうです。全国から、また海外からもやって来る方々に雪まつりの印象を強くしてもらうために世界的にも著名な岡本さんに主要テーマをお願いしてはという話しは薩さん（司会者）の方から出され、検討を加えて参りました。岡本さんには予算面などで随分無理なお願いもし、心良く受入れていただきました。

久末 自衛隊を初めとして、市民の皆様からも力強い支持を受け三十回記念にふさわしい行事になったことを心から喜びとしているもの一人です。



松原さん

松原 今後の雪まつりは過去三十年間に築きあげた大きな土台を元に、さらに内容の充実を図るべく努力すべきではないでしょうか。

林 市民参加意識の高揚は目を見はるものがあります。今後はさらに細かい点まで気を配って、市民一人ひとりが雪まつりに参加しているという気持にまでもっていきたいものですね。

―初期・中期・後期に至る貴重な体験談を語っていただき誠にありがとうございました。

ぼくとわたしの雪まつり

〈雪まつり作文コンクールから〉



おどおりのゆきまつり

手稲東小一年 清水 弓芳子(現六年)

土よう日、ゆきまつりにいってきました。おとうさんがかいしゃにいらっているので、おかあさんと、いもうとと、わたしでいきました。バスにのって、いきました。バスをおりて見ると、ぼくしさんがあるいたので、おかあさんがゆきまつりにいくまえに「ゆきまつりのせつぞうのきょうかいで、だれかがけっこんしきをあげたぞうだよ」といっていたから、わたしは「やっぱりけっこんしきをあげたんだな」とおもいました。

一ばんさいしよに見たのはモナリザです。あまり人がいっぱいいたのでせつぞうがよく見えませんでした。かまくらには、はいりました。中にはあゆみのはこがありました。かまくらを出てとんど

んいくと、人がすくなくなってきました。見えなかつたせつぞうがだんだん見えてきました。

わたしが、一ばんすてきたなとおもったのはこおりでできたきょうかいと、ばしやです。きょうかいは、かいだんがあつて、ほんとうにのぼれます。のぼつてみたらテーブルとイスがありました。ばしやはシンデレラひめののるような、すばらしいばしやでした。こおりが、キラキラひかつて見えました。わたしは「のつてみたいな」とおもいました。

さいごにさるかにかつせんせのせつぞうがありました。わたしの、一ばんまつっていた、すべりだいでつしたのかなと、うしろを見ると、すべりだいがあつて見ると、いそいでいもうとといきました。のぼつて見ると、わたしのばんがきそうなき、よこからのぼつてくるわるい子がたくさんいました。わたしは「ずるいな」とおもいました。いつまでたつてもすべるばんがこないの、あきらめてかえつてきました。でも、たのしいゆきまつりでした。

こわしたくない雪像

中央小四年 下妻 泰

(現平岸中三年)

「おうい、鬼の顔が横になつてゐるぞう」友だちのだれかがさけんでゐる。「え、鬼だつて。ほんとだあ」近づいてみたら左目の所にいっすんぼうしが、勇ましく立っている。「ぼくはまけない」という題が

びつたりだ。先生の説明を聞いているうちに、すっかり感心してしまつた。それはろう学校の人たちの作品だから、ほかのどの作品よりもすぐりつぱに見えた。耳が聞こえないし言いたいことも言えない中学生たちがいっしょうけんめいに作つたことを知つた時、まるで気持が伝わつたようにかがやいて見えた。

雪まつりがはじまる前日に、四年生全員で雪像スケッチに出かけた日のことだ。「がいせん門」も「新幹線」も細かい部分までよく作られていたし、特に「さるかに合戦」はトラック二百五十台分の雪を使つて、千人以上の人たちが、二十日間もかかつた作品だけあつてすばらしい。さるがみんなにあやまつてゐる場面が、とてもなごやかで、よく見ていると、それぞれの動物たちの表情が豊かで、いつまでも見たいような大雪像である。「もうしません。ゆるしてください」とあやまつてゐるさる。「反省する気持があるんなら、それでいいんだよ」と、やさしく言い返すかに。「よくあやまつて、もう二度とくり返さなければ、それでいいよ」と、責任者のうすが、みとめてやつてゐるみたいだ。それに木までが「よかつたね。かにさん」と言つて喜んでゐるように見えるのだから、不思議だ。

「やっぱり大雪像はりつぱに見える」と思ひながら、ひとまわりしたあとに「ぼくはまけない」の小雪像を見つけた。それまでは大雪像ばかりに気が向いてしまつて、小雪像はふろくみたいと思つ

ていた自分はずかしくなっていました。学校に帰ってからも、とても気になった。「よし、またあとで見に行ってみよう」と思った。

札幌市で雪まつりをやるようになってから、今年で二十五回と言われている。北海道の冬は長いから、雪や氷を使ってみんなで楽しむために、始めたのだそうだ。だけど、ただ一つ残念なことがある。それは、せっかく苦労して作った雪像をたった五日間のおまつりでこわしてしまうことだ。

日が照ってだんだんとけて、みにくいすがたになってしまうので、さっさとかたづけろのさうろ。『まつりが終わっても、雪のある間、そのままにしておいてほしい』と、ぼくはやっばり思う



さいごの雪まつり

真駒内小二年 花山 智美

(現愛媛県・宮内小四年)

私は、もうすぐで四国へお父さんのしごとのつごうでてんきんしなければいけません。だから、この間の雪まつりがさいごなのです。すべりだいをすべってあそぶことも、せつぞうを見ることも、できないのです。私たちのなんじゅうばいもあるあの大きなせつぞうや、小さなかわいいくまや、まっち売りの少女や、なんだかそんなものの一つ一つが「キューン」とむねの中にとじこめられるように、さびしく思いました。

雪まつりの会じょうは、私のアパートのすぐちかくです。だから、雪まつりの間、毎日のようにぶたいにいって「もうこれがさいごだ」と思うといままでよりもなん回も、なん十回も、これからなん年ものぶんを、すべったり、見たりしました。それこそ、四国へいけば、雪など知らない人ばかりです。だから、四国へ行ったら、札幌のことや、雪まつりのことを、むこうの学校のお友達に伝えてあげたいと思います。

私は、これで雪まつりは、五回目です。でも、今年がやっばり一ばんかなしい雪まつりになりました。札幌にいても、毎年楽しみにしていた冬休みと雪まつりでした。雪がふって冬になると「早く雪まつりがこないかなあ」と、いつものしみにしていました。外国からも雪ぞうを作りにくる人や見にくる人で札幌の街はいっぱいになりました。

ろん内地からのおきやくさんもたくさんきます。

らい年も楽しみにしていたのに、お父さんのてんきんがにくいと思いました。もう雪まつりを見にくることも、雪のすべりだいをすべりすることもないと思うと、私の心の中に、大きな大きなおもいでだけがのこっていくみたいでとてもいやでした。雪まつりのテレビやしゃしんを見て、毎年二月になると、お父さんのぶたいであった雪まつりを、思い出すでしょう。

「さいごの雪まつりだ、さいごの雪まつりだ」と思うと、毎日いってすべったすべりだも、目にいっぱいやきついているたくさんのせつぞうもみんなみんななくなってしまうて、ぜんぶなにもかめが、ゆめだったらいいのにと、わけのわからぬいきもちになりました。そして、むねの中が「キューン」としめつけられるようになくなりました。

でも四国にかえたらみんなのお友だちに、雪まつりのつくっている時からあがりまでの、すばらしきものすごさを、話してあげることだけがたのしみです。じえいたいの門を出る時、一つ一つのせつぞうに「さようなら、大きくなったらまた、きつときます。さようなら」と心の中でおもいきりさけんでなみだがありました。なみだがこおって目がいたくてたまりませんでした。

(第三十回雪まつりには花山さんから懐かしい便りが寄せられ、そのなかで「機会があったら雪まつりを見に行きます」とありました。いつまでもお元気で。)

「雪まつり」

西野小六年 松田 玲子
(現西野中二年)

よし…ぎゅっと、手ぶくろをほめて、私は外へ飛び出していった。ちょうど雪だるま作りにぴったりの、しっとりとした雪が、私の頭に手に落ちてきた。目の前は一面雪にうずめつくされて全くの銀世界だ。小さな小さな雪の球をかためながら私は雪まつりのことを思いだした。

雪まつりは、私が生まれたころから、すでもうあって、札幌の冬にかかせない行事だ。札幌に住む色々な人々がそれぞれの思いや夢をこめて作る雪像。その雪像は、北海道、全国、そして外国までの人々の冬を楽しませてくれる。年々大々的な行事となり、私はうれしいうな、自分達のものでなくなるようさびしいような、ふくざつな気持ちだった。今年の雪まつりもそういう気持ちだったから、大きくてりっぱな西ごうさん、やまた



のおろち、キング・コングなどを見ても、その巨大さに見合うような感動はわいてこなかった。

ところが、一つ小さな雪像が私の目についた。雪だるまだ。小さめで、しかめつらをして、でもとつてもていねいに作ってあった。雪像の原点と説明板には、書かれていた。あまりにもあつさりとしたなつかしい姿のその雪像は、かえって目立ち、そのしかめつらは、だれもが子供のころからなじんできた顔だ。この雪だるまを作った人は、このしかめつらにどんな思いをこめたのだろう。球をころがして、小さな球からだんだん大きく大きく…小さな雪像に大きな夢を…。

ああ、注意してみると、本当にまあ、どの雪像もどの雪像も、ていねいに、見るだけで、その人の夢がわかるような感じがする。ああ、あれを作

った人は、子供に夢をあたえたいんだ。あの人は社会から悪をとりのぞきたいんだ。そして、雪だるまを作った人は、すべての雪像の原点、雪だるまにたちかえり、雪まつりそのものを反省しているんじゃないかな…？ なんだかうれしくなってきた。見る人に喜びと感動を与えてあげられるような雪像。札幌の市民のみなさん、来年もきっと大きな夢の雪像を私たちに見せて下さい。

札幌の市民が一人でも多く参加でき、それぞれの夢をだれとでも語り合う。来る人たちが、心から楽しく、笑い声と友情の生まれるような…そして様々な夢を表現した雪像と…そんな、より雪まつりらしい雪まつりに毎年、毎年近づいて行ってほしい。

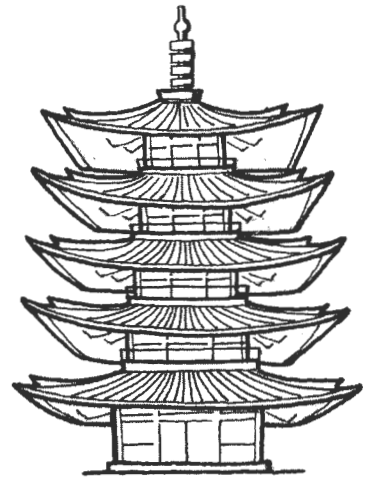
私とこの雪だるまの夢だ。さあ、私の雪だるまもうすぐできるよ。

ぼくのえがいたゆめの雪まつり

栄小二年 伊藤 正志(現三年)

「暗れたらいいなあ」…よ、もうやめ、もうふるな」ぼくは、四時間目のべんきょう中に、頭の中でこんなことばかり考えていました。お父さんが朝、ぼくに、小さな声でそっと「きょう、雪まつりにつれてってやるよ」と、いったからです。

雪まつりがはじまってから、毎日雪ふりが、つづいていました。「キーンコーン・カーンコーン」四時間目が終わりました。ぼくは、すぐまどから空を見上げました。やったぜ！空は、青空でした。



うれしくて走って帰りました。家では、おとうさんがぼくをまっていたいました。お母さんとおとうとは、るすばんです。

おとうとは、ぼくとおとうさんが、雪まつりにいくことを知りません。知ったら、たいへんです。「つれてってー」といいますからです。はじめに、おとうさんが家を出て、つぎにぼくがそと出ました。会場は、たくさんの人でした。大きな雪ぞうがならんでいます。ぼくは、その中で「ワシリー寺いん」がとっても気に入りました。こおりでできています。やねも、まども、とびらも、ぴかぴか光っていてりっぱです。「ワシリー寺いん」の前で、ぼくは、こんなことを考えました。

このまどが、楽しい音楽でひらいたらしいのに。このとびらも、音楽で、ひらいたらしいだろう。子どもたちが、自由にとびらをあけて、中へ入れたらしいのに。音楽も、男の子の時は、行しんきよくがいいなあ。女の子の時は、やさしいきよく

がいいなあ。

中に入って、こおりの家の中で、音楽をききなから、自由にあそべたら、どんなにいいだろう。外は、雪がふってつめたたくても、中は、きつとあたたかいだろう。そうしたら、ぼくのおとうとも、小さくて早く歩けないのだけれども、つれてこられます。休むところが、こおりの家ならば、よろこぶだろう。音楽でおどりだすだろう。来年は、ぜひおとうといっしょにこんな楽しい雪ぞうであそびたいと思います。

氷の五重の塔

北野小四年 山田 由美子(現五年)

「行こうかな。行かないかな」お母さんは、朝から何十回もくりかえしています。お母さんは、着物のぬい方をならっているのです、大変いそがしいのです。ようやく、夕方の六時すぎ、バスで行こうということになりました。

バスの中は、雪祭りの話でいっぱいです。町に入ると、道路は車でうまり、赤や青のネオンが、きれいに町を照らしています。そのネオンは、「雪祭りへようこそ」といっているようで、わくわくしてきました。

初めに、氷で作った小さな像を見ました。氷が電気に照らされて青白く光り、まるで刃物のようにするどく、細かい線まででいねいに作ってありました。雲からおりてきたような天使。大きな口を開け、今にも人を飲みこみそうなりゆう。草原

を勢いよく走る馬、心をこめて作った人たちの気持が伝わってくるようでした。終わりの方に五重の塔がありました。わたしは思わず「あ、五重の塔だ」と声をあげました。お母さんも見つけて、「あら、ほんとだわ」とおどろきました。

わたしたちは、今年のお正月に京都へ行ききました。そこで見た五重の塔は家を五こ重ねたようの下から見上げると、むかしの人が飛び出してくるのではないかと思われるほど古い塔です。

氷の五重の塔は、二メートル位の小さい物だったけれど、わたしが気にもかけなかった、まどごうしの一本一本までも見のがさないで作ってあるのに、おどろきました。氷の五重の塔を見ていると、京都でのいろいろな思い出が、頭の中にかんできました。京都タワーに登って見た京都の町。清水寺のまるい大きな屋根。三十三間堂の千一体のほとけ様を見たことなど…。お母さんが、「もういいかい、もういくよ」といって歩き出してもしばらく五重の塔を見ていました。

京都のお正月で残念だったのは、雪がふらないことです。わたしは京都の人たちに札幌の雪まつりを自慢したくなりました。

小さな氷の像を見て、わたしは、もう一度、京都に行ったような気持ちになりました。来年も、もっと楽しい雪祭りを見せてほしいなあと思ひ、鼻歌を歌いたような気持ちで雪祭りに「さようなら」をしました。

海を越えて——広がる国際親善の輪

いまや国際的な行事になった雪まつりだが海外交流のきっかけをつくったのは昭和四十一年、第十七回雪まつりに、北海タイムス社が世界十八カ国の大、公使をはじめ報道関係者八十人を招待したことであり、のちに札幌オリンピックによって世界へ紹介された。また市、実行委、札幌協が中心になって、雪像製作チームの海外派遣、国際雪像コンクールの実施、観光客誘致の海外キャンペーンと、本格的に世界への「目」を開き、定着させたのである。

ケベック(カナダ)での雪像製作

「明年二月二十二日から開催する国際雪像コン



北海タイムス社の招待で来札した海外の大、公使

クールに日本チームを派遣してほしい。旅費その他の経費は当方で負担いたします」こんな嬉しい話が昭和四十七年末に第二十四回雪まつり実行委員会に舞い込んだ。

朗報の主は、カナダ連邦ケベック州観光大臣のクロード・シマール氏と、同政府駐日代表ノルマン・ベルニエ氏で、ケベック市で毎年開催される「カーニバル・ド・ケベック」の行事のひとつである国際雪像コンクールへの招待であった。セントローレンス川の氷をかち割って繰り広げるカナダ一競技、アイスホッケー競技、雪ダルマや氷像の展示会、カーニバルの女王の選出など十日間にのぼる冬のイベントが行なわれているという。

初の海外招待の話、ケベック市とはどんなところか、百科辞典を引っぱり出してようやくカナダ東部、ケベック州の州都であり、人口約五十万人、八〇万がフランス系という輪郭がようやくわかってきた。実行委員会では協議の結果、カナダを熟知している札幌観光協会常任理事で、北海道振興

社長、久末鉄男氏(56)の了解を求め派遣団の团长とし決定したほかメンバーの人選を行ない団員に雪像造りの経験、二十年というベテラン三人高橋八郎さん(自衛隊第十一師団、42)、渡辺信さん(札幌工業高教諭、38)、三浦勝人さん(札幌市職員、26)を選んだ。

海外で日本人のすばらしい雪の芸術を見せてやるのだと張り切った一行は雪像をなににしようかと協議の末、歌舞伎狂言から取材して「鏡獅子」をつくることになった。四十八年二月二十日、CPR機に搭乗した一行はバンクーバ経由でモントリオールに入り、ここから陸路三百五十キロを車でケベック市に向ったのである。

コンクールは二十二日開幕、四日間開かれた。参加国はアメリカ、フランス、地元と日本の四チームの間で競われ、優勝はアメリカにさらわれて準優勝だったが、この発表に対して見物のカナダ人たちは一せいに「ブー」と不満の声をあげ「優勝はジャポ(日本)だ」と雪像の出来栄をたたえたという。「マイナス二十度をこえる寒さ、雪が氷のように堅く、札幌のきれいな雪と違い、ブルドザーで舗道の雪をさらってくるのだから泥あり、木片ありといったように作業はきつかった。優勝は逃したが、我々を賢えてくれたケベックの人々の拍手は忘れられない」と久末団長らメンバーは(こも)こも、語っていた。

久末団長らの帰国挨拶で「明年(四十九年)の第二十五回雪まつりから日本版の国際雪像コンクー

ルを開こう』という提唱により四十九年から大通り二丁目広場で第一回の国際雪像コンクールが開かれ、カナダ・ケベック州から選手団が参加したのをはじめフランス、ベトナム、アメリカ、大韓民国、日本の六チームが技を競い、結局カナダ・ケベック州チームが初優勝した。このときの日本チームは同年二月十四日から三日間行なわれたケベックのカーニバルに日本チームとして参加し、『熊と鮭』をつくったが、惜しくも優勝は逸した。

この時の団長は川端茂樹さん「旅館組合」、阿部賢二さん「NHK学園」、高智子さん「同」、五十嵐美子さん「同」。五十嵐さんは、雪像コンクールで知り合ったベトナム・チームのグエン・アントンさん（山梨工業大学留学生）と恋がめばえ、やがて結婚にゴールインした。

五十一年二月、第二十七回雪まつりに札幌から第三次の日本チームがケベックに派遣された。団長は雪まつりの総務委員長で、北海道観光事業社長の長井忠さん、こんどこそ優勝をーとメンバーは山本六年一曹（第十一師団通信大隊）、伊藤敏勝二曹（同対戦車隊）、最上昭造一曹（北部方面通信部）とオール自衛隊で編成した。作品はグリム童話集から、「白雪姫と七人のこびと」とした。

セントポールへ雪像製作使節団

一方、さっぽろ雪まつりの名声が上がるにつれてこんどは北米ミネソタ州セントポール市の『ウインター・カーニバル実行委員会』からの招待で

香港観光団

海外キャンペーンの候補地に札幌観光協会が香港を選んだ理由について提唱者の企画宣伝委員長、薩一夫さんは「距離的に近く、東南アジアで最も政局が安定し、海外への渡航が自由で、しかもサラリーマンでも機会があれば海外旅行をしている。こうした条件をみても雪を知らない亜熱帯の人々にとって必ず雪まつりは大きな魅力になる」と説明、理事会で承認された。

雪まつりを讃える

このため昭和五十年七月下旬、協会から光野英親常務理事が現地調査に派遣され、観光客誘致の可能性が裏書されたことから同年十月上旬、キャンペーンの第一陣、札幌市香港親善使節団が団長の中山大五郎協

会副会長など十人編成で出発、HKT A（香港観光協会）を表敬訪問した中山団長は、ジョン・ペイン理事長に、『国際雪像コンクールに香港も参加してはー』と進言し、ジョン・ペイン氏も『HKT A あげて協力しよう』と約束した。

十月二日、札幌協主催の雪まつりパーティーがヒルトン・ホテルで行われ、三百人の名士やエージェント、新聞放送などの関係者が参集、席上中山団長が『雪まつり

昭和五十三年一月十二日から堀北朋雄札幌市経済局長を団長とする一行七人の雪像製作親善使節団が渡米した。

一行は堀北団長をはじめいずれも大雪像造りの経験者。陸上自衛隊第十一師団の高木長芳一曹、中谷太一三曹、原野正三曹、北部方面総監部の須藤栄二曹、それに市立西陵中学校の多田紘一教諭。

へおいで下さい」と挨拶。五十年二月、このキャンペーンの効果があらわれ香港からの観光団は三百人にのぼり国際コンクール初参加の香港チームは「ジャンク」で初優勝した。『もし、キャンペーンが発達したら切腹もよかったが、当初の予想の三倍もきてくれた。こんな嬉しいことはない』と薩委員長。

五十一年秋には薩一夫団長以下メンバーは十四人。日本航空が後援し、香港、シンガポール、クアラルンプールの三都市でJALと共催のパーティーを開いた。翌年の香港からの雪まつり観光団は七百人に増加、五十二年春、今井道雄会長を団長に、板垣武四市長も加わり、メンバー十五人。HKT A と札幌観光協会の姉妹協会調印式が行なわれ、HKT A 主催のパーティー、札幌協主催の答礼パーティーで雪まつりのPRも行った。

五十二年秋、久末鉄男副会長を団長に、堀北札幌市経済局長らメンバー七人。日本航空が後援し、関係先への表敬訪問、招待パーティーが行なわれた。翌年、香港からの観光客はJALだけで五百五人、キャセイ航空その他を合わせると九百人にのぼった。

五十三年秋、平瀬徹也市助役を団長にメンバー九人。表敬訪問、JALの招待パーティーに出席、はじめて雪まつりを見た人々を招待して懇談会が開かれたのである。

参考出陳する大雪像は中国の名作「三国志」から取材した「趙雲と高覧」。高さ八尺、幅十三尺の大作に製作中、見物人は続々と押しかけ「ワンダフル」「ビュー」という嘆声をあげていたという。

セントポール市は州都で人口四十万人、稚内市と同じ緯度でカナダの国境に接する森と湖の美しい都市で、隣りのミネアポリス市（人口百三十万



国際雪像コンクールで制作中のカナダチーム

人」と街つづきの「ツイン・タウン」と呼ばれ、堀北団長は「札幌と小樽の関係に似ている」と語っていた。ノース・ウエスト・オリエント航空、スリーエム社、ノーザン・パシフィック鉄道、グレート・ノーザン鉄道の起点で機械、食肉工業など約一千の工場、ミネソタ州立大学などがあると
いう。

問題のウィンター・カーニバルは九十二年の歴史をもつ年間最大の行事。セントポールからカナダのウイニペグまで八百キロの平原に二百五十台のスノー・モービルが五日間、疾走する雄大なレー

スをはじめスキー、スケートなど屋内外で八十種目のスポーツ大会が開かれている。そこで札幌の雪像造りの技術を学びたいということから多田絃一さんは本隊よりひと足先に出発、現地で雪像造りの指導を担当した。会場はコマ・パークという市立公園、最低気温四十度という猛烈な寒さ、さらに会話の障害、加えて積雪十センチという雪量の少なさに雪あつめからはじまって苦勞の連続だったという。

こうして完成した大雪像のすばらしさは地元の新開三社、通信社二社、テレビ三社が連日記事掲載やフィルムを放映し、日本に対するイメージを押し上げた。

このため現地の日系人協会が急拠、総会を開きメンバーの在留邦人、ミネアポリス大学の留学生などが堀北団長ら一行を招待してパーティを開き「われわれ日系人に大きな誇りと自信を与えてくれた」と賞讃したという。

堀北団長は「セントポールの人々はあなた方の雪像造りの技術を我々が真似るまでにあと五、六年の実績と技術の研究に時間がかかるだろう。と舌を巻いていた」と語っていた。

札幌の国際雪像コンクール

さっぽろ雪まつりに「国際雪像コンクール」が登場したのは昭和四十九年の第二十五回から。大通り二丁目を会場に参加チームは遠来のフランスチームを筆頭にカナダ・ケベック州チーム、留学

生のベトナム・チーム、札幌に留学中のヤンキーガールのアメリカ・チーム、それに地元の韓国チーム、前述の日本チームで、六チーム。

初優勝はケベック州チームが民話からとった「セ・ラビロン（舟の櫂）」で、翌年の第二十六回は会場を三丁目に移した。参加チームは実力ナンバー・ワンのケベック州派遣の選手団をはじめ米軍横田基地の軍人でまとまったアメリカ・チーム、初出場はブラジル、オーストラリア、インドネシアの三チーム。再度の参加チームはベトナム、大韓民国、地元の日本チーム、あわせて八ヶ国。カナダ・ケベック州チームの「村の鍛冶屋」が二年連続の優勝だった。

五十一年（第二十七回）の第三回は三丁目で行なわれ、ベトナム・チームは戦火で祖国を失ない、姿を消し、大きな歴史の流れを証明した。カナダ・アメリカ、オーストラリア、インドネシア、ブラジル、韓国、日本のほかに西ドイツ、香港の「新顔」が加わり、九ヶ国にふえたが、栄冠は初参加の香港チーム（シエラトン・ホテル）が「ジャンク」で初優勝。香港チームは、大手ホテル二十社からそれぞれ氷彫刻のcockさんをあつめ、予選を行ない、その優勝チームが札幌へやってきた。

五十二年の第二十八回雪まつりで、国際雪像コンクールは十一丁目に会場を移し、ここを「国際広場」としてスタート。カナダ・ケベック州チームはつごうで不参加だったが、新しくマレーシア・チームが加わり、従来の顔ぶれ八ヶ国で技を競った。

アメリカ・チームの団長、バリー・ケリー大尉は前回のオーストラリア・チームの団員留学生のゲイル・セールさんと「雪まつりの恋」が芽ばえ結婚したが、思い出の雪まつり会場で純日本風の結婚式をあげたい、と実行委員会に申し入れてきた。南ベトナム青年に次ぐ二度目のロマンスだ。

このため実行委サービス委員長、林英夫さん（三井観光専務）の厚意で、パークホテルが新郎新婦の結婚衣裳、着付、お化粧一切を提供、国際広場で雪中の結婚式を挙行、内外の新聞、テレビが一斉に取材、にぎやかな国際色をくり開け話題となった。

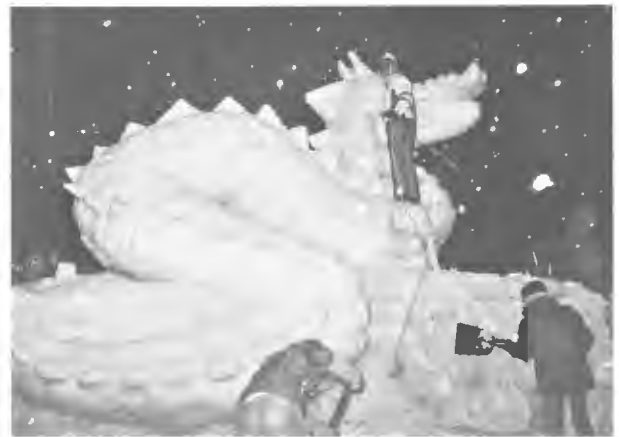
こうしたホットな出来事を背景にアメリカ・チームは「アメリカの鷲」を造り、見事グランプリを獲得、横田基地から飛来した司令官ジョン・C・レッド大佐を喜ばせた。

五十三年の第二十九回雪まつり、第五回の国際雪像コンクールは新たにイタリア、エルサルバドル・パキスタンが参加し、総勢十二カ国という史上最高のレコードをつくり、また各チームとも技倆がぐんと上がり、甲乙つけがたい出来栄えから審査委員も採点に苦労した。この結果、カナダ・ケベック州、アメリカ、香港の三チームが優勝し四カ月づつ優勝旗を保管するという苦肉の策も飛び出した。

そして第二十回の雪まつり、第六回国際雪像コンクールの参加チームは強豪、カナダ・ケベック州をはじめアメリカなど十チームとなった。

工業機三 農林中金

雪像をつくる若者



夜の製作(農林中金)



シンドバットの冒険(三機工業)

参加者には雪を知らない南国育ちの若者もいる。最初のうちは雪の造形を楽しんだ。だが二日たち、三日も過ぎると、楽しさだけではぎ折ってしまうことを知らされる。寒さに耐え、体力の限界に耐える一週間。転勤の多い二つの職場から製作者たちは全国に散った。だが二月が来るとみんなは雪まつりを思い出す。今年は何をつくったのだろうか――と。

「農林中金十二支の会」は十年以上もその年の干支を製作して来た。メンバーは毎年入れ変わるがだいたい延べ二十人。なかには女子職員も応援にかけつけたり、同僚たちが茶菓を持って激励にかけたりもする。「嬉しいのは思い通りに出来たとき、つらいのはやはり寒さでしょうか」と現在グループの中心になっている黒滝達夫さん。「でも転勤で去って行った先輩や仲間が雪の季節が来ると雪まつりを思い出すそうです」とニコリ。このチームの自慢は「第二回国際雪像コンクール」で日本代表に選ばれ「ゆきんこ」を製作、「ふるさと賞」を獲得したことである。

「いじわるばあさん」で会場を湧かせたり、「怪物くん」が三億円を見つけた雪像など、時代の風刺で笑いをさそう雪像製作の「十年選手」は「三機工業、三井軽金属加工親友会」。「何しろ一週間という制限が付いていますから職場が終了した後と日曜は会場へ直行するんです。年々上手になっていくというのが自慢でして、このぶんていくとあと十年もしたら、芸術家チームが出来てもいいかもしれませんよ」と笑う代表の岡部雄二さんだ。比較的札幌の人が多く、雪についてはいやというほど知識があるのがこのチームの強み。期間中ずっと見物して健在な姿を確かめてくるのが楽しみなのだという。しかし、製作中寒いことには、いくら土地っ子でも同じ。「夢中になって製作しているうちに手ぶくろもとって素手で雪像をつくっていることもある」という。

年を追うごとに盛んになってゆく雪まつり会場「市民の広場」―そこに自分達の手で雪像をつくる若者の姿が、自衛隊が製作する大雪像と対比的に人目をひく。「農林中金十二支の会」「三機工業、三井軽金属加工親友会」「グループも、随分以前から「市民の広場」に参加して若者の心をこめて雪像を展示し続けてきた。

■明るい冬の暮しを求めて

原田 興作さん
(前札幌市長)



「もう三十回になるんですか」―懐かしそうに微笑む。明るい応接室、戦後の札幌の復興に力を注ぎ、市民生活の向上を

ひたむきに願ってきた。「戦後の混乱から脱しきれず、誰れもが虚脱状態にあった」昭和二十四年、明るい生活を取戻す方策が各界各層のなかで検討された。

「当時私は助役で、市長は亡くなられた高田富与さんでした。何とか明るい生活を取り戻したいものだと考えていたら、そのころ観光協会の専従職員だった近藤直人さん(故人)など多くの人びとから、さまざまなアイデアが出され、私もまた、その相談を受けましたが、ふと思いついたのが昔、一中(南高)でやっていた雪戦会でした」

「しかし、当時は柔道や剣道まで禁止されていた時代ですから、雪戦会が出来るかどうかは非常に疑問がありました。そこで私が進駐軍に相談に参りましたところ、アメリカにも雪戦会のようなゲ



高松宮殿下を案内する高田元市長(中央・故人)

ームはあり、みんなが楽しんでいる。ゲームとして考えればいいのではないかと許可してくれたものです。それで二、三の高校の意向を打診しましたところ引受けてもらうことができなかった。まあ、当時の状況としては無理もないわけですが、そこで当時経済部長であった板垣現札幌市長と、雪戦会に替わって雪まつりをやってみようかとうかがと話し合っ、その方向に進むことになったのです」

さっぽろ雪まつりは、こうして二十五年二月にスタートした。また、町村金五現参議が知事だったところ、原田さんは雪まつりの実施についてその意向を打診した際「北海道の総合開発計画がいくらか進んでも、道民が従来通り雪に埋もれる生活を余儀なくされているようでは本当の意味の開発と

はいえない。夏も冬も元気で明るく働くようになるために、雪まつりのような冬の行事を実施することで景気づけるのも一策ですね」と、奨励の言葉ももらい、大いに意を強くしたものだとも語る。雪まつりは 大きく飛躍してきたが、原田さんはずっと、この雪まつりを見守ってきた人。「これからは全市の空き地を利用し、多くの市民が参加する雪まつりを」と結んだ。

(十月末、自宅応接室で)

■にぎやかに楽しい幕あけ

板垣 武四さん(札幌市長)



会の近藤さん(故人、当時参事務局長)をはじめ、若い職員全員がはりきっていた。大変だったけれども、にぎやかで楽しい

幕あけでしたな」と懐しそうに語る。

厳しい寒さに見舞われた初回。板垣市長は終日戸外に出て、高校生の手で作られてゆく雪像の進行を見守ってきた。だが、長グツの底からしみ込んでくるような寒さ。健康には自信があった市長だが、その状態が幾日も幾日も続くについに抗し

きれず、ついにカゼをひいて高熱を出してしまっ
た。「いまになって考えてみると、あとにも先に
も、その時ほど重症なカゼで寝込んでしまったと
いう記憶はなかった」ともいう。

さっぽろ雪まつりは、札幌市の暮しに明るさを
とり戻そうという人びとの情熱に支えられて今日
に至った。最初の中、高校生がつくる雪像を中心
に、各種の催しで花を添え、盛りあげてきた。ス
キー、スケートと冬のレジャーが盛んになり、観
光ブームが到来する。つれて雪まつりも盛大とな
り、オリンピックを一つの契機として国際色を強
めて来た。「海外からおいでになる方がたは雪ま
つりについていちように驚ろかれて帰られる。そ
れほど雪まつりが国内外での評価が高まったこと
でしょうか。初回当時は振り返ってみるにつけて
感無量のものがありますよ」という。

「最近の雪まつりは実行委員会の方がたを中心に、
自衛隊、一般市民のみなさんの強い支持をうけ盛
大になっている。こんな嬉しいことはありません」
三十回を迎えた「生みの親」板垣市長の言葉だ。

■ヒヤ汗流したできごと

薩 一夫委員長

〈実行委企画宣伝委員長〉

雪まつりの歴史のなかで重大な極面を迎えたこ
ともしばしば。「私が雪まつりに関係してからキ
モを冷した事件はいくつかありますが、そのうち
の一つが昭和四十八年、日本列島をおびやかした



雪像のシンになったドラムカン

石油危機の時でした」と語るのは薩委員長。主催
者側では、例年雪まつり開催一カ月前くらいから
準備にとりかかるのだが、四十九年の雪まつりに
ついても、雪輸送のガソリンくらいは何とか確保



委員長 薩

出来るだろうという見通
しのもとに作業を進めて
いた。ところが年が明け、
いよいよ雪輸送の時期を
迎える段になって、「必要
量は五十klだが、家庭用灯油さえ不足している状
況を考慮、せめて六割くらいは回してもらいたい」
と業者に申し入れた。

ところが「現在の深刻な状況下にあつては雪ま
つり用のガソリンは調達出来兼ねる」との返事。
雪まつりに欠くことの出来ない作業の一つが雪輸
送。近くに丘珠、真駒内方面、雪不足の年は中山
峠などかなり遠距離から輸送しなければ雪像は出

来ない。「現状を考えれば無理もない話なんです
が、暗い世相をはねとばすためにも雪まつりを実
施の方向へ持っていきたいと思いました」という。
あれこれ思案の末、薩委員長と観光協会の津田光
夫常務理事は通産省資源エネルギー庁へ出向いた
のだった。

一本当にワラにでもするような気持でした。島
本先生（島本虎三衆議院議員）に助力をお願いし
たり、いろいろな方にお世話になりました。今で
はなつかしい思い出ですが」と目を細める。結局、
最低必要量は確保され雪不足のところは雪像の中
をドラム缶などでおぎない、無事開催にこぎつけ
たのである。

■今後は雪の確保に全力

石上 良忠さん

〈札幌市観光部部長〉

「雨乞い」ならぬ「雪乞い」をしたいような気持で
した。しみじみ語るのは札幌市観光部の石上良忠
部長である。戦後間もなくスタートした雪まつり
は今回で第三十回。それを機にセントポール市の
スノーフェスティバルなど、世界の冬まつりを考
慮に入れ、遊びの要素を前面に打ち出した「見る
雪まつり」から、「参加する雪まつり」カラーを濃
くするなどいろいろな面に力を入れた。しかしさ
っぽろ雪まつりに内外観光客が期待を寄せるのは、
あまりにも有名になった大中各雪像群。とくに今
回は洋画家、岡本太郎氏のテーマ像「雪の女神」が

製作されるとあって早くから大きな期待がもたれてきた。

ところがかんじんの雪は日本列島四十数年来の暖冬異変で、元旦にわずかに降り積った雪も雨で流れてしまい。中山峠あたりまで足をのぼしても採雪は無理、大通、真駒内両会場に必要な雪量はトラックに五千台分。「観光部の職員が岩見沢、倶知安まで足をのぼして」ようやくかき集めたのが千三百台分、大通の大雪像四基を製作するのがようやく。「真駒内会場はもちろん、大通の市民の広場に当てる雪もなかった」とさんざん。しかも、雪のない大通公園にトラックで雪を運ぶともなれば、芝生がいたむとあって事務局側の神経はピリピリ。「雪がないのに雪まつりはどうなるのか」と部長専用電話のベルは鳴りつ放し。十日過ぎから気まぐれ陽気もようやく冬空。雪も降って主催者側にはまさに「恵みの雪」雪像は計画通り製作されたわけだが、「例年一月中旬過ぎには決してドカ雪があるのでそこから会期を一週間遅らせてはという意見も出たんですが、そうなるかと急に激に押し寄せる暖気の方が逆に心配になりましたね。しかし、雪輸送については、実行委の方はもちろんですが自衛隊の方の協力には頭の下りつ放しでした」という。「今後は雪の確保について早いうちから検討を重ねるべきでしょう」と話していた。



石上観光部長

対談

ボクたち「雪像バカ」

札工OB・それがいいたい



水間洋司さん(30)
〈木工芸製作〉
同

望月建さん(30)
〈金属工芸製作〉
〈西区小別沢〉

水間 「太陽とベガサス」あれがOBとしては第一号、記念すべき作品だった。

望月 そう、あれは代表作だなあ。OB旗が出来て、雪像の上に掲げた時、うれしかったな。あの年からだ、みんなの家庭から毎日おにぎりを作ってもらったのは。

水間 当番を決めて一回に六十〜七十個以上のおにぎりを作るのは大変な仕事だよ、おふくろたちには随分お世話になってるよ。

望月 家庭を持っていて人は奥さんが大変だ。おいしいおにぎりを沢山作れることが結婚の第一条件みたいなものだもの(笑)

水間 それに漬物の味。あれはそれぞれ違うものだね。まるで漬物品評会だよ。

望月 ところで資産集めも大変だよ。OBで出世している人を探したり、級友に泣きついたり。

水間 でも心良くカンパしてくれると、うれしいね、立派な雪像をつくらなくちゃと思うよ。

望月 とときどき旅行者や酔っぱらいと意気投合して一緒につくったり雪を運んでくれたり、ちゃん酒飲んだり、あれが楽しいね。カンパなども良くしてくれる。

水間 道外から来た人なんか、ものすごく喜んで、帰ってからお札の手紙やら沖繩産のカニの刺製なんかを送られて来たりして、これが本当の雪まつりなんだなあ、とつくづく思うね。

望月 要するにみんな「雪像バカ」なんだね。子供にも教えてずーっと続けていきたい。

望月 雪まつりも三十回。ボくら十四回参加した。

水間 そう、ほぼ半分参加して来たわけだ。

望月 高一の時は「牛若丸と弁慶」の「五条大橋」だったね、ボくらには専門に雪運び、先輩がやらせてくれたのは橋の欄干のくりぬき作業だけだった。

水間 あの時は雪まつりの意味もよくわからず、ただ一方的に渡辺信先生にやらされたって感じだった。でも二年になり、それぞれ責任を持たされて、三年になってからは、設計の段階からやらされると、もうすっかりおもしろくなった。

望月 卒業して二、三年はなんとなく九丁目広場に足が向いて、後輩にまかせておけなくてつい、手を出してしまっていたね。

■雪像製作は一般建築と同じ

竹山 政成さん(45)

〈自衛隊第十一師団一等陸曹〉

今まで手がけた作品は、どちらかといえば建築物が多かった。「製作行程は一般建築と何ら変わりありません。製図から始めるんですよ」という。いずれも十数坪におよぶ巨大な雪像である。土台からしっかりと作らなければ支えられないものではない。写真や模型と見比べると、素手で雪をこねている。願いは「見る人が楽しんでもらえるもの、そして雪がこんなに美しい造形になるといいことを知ってもらえれば嬉しいですね、これからも、私が札幌にいる限り続けていきたいと思えます」という。



竹山さん

らべながら細かい神経を使
って雪像は作られてゆく。
熊本県の出身。昭和二十
七年に自衛隊に入隊。



ワケ組みをして雪を固め形をつくる

幼いころの記憶に残る雪は南国独特の淡雪でいいものだった。三十五年上富良野の駐屯地に配属になったのが本道入りのきっかけ。青函連絡船から汽車に乗り替え海岸線を走った車中で「北海道は広いな」というのが実感だった。

家がすっぽりと雪に埋もれてしまう上富良野の冬。雪と寒さに慣れるために、竹山さんの隊では

隊員こそって戸外に出て雪ダルマを作った。雪像づくりのベテランと呼ばれる竹山さんの、これが雪との最初の出会いだった。ここでの生活は三年。

北熊本に一度戻って再び本道入りしたのが四十四年に札幌・真駒内駐屯地へ。さぼる雪まつりへの参加はこの年からである。現在は企画部門で活躍。製作中は若い隊員の指導に当たる。

つらいことはやはり寒さ「でも製作意欲が湧いてくると。いつの間にか手ぶくろもとってしまつて素手で雪をこねている」こともある。願いは「見る人が楽しんでもらえるもの、そして雪がこんなに美しい造形になるといいことを知ってもらえれば嬉しいですね、これからも、私が札幌にいる限り続けていきたいと思えます」という。

■楽しかった昔の雪まつり

中村 節子さん(71)

〈中央区南15西12〉

「雪まつりの第一回から第六回まで市商工課庶務係に勤務しておりました関係で、男子職員の手伝いをさせてもらいました」という中村節子さん。

「何ひとつとっても憶しい思い出ばかりなんです。と目を細め当時の思い出をたぐる。」

そのなかでも、今も記憶に鮮やかなのは、雪像をつくる高校生の姿である。「戦後間もない時代です。防寒着も今の様に暖かいものなどなかった。薄いアノラックや、オーバーコートを着て、軍手に長靴、そんないでたちで生徒達は一日中雪の会場で作業を続けていました」という。当時の雪像は雪を山のように積みあげ、踏み固め、さらに水をかけて凍らせ、彫刻していった。「生徒達のコートが水にぬれ、それが凍って腰のあたりにツララが出来てきます。とても寒そうで見えられませんでした、でもみんなはとっても元気でした。」

生徒たちに昼食やオヤツを運んだり、会期中は会場整理に当たったりもした。昼食のメニューは、天井が多かった。近くの旅館から天ぷらをもらって来て、天井にするのである。タレをたっぷりかけ、暖かいうちに食べてもらおうと、臨時の食堂を駆け回った。「みんなおいしいと何杯もおかわりをしてくれて嬉しかったですよ」と語る。

会場での迷い子の世話も中村さんの仕事だった。雑踏で親からはぐれてしまった子供たちを連れて来て舞台の上に立たせ、「親探し」をしたのだという。現在のように会場が広くないからそれで充分だったわけだ。親もそれと知っているから、わが子の姿を求めて舞台の上を探す。「あそこにお母ちゃんがいる」と舞台の上から観衆を見下して



初期の雪像と中村さん

叫ぶ子供「何だかわが事のように嬉しくなつて子供と一緒に親のところへ走つたものでした」という。

■雪まつりをアルバムに

奥野 八郎さん(58)
 〈江別市・江別太小校長〉

「二月の寒さが身にしみる年齢になりましたが、これからもずーっと撮影を続け、アルバムに雪まつりの歴史を残したいと思っています」と静かに語るのは、江別太小学校校長の奥野八郎さんである。もともとカメラマニアである奥野さんが、雪まつりに魅せられ、会期を待ちこがれて大通会場に姿を見せるようになってから十年以上になる。「雪の少い平取に生れたものですから、雪まつりにはとくに気持が動かされたともいえるのでしようか、最初のころは、冬のレジャーにこんな方法もあるんだと驚いてしまいましたね」という。

雪まつりのトリコになるまでは、主として被写体は風景が多く、夏の釧路へ、冬のウトナイ湖へ



アルバムを中に語り合う奥野さんと妻律子さん

とカメラを肩に愛車を走らせた。「でも雪まつりを見て、『北国の冬』がいろんな型で出て来ていることにまず感心した。雪像も立派ですが、それよりも毎日変る雪像周辺の趣きが楽しい。レンズを通してながめると、きのうの雪像の表情と今日のそれとは微妙に変化していることに気づくんです」という。札幌の二月は寒い。だが、雪の下にもう春の息吹が感じられることも事実である。その気象の変化をカメラは敏感にとらえてくれる。マニアでなければ味わえない喜びだ。

雪まつりの写真はアルバムに整理したものや、未整理のものも含めて一千点近い。時おり写真を見ながら奥さんの律子さん(57)と雪まつりの話にひと時を過ごす。「雪まつりは私の心の財産になりました」というのである。

■心がひきしまる雪まつり

伊藤 久美子さん(24)
 〈52年度ミスさっぽろ・白石区北郷1の8〉

「お友達にすすめられるままに、私もまた青春の思い出にと応募し、一年間札幌の行事に参加させていたでいて、やっぱり、何よりも思い出深いのは雪まつりです」と語るのは、五十二年度のミスさっぽろ、伊藤久美子さんである。スラリとした長身にちよつと地味なアイボリーのスーツがよく似合う。札幌を代表するにふさわしいさわやかな美人。代表に選ばれたことで、ハードな札幌の催事に東奔西走。「よくからだもった」と思うく



伊藤さん

らしいの多忙な毎日だった。そして一年間。青春の一ページを、自らの努力で綴り、今はOLとしての隠やかな日々。

「夏の行事は何となくウキウキするような楽しさがありました。雪まつりは寒さのためというところもあるんですが、ピンと心がひきしまつたような感じがありましたよ」と微笑む。それだけに、雪まつりの行事にたずさわる人たちの労苦が身にしみましたーとやさしい一言も忘れない。

将来は？の問いに、「普通の家庭の主婦になること」と大真面目。「でも、いくら結婚したからといって、何ごとも学ぶ心を忘れたくないと思います」ニッコリ。

■故人の意志を三十年史に

鎌田千鶴子さん(55)

〈北区新琴似十の八〉

「お客さんに頼まれて雪像の撮影を続けているうちにすっかり「雪まつり」ファンになってしまいました」——と語るのは札幌市北区新琴似十条八丁目、無職、鎌田千鶴子さん(55)。昭和三十年から五十年まで琴似で友人の渡辺良平さん(故人)と共同でDP屋を開業していたが、フィルムの場合、焼付けを頼みにくるお客さんのなかで「雪まつりの写真が欲しいのだが、雪像の撮影は素人ではなかなかむづかしい。店で撮影して売ってもらえないか」という依頼が多かった。このため、「渡辺さんが撮影し、現像、焼付けを私が手伝うかたちで毎年雪まつりの撮影を続けてきた」という。

二十五年にスタートした雪まつりは、三十年には自衛隊の大雪像が会場に姿を見せはじめたころ。もともとカメラマンの渡辺さんはその大雪像を中心に、高校生のコーラスや、ミスウインター撮影会を「撮影」するなど、雪まつりを通して北国の風物詩をカメラに収めた。

こうして年数を重ねるにしたがい、渡辺さんに雪まつりの歩みを本にまとめよう、という夢がふくらみ「ぼう大な数にのぼる写真をアルバムに整理しそのときどきの模様を書き綴る作業を始めた」のだという。しかし数冊のアルバムを残したまま渡辺さんは病気で亡くなった。その一冊には「第



アルバムを手に語る鎌田さん

九回の観衆は三十万人、第十回には五十万人を突破したといわれる——大通をセンターラインとして、札幌市は分断され、すべての交通はしゃ断される。このため会場を郊外の真駒内に分散することが検討された」とある。

雪まつりの正確な記録を残して置く事は必要だといい続けていた渡辺さんの志は、こうしてぎ折してしまい、その心はぼう大な資料とともに鎌田さんの手にゆだねられた。「故人の意志を三十年史のなかに少しでも生きたら……」アルバムを前に鎌田さんはそつとまぶたを押えた。

■北と南の友情いつまでも

内館 祐二さん

〈札幌市立二条小学校校長〉

「雪を知らない南国の子供たちにさっぼろ雪まつりを見る機会をつくってあげたい」と語るのは、市立二条小学校校長、内館祐二さん(58)。昭和三十

八年、第十四回雪まつりのとき、内館さんの担任だった市立緑丘小五年三組では鹿児島市立城南小学校の生徒と文通を交換し、北と南の友情を暖めてきた。そのなかの一人、下野陽子さん(城南小)が、上田明美さん(緑丘小)に寄せた便りのなかに「さっぼろ雪まつりを見たい」ということが書かれていた。

その話を聞いたクラスメートは、「みんなの力で下野さんを札幌へ招待しよう」と相談がまとまり、お年玉にもらった小遣いなどを各自持ち寄った結果、一万円余が集まった。



内館さん

内館さんはさっそくそれを持って全日空札幌支店に相談に向いたところ、当時の下野さんが往復出る航空運賃は二万円余と、みんなのお小遣いではとてもまかないきれない。事情を知った全日空では、「そういう話であれば航空運賃は会社で負担しましょう」ということになり、雪を知らない下野さんの来札が実現することになったものである。

緑丘小生徒たちの暖い歓迎を受け郡山清輝先生に引卒業されて札幌入りした下野さんは、「一面雪の札幌に「ワーツ」と喚声をあげる喜びよう。「私共のように雪の生活が当然と思っているものには考えられない感激なんですよ」と内館さん。会場の大雪像に手を触れ「本当に雪で出来てるの?」と小首をかしげ、全日程を終えた下野さんは、「こ



雪まつり会場を見物する下野さん(中央)と上田さん

の思い出はおとなになっても永久に忘れません」と別れの挨拶を残して機上の人となった。

内館さんは「札幌市をはじめ市教育委員会、各報道関係のかたがたには大変お世話になりました。招待した子供たちはもちろん、下野さんのみやげ話に熱心に耳を傾けたであろう城南小の子供たちの胸にも、さっぽろ雪まつりの思い出はいつまでも残ることでしょう。私自身教育者として、このうえない喜びでした」と回想する。

あれから十六年―当時のいたいけな小学生も成人し散りぢりになった。しかし、緑丘小と、城南小の交流は今なお続き、北と南の友情は続いているという。また、当時小学生の間に生まれたあのみ談に関係した人びとの胸にも、華やいだ冬の祭典の思い出とともに明るい一灯をともし続けていることは間違いない。

本誌製作に当りつぎのかたがたに写真・資料の提供をいただきました。厚く御礼申し上げます―編集委員会
(順不同)

北海道

国鉄北海道総局

北海道観光連盟

陸上自衛隊第11師団

陸上自衛隊北部方面總監部

北海道新聞社

北海タイムス社

毎日新聞北海道発行所

読売新聞北海道支社

朝日新聞北海道支社

(株)財界さっぽろ

北海道観光百景(株)

日本放送協会北海道本部

北海道放送

札幌テレビ放送

北海道テレビ放送

北海道文化放送

須田製版

(株)ユニ・フォト

(株)スタジオ・コム

ファッションモデルクラブ 麦

札幌市立図書館

札幌市教育委員会

ほかに小原政栄さん(札幌市東区北18東21) 鎌田千鶴子さん(同北区新琴似10の8) 下妻実さん(同豊平区平岸3の6) など市民多数のご協力をいただきました。

30年史編集委員会

編集委員長 薩 一 夫
(雪まつり実行委・企画宣伝委員長)

委員 石上良忠
(札幌市観光部長)

〃 石林 清
(札幌商工会議所専務理事)

〃 五十嵐 久 一
(元北海タイムス企画部長)

〃 大場 実
(北酒販常務取締役)

〃 中島 好 雄
(札幌振興公社社長)

〃 西田 秀 男
(元陸上自衛隊第11師団副師団長)

編 集 小野寺 京 子

あとがき

第三十回さっぽろ雪まつりは、数々の話題を残して終り、その模様も収録した三十年史をお届けすることができました。

雪まつりは札幌のみならず冬の北海道のくらしに、明るい光となつて定着した催しですが、第三十回というひとつの節目を迎えた今年は、長く人びとの記憶に残る記念行事として実行委員会では早くから検討を重ねてまいりました。三十年史刊行もその一環であり、雪まつりを生んだ市民の知恵と三十年の足跡を明確に記録し、まつりの原点を確かめることが今後、五十年、百年への道標になると思ふからです。

今回のまつりも雪不足のため担当者は遠く空知にまで雪探しに向き、輸送費に特別予算を組む覚悟をしたり、まつりの舞台裏ではいつもこうした労苦が繰り返されて三十年がたったということができます。今年も、後の降雪で危機は去り、スケジュールどおりに進行了しました。岡本太郎画伯デザインの雪の女神も完成、そのできばえを見て「素材は雪、私のデザインがどう変わつてもいい。それよりもみんなが子供の心にかえて騒げる雪まつりはすばらしい。世界のまつりだ」と語った言葉に感銘をうけました。

この稿のペンをとつた二月二日、原田與作前札幌市長の訃報に接しました。旧ろう二十五日の前札幌観光協会長、舟橋要氏の訃に続

く知らせに、しばし合掌するのみでした。

原田さんは四十七年の第十一回冬季オリンピックの札幌招致に成功、札幌を国際都市に仲間入りさせたことで忘れられない市長でした。オリンピックが契機で道路、下水道、地下鉄など快適な市民生活に欠かせない都市機能がいっきよに進み、いま雪まつりなどに海外からの客がきてもはざしくないだけの街の基礎がこのとき築かれたといつても過言ではありません。本誌に雪まつりの思い出を語つて下さつたのは昨年十月、不自由な筆談でしたが、本誌の発刊を心待ちしておられたことを遺族の方よりうけたまわりました。

舟橋さんも「アラアの王様を招待しよう」と、ときに奇抜なアイデアを出す、剛直なしかし人間味あふれる方でした。今はともに亡く、心からご冥福をお祈りいたします。

長いマスコミ生活と、企画宣伝委員長の立場にあるため三十年史編集委員長を仰せつかりましたが、実際の企画、取材、編集は小野寺京子を中心に、市観光部、観光協会、電通三陽印刷のスタッフで進め、私は忙しさにまぎれ、編さんには傍観のかたちで終始し、心から恐縮している次第です。資料収集などに多くの方のご協力を得ていながら、できあがつてみると不行届の点が多々ありますが、限られた期間の製作でありご寛恕下さるようお願い申し上げます。(薩)

昭和54年2月20日発行 定価2,000円(限定)

編集・発行 さっぽろ雪まつり30年史編集委員会
委員長 薩 一 夫

事務局 札幌市中央区北1条西2丁目札幌市役所内
札幌観光協会 ☎(011)211-3341(代)

協力 電通(株)北海道支社

札幌市中央区大通西5丁目 ☎261-5111(代)

印刷 三陽印刷株式会社

札幌市西区手稲東3北2丁目 ☎661-2311(代)

SAPPORO SNOW FESTIVAL SAPPORO SNOW FESTIVAL SAPPORO SNOW FESTIVAL SAPPORO SNOW FESTIVAL
SAPPORO SNOW FESTIVAL SAPPORO SNOW FESTIVAL SAPPORO SNOW FESTIVAL SAPPORO SNOW FESTIVAL
SAPPORO SNOW FESTIVAL SAPPORO SNOW FESTIVAL SAPPORO SNOW FESTIVAL SAPPORO SNOW FESTIVAL
SAPPORO SNOW FESTIVAL SAPPORO SNOW FESTIVAL SAPPORO SNOW FESTIVAL SAPPORO SNOW FESTIVAL
SAPPORO SNOW FESTIVAL SAPPORO SNOW FESTIVAL SAPPORO SNOW FESTIVAL SAPPORO SNOW FESTIVAL
SAPPORO SNOW FESTIVAL SAPPORO SNOW FESTIVAL SAPPORO SNOW FESTIVAL SAPPORO SNOW FESTIVAL
SAPPORO SNOW FESTIVAL SAPPORO SNOW FESTIVAL SAPPORO SNOW FESTIVAL SAPPORO SNOW FESTIVAL
SAPPORO SNOW FESTIVAL SAPPORO SNOW FESTIVAL SAPPORO SNOW FESTIVAL SAPPORO SNOW FESTIVAL
SAPPORO SNOW FESTIVAL SAPPORO SNOW FESTIVAL SAPPORO SNOW FESTIVAL SAPPORO SNOW FESTIVAL
SAPPORO SNOW FESTIVAL SAPPORO SNOW FESTIVAL SAPPORO SNOW FESTIVAL SAPPORO SNOW FESTIVAL
SAPPORO SNOW FESTIVAL SAPPORO SNOW FESTIVAL SAPPORO SNOW FESTIVAL SAPPORO SNOW FESTIVAL
SAPPORO SNOW FESTIVAL SAPPORO SNOW FESTIVAL SAPPORO SNOW FESTIVAL SAPPORO SNOW FESTIVAL
SAPPORO SNOW FESTIVAL SAPPORO SNOW FESTIVAL SAPPORO SNOW FESTIVAL SAPPORO SNOW FESTIVAL
SAPPORO SNOW FESTIVAL SAPPORO SNOW FESTIVAL SAPPORO SNOW FESTIVAL SAPPORO SNOW FESTIVAL
SAPPORO SNOW FESTIVAL SAPPORO SNOW FESTIVAL SAPPORO SNOW FESTIVAL SAPPORO SNOW FESTIVAL

SAPPORO SNOW FESTIVAL SAPPORO SNOW FESTIVAL

第30回さっぽろ雪まつり実行委員会